

一 蛾毎ニ小乳鉢ニ容レ蒸溜水少許ヲ加ヘテ能ク磨潰シ其ノ液ヲ顯微鏡ニ照シ微粒子ヲ發見シタルトキハ雛形第五號ノ有毒ノ印ヲ、微粒子ヲ發見セザルトキハ雛形第六號ノ無毒ノ印ヲ其ノ産卵區表面ノ空所ニ押捺シ其ノ臺紙ニ雛形第七號ノ原種検査合格ノ證印ヲ押捺ス

前項ノ検査合格證印ハ有毒卵ノ區ヲ除去シ若ハ除去セシメタル後之レヲ押捺スルモノトス

第十三條 蠶種検査法第八條第二項ノ検査ハ左ノ方法ニ據リ之ヲ行フ

蠶種一枚毎ニ其ノ全面ヨリ蠶卵凡ソ百粒ヲ取り之ヲ十等分シ其ノ一分毎ニ之ヲ小乳鉢ニ容レ苛性加里稀薄液少許ヲ加ヘテ能ク磨潰シ其ノ液ヲ顯微鏡ニ照シテ每鏡面微粒子ノ有無ヲ檢シ之ヲ發見スルコト四鏡面以下ノモノニハ蠶種臺紙ノ裏面ニ雛形第四號ノ製絲用種検査合格ノ證印ヲ押捺ス

第十四條 第五條第一號ノ検査發蛾ノ時期ニ迫ルモ蠶種検査員ノ臨檢ナキトキハ蠶種製造者ハ其ノ旨ヲ最寄警察官ニ申告シ検査ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 警察官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ最寄蠶種製造者中適當ト認メタル者二名ヲ選定シ警察官立會ノ上検査ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選定ニ當リタル者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 前條ノ検査ハ蠶種検査法第三條第四條ニ違背セスト認メタルトキハ雛形第二號ノ種蠶證明書二通ヲ製シ警察官ノ檢印ヲ受ケ其ノ一通ヲ検査請求者ニ付與シ他ノ一通ヲ所轄蠶種検査所ニ送付スヘシ

検査ヲナシタル掃殻ハ其ノ臺紙ノ裏面ニ自己ノ檢印ヲ押捺スヘシ

第十七條 蠶種製造者種蠶證明書ヲ毀損若ハ紛失シタルトキハ所轄蠶種検査所ニ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第十八條 蠶種製造者種蠶證明書アル繭ノ全部若ハ其ノ幾部ヲ賣渡シ買受ケ若ハ讓渡シ讓受ケタルトキハ受渡者連署ノ上種蠶證明書ヲ添ヘ所轄蠶種検査所ニ種蠶證明書ノ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第十九條 地方長官ハ蠶種検査所ノ位置及管轄區域ヲ定メ若ハ變更ヲナストキハ豫メ農商務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

蠶種検査所ヲ開始シ又ハ閉鎖スルトキ亦同シ

第二十條 第五條第三號若ハ蠶種検査法第八條第二項ノ検査開始期日ハ毎年九月一日以後トス

第二十一條 蠶種検査員ハ品行方正ニシテ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ地方長官之ヲ命スヘシ

一 農商務省蠶業講習所農務局舊蠶業試驗場又ハ農務局假試驗場蠶事部卒業ノ證書ヲ有スル者

二 農務局ノ檢定試験ニ及第シ其證書ヲ有スル者

三 地方長官ノ信認セル學校講習所傳習所又ハ試驗場ニ於テ蠶業ニ關スル學科ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スルモノ其他蠶業ニ熟達シ成蠶鑑査ニ精通セル者

第二十二條 地方長官ハ蠶種検査員ヲ命免シタルトキハ其都度農商務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

第二十三條 地方長官蠶種検査員ヲ命シタルトキハ雛形第八號ノ證票ヲ付與スヘシ

第二十四條 蠶種検査員證票ヲ毀損シ若ハ紛失シタルトキハ地方長官ニ届出テ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第二十五條 蠶種検査員證票ノ紛失ヲ届出テタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第二十六條 農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得タル學校講習所傳習所若ハ試驗場ニ於テ製造スル蠶種ハ蠶種検査法及本則ニ準シ検査ヲ行ヒ原種トシテ讓渡スコトヲ得

但此場合ニ於テハ該校所場名アル検査合格證印ヲ押捺スヘシ

第二十七條 地方長官ハ毎年五月十五日迄ニ雛形第九號ニ據リ前年度ノ検査成績ヲ農商務大臣ニ

ルトキハ受渡者連署ノ上種蠶證明書ヲ添ヘ所轄蠶種検査所ニ種蠶證明書ノ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第十九條 地方長官ハ蠶種検査所ノ位置及管轄區域ヲ定メ若ハ變更ヲナストキハ豫メ農商務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

蠶種検査所ヲ開始シ又ハ閉鎖スルトキ亦同シ

第二十條 第五條第三號若ハ蠶種検査法第八條第二項ノ検査開始期日ハ毎年九月一日以後トス

第二十一條 蠶種検査員ハ品行方正ニシテ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ地方長官之ヲ命スヘシ

一 農商務省蠶業講習所農務局舊蠶業試驗場又ハ農務局假試驗場蠶事部卒業ノ證書ヲ有スル者

二 農務局ノ檢定試験ニ及第シ其證書ヲ有スル者

三 地方長官ノ信認セル學校講習所傳習所又ハ試驗場ニ於テ蠶業ニ關スル學科ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スルモノ其他蠶業ニ熟達シ成蠶鑑査ニ精通セル者

第二十二條 地方長官ハ蠶種検査員ヲ命免シタルトキハ其都度農商務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

第二十三條 地方長官蠶種検査員ヲ命シタルトキハ雛形第八號ノ證票ヲ付與スヘシ

第二十四條 蠶種検査員證票ヲ毀損シ若ハ紛失シタルトキハ地方長官ニ届出テ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第二十五條 蠶種検査員證票ノ紛失ヲ届出テタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第二十六條 農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得タル學校講習所傳習所若ハ試驗場ニ於テ製造スル蠶種ハ蠶種検査法及本則ニ準シ検査ヲ行ヒ原種トシテ讓渡スコトヲ得

但此場合ニ於テハ該校所場名アル検査合格證印ヲ押捺スヘシ

第二十七條 地方長官ハ毎年五月十五日迄ニ雛形第九號ニ據リ前年度ノ検査成績ヲ農商務大臣ニ



報告スヘシ

第二十八條 第一條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
第二十九條 蠶種検査員監督ノ方法及検査實施ニ關スル手續ハ地方長官之ヲ定メ農商務大臣ニ報  
告スヘシ

第一號 蠶種掃立蛾數及製造豫算額屆

蠶種掃立蛾數及製造豫算額屆

春夏秋蠶ノ別	名	稱	原種掃立蛾數	製造豫算額	
				原種	製絲用種
何々々	何々々	何々々	何	何	何
何々々	何々々	何々々	何	何	何
何々々	何々々	何々々	何	何	何
何々々	何々々	何々々	何	何	何
計					

右及御届候也

年月日

地方長官宛

第二號 種蠶證明書 蠶一名稱毎ニ下付ス

第一號 種蠶證明書

郡市町村番地

氏名印

郡市町村番地

蠶種製造者 氏名

一 蠶 春蠶(夏秋蠶) 名稱 何石何斗何升何合  
右種蠶検査ニ合格セルコトヲ證ス  
年月日

道廳(府)(縣)蠶種検査員 氏名印

(又ハ道廳(府)(縣)蠶種検査所印)

(立會検査ノトキハ立會検査人ノ住所氏名印)

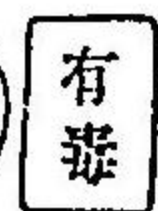
第三號 原種用印 陶形 黒 徑七分



第四號 製絲用種検査合格證印 陶形 長徑一寸五分 短徑一寸 陶色 朱



第五號 有毒印 長方形 陶色 黒 縱三分 横二分



第六號 無毒印 陶形 徑二分五厘 陶色 朱



第七號 原種用検査合格證印 陶形 徑一寸一分 陶色 朱













第十四條 入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ差押財産ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ハ公賣財産ノ見積價格百分ノ十以內ニ於テ適宜其ノ金額ヲ定ムルモノトス

第十七條 公賣財産ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ

第十八條 滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第十九條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十二號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

第一號書式

用紙適宜 縦四寸三分ノ二枚 横四寸五分ノ一枚 綴綴

(内並ニ印章ハ執モズ)

第「何」號	「何」年度	「何市町村」	「何」某「納
經 常 租 稅	「何」稅(項)	「何」年	「何」期「分
大 藏 省 主 管	「何」稅 務 管 理 局		
一金「何」程		「何」稅	
右明治「何」年「何」月「何」日限「何」金庫(又ハ「何」稅務署)納付 主任收入官吏「官」氏名「所」屬 分任收入官吏 「何」稅務署長 「官」氏 名「印			
明治「何」年「何」月「何」日			

領收證書

第「何」號	「何」年度	「何市町村」	「何」某「納
一金「何」程		「何」稅	
明治「何」年「何」月「何」日領收 「何」金 庫 印 (又ハ「何」稅務署長「官」氏名「印)			

金庫 割印

通知書

第「何」號	「何」年度	「何市町村」	「何」某「納
經 常 租 稅	「何」稅(項)	「何」年	「何」期「分
「何」稅務署長「官」氏名「扱			
一金「何」程		「何」稅	
明治「何」年「何」月「何」日領收 主任收入官吏「官」氏 名「取			
「何」金 庫 印			



備考

- 一 領收證書及通知書用紙ノ納入金額納入年度科目等ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス
- 二 金額ヲ數行並記シタルトキハ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノトス
- 三 酒造稅、自家用酒稅ノ場合ニハ、何年何月何日限、何年度何期分トアルヲ、何年度何期分トスルモノトス
- 四 稅務署ニ於テ徵收セムトスル場合ニハ通知書用紙ヲ要セス

第二號書式

用紙適宜 縦四寸五分 横三寸三分

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村「納
經 常 租 稅「何」稅「(項)」「何」年「何」期「分
大 藏 省 主 管「何」稅務管理局「何」金 庫 扱
一金「何」程「何」稅「(目)」
一金「何」程「何」稅「(目)」
右 通 知 候 也
主任收入官吏「官氏名」所屬 分任收入官吏 「何」稅務署長 「官」氏 名「印
明治「何」年「何」月「何」日

備考

- 一 一人別納額ノ通知ヲ要スル場合ニハ一人別納額調書ヲ添付スルモノトス但シ人員少キトキハ金額ノ左傍ニ記入スルモ妨ケナシ
- 二 市制町村制ヲ施行セサル地方ノ戶長ニ通知スル場合ニハ「何」年「何」月「何」日「何」市町村「納」トアルヲ「何」町村「分」トシ收入官吏ノ肩書ヲ爲サ、ルモノトス

第三號書式

用紙適宜 縦四寸二分 横三寸二分

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村「納
租 稅「何」稅「(項)」「何」年「何」期「分
一金「何」程「何」稅「(目)」
一金「何」程「何」稅「(目)」
計金「何」程
右「何」年「何」月「何」日限「何」役場「納付
明治「何」年「何」月「何」日
「何」市町村長「何」某「印
「又ハ」何町村戶長「何」某「印

割印

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村「納
租 稅「何」稅「(項)」「何」年「何」期「分
一金「何」程「何」稅「(目)」
一金「何」程「何」稅「(目)」
計金「何」程
明治「何」年「何」月「何」日限「何」役場「納付
「何」市町村長「何」某「印
「又ハ」何町村戶長「何」某「印

備考

- 一 市町村ニ於テ税金ノ取扱上必要ナルニ於テハ領收證書ノ外ニ適宜ノ別符ヲ付スルモ妨ケナシ



第四號書式

用紙適宜 横四寸五分ノモノ一枚 縦四寸五分ノモノ二枚 接續

「何」年「何」度「何」常「何」租「何」稅「何」稅「何」年「何」期「何」分  
大藏省主管「何」稅務管理局  
主任收入官吏「官」氏名「所」屬  
分任收入官吏「官」氏名「所」屬

「金」何「程」  
「金」何「程」  
右送付候也  
明治「何」年「何」月「何」日  
「何」市町村長氏名「印」

金庫  
割印

納 入 濟 書  
「何」年「何」度「何」年「何」期「何」分「何」市町村納  
「何」稅「何」稅  
「何」稅務署長「官」氏名「印」  
「金」何「程」  
「金」何「程」  
明治「何」年「何」月「何」日納入濟  
「何」金庫「印」

金庫  
割印

領 收 證 書  
「何」年「何」期「何」分「何」市町村納  
「何」稅「何」稅  
「金」何「程」  
「金」何「程」  
明治「何」年「何」月「何」日領收  
「何」金庫「印」

備考

一 納付濟書及領收證書用紙ノ納入金額納入年度科目等ハ總テ市町村ニ於テ記入スルモノトス

第五號書式

滞納者報告書

年 度	納期區分	科 目	稅 額	事 由	住 所 氏 名
「何」年度	「第何期」	「田 租」	「何」	「何」	「何」市町村長「何」某
計					

右報告候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」市町村長「何」某「印」  
(又ハ「何」市町村長「何」某「印」)

「何」稅務署長  
「官」氏 名「印」







第八號書式

用紙適宜 縦四寸五分ノモノ二枚 横四寸五分ノモノ一枚 接綴

納 大藏省 主管「何」稅務管理局 主任收入官吏「官氏名」所屬  
分任收入官吏「官氏名」扱

付 税金 國稅滯納處分費辨納金  
「何」 某

明治「何」年「何」月「何」日

金庫 割印

領 雜 收 入 辨 價 金 納  
「何」年 度 「何」市「何」町「何」村 某「納」

證 一金「何」程 國稅滯納處分費辨納金  
「何」 金 庫 圖

明治「何」年「何」月「何」日

金庫 割印

第九號書式

備考 一 領收證書及通知書ノ納入金額納入年度科目等ハ總テ納入ニ於テ記入スルモノトス

「何」年 度	「何」市「何」町「何」村	某「納」
經 常 雜 收 入 辨 價 金	「何」稅務署長「官氏名」扱	金
一金「何」程	國稅滯納處分費辨納金	
明治「何」年「何」月「何」日 領收		
主任收入官吏「官氏名」扱		
	「何」 金 庫 圖	

第九號書式 債權差押通知書

「何」府縣「何」市「何」町「何」村大字「何」何「番地」  
債權者 「何」 某  
「何」府縣「何」市「何」町「何」村大字「何」何「番地」  
債務者 「何」 某

徵收金額 一金「何」程

税金 滯納處分費 金「何」程

前記金額徵收ノ爲メ明治「何」年「何」月「何」日(併シテ「何」年「何」月「何」日)債務者ヨリ支拂フヘキ「何」金「何」程(又ハ金「何」程)ノ内金「何」程)差押フルニ付明治「何」年「何」月「何」日迄ニ本官ニ支拂フヘキモノトス



此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其ノ支拂ハ無効タルヘシ  
右通知候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」府縣何町村大字何何番地

備考

第十號書式

差押調書

「通貨」  
「何々」

「金」何租  
「何」枚

「何」府縣何町村大字何何番  
「郡村宅地何段何畝步」

「此地賃金何租」  
「此地租金何租」

「本地ハ何府縣何町村何某ヘ一箇年地代金何租ニテ何年何月何日ヨリ何箇年間貸與シアリ」  
(以下之ニ倣ヒ列記ス)

右ハ「何」府縣何町村何某「何」段「何」年「何」期「分」金「何」租「滯納」ニ付「何」月「何」日「本人」(又ハ「本人不在」ニ付同居家族何某)立會ノ上「何」府縣何町村何某「何」段「何」期「分」金「何」租「滯納」ノ財產ヲ差押フル者也

明治「何」年「何」月「何」日「何」所ニ於テ此ノ調書ヲ作ル

「何」稅務署

「官」氏名「印」

「何」府縣何町村大字何何番地

立會人 「何」某「印」

第十一號書式

送達書

「送達」ス「何」番名

一册

「右」使丁ヲ以テ「何」府縣何町村大字何何番地  
何某「送達」セシムル者也

受取人ノ	署名捺印
送達シタル	月日時場所
送達シタル	月日時場所
送達シタル	月日時場所

右致送達候也

使丁「何」某「印」

「何」稅務署長

「官」氏名「印」

刻印

送達書

「送達」ス「何」番名

一册

「右」使丁ヲ以テ「何」府縣何町村大字何何番地  
何某「送達」セシムル者也

受取人ノ	署名捺印
送達シタル	月日時場所
送達シタル	月日時場所
送達シタル	月日時場所

右致送達候也

使丁「何」某「印」

「何」稅務署長

「官」氏名「印」







〔參照〕

海軍省令第七號發射規則(明治二十九年四月十一日抄録)  
 第八條 凡テ艦船ハ爆發物ヲ積載セシ儘第一區内ノ棧橋及陸地ニ接シテ發射シ又ハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ碇泊スルコトヲ禁ス但領守府司令長官ニ於テ無害ト認定スルモノハ此ノ限ニアラス  
 第九條 小蒸汽船又ハ焚火シタル舢舨其ノ他總テ之ニ類似ノ火氣ヲ有スルモノハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ接近スルコトヲ禁ス  
 平港境域内ノ山林ニ於テハ溢リニ焚火スヘカラス  
 第十條 第一區ニ於テハ禮砲號報及領守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノ、外砲銃水雷其ノ他爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス  
 軍港境域内ノ陸地ニ於テハ溢リニ發射スヘカラス  
 ○海軍省令第十一號  
 佐世保軍港規則中左ノ通改正ス  
 明治三十年六月二十六日 海軍大臣侯爵西郷從道

第七條 領守府司令長官ハ艦船第一區内ニ入ラントスルニ當リ其ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトアルヘシ  
 第八條 凡テ艦船ハ領守府司令長官ノ特許アルモノ、外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ進入スルコトヲ禁ス汽罐點火中ノ小蒸汽船及其ノ他一切ノ火氣ヲ有スル船舶亦同シ  
 軍港ノ山林原野ニ於テ溢リニ焚火スヘカラス  
 第九條 軍港ニ於テハ禮砲號報及領守府司令長官ノ特許ヲ得タルモノ、外銃砲及水雷ノ發射其ノ他一切ノ爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス  
 陸上ニ於ケル公私ノ家屋ヲ距ルコト七十五間以内ノ海上ニ於テハ禮砲號報ノ類ト雖一切銃砲ノ發射ヲ爲スコトヲ禁ス

〔參照〕

海軍省令第八號佐世保軍港規則(明治二十九年四月十一日抄録)  
 第七條 凡テ艦船ハ爆發物ヲ積載セシ儘第一區内ノ棧橋及陸地ニ接シテ發射シ又ハ火藥庫ヲ距ル

百三十間以内ニ碇泊スルコトヲ禁ス但領守府司令長官ニ於テ無害ト認定スルモノハ此ノ限ニアラス  
 第八條 小蒸汽船又ハ焚火シタル舢舨其ノ他總テ之ニ類似ノ火氣ヲ有スルモノハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ接近スルコトヲ禁ス  
 軍港境域内ノ山林ニ於テハ溢リニ焚火スヘカラス  
 第九條 第一區内ニ於テハ禮砲號報及領守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノ、外砲銃水雷其ノ他爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス  
 軍港境域内ノ陸地ニ於テハ溢リニ發射スヘカラス  
 ○海軍省令第十二號  
 竹敷要港規則中左ノ通改正ス  
 明治三十年六月二十六日 海軍大臣侯爵西郷從道

第四條ヲ第四條甲トシ其ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
 第四條乙 要港部司令官ハ艦船海軍用地ヲ距ル五百間以内ニ入ラントスルニ當リ其ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトアルヘシ  
 第六條ニ左ノ一項ヲ加フ  
 陸上ニ於ケル公私ノ家屋ヲ距ルコト七十五間以内ノ海上ニ於テハ禮砲號報ノ類ト雖一切銃砲ノ發射ヲ爲スコトヲ禁ス

○農商務省令第九號

遠洋漁業船舶裝規程左ノ通相定メ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス  
 明治三十年六月二十六日 農商務大臣伯耆大隈重信

遠洋漁業船舶裝規程

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ其船體ノ構造遠洋漁業ニ適シ明治二十九年法律第六十七號船舶檢査法ニ依リ遠洋航船又ハ近海航船タルヘキ檢査證書ヲ有スルモノニシテ本規程ニ合格シタルモノニ限ル



第二條 遠洋漁業船ノ船體ハ總甲板ヲ有シ適度ノ荷足ヲ搭載シ得ヘキ構造ナルヲ要ス

第三條 遠洋漁業船ハ漁艇ノ搭載捕獲物ノ處理及貯藏ニ必要ナル場所ヲ設クヘシ

第四條 遠洋漁業船ニシテ火藥室ヲ設クルノ必要アルモノハ安全ノ場處ニ構造スルヲ要ス

第五條 遠洋漁業船ハ漁艇及捕獲物等ノ揚卸ヲ便ニスル爲メ之ニ適スル支柱、索具又ハ擲重器ヲ備フヘシ

第六條 遠洋漁業船ハ乘組總員ニ對シ一人ニ付一日少クモ二升ノ割合ヲ以テ三箇月分ヨリ少ナカラサル飲用水ヲ貯藏シ得ヘキ水箱又ハ水樽ヲ備フヘシ

但天水貯溜ノ裝置若クハ蒸溜器ノ備ヘアルモノ又ハ漁業ノ種類ニ依リ當該官吏ニ於テ本條ノ水量ヲ貯藏スルノ必要ナシト認メタルトキハ該水箱又ハ水樽ノ容積ヲ遞減スルコトヲ得

第七條 遠洋漁業船ニシテ其漁獵ノ方法漁艇ヲ要スルモノハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ

一 臘虎獸獵船 漁艇二隻以上

二 臘豚獸獵船 同 四隻以上

三 鯨獵船 同 二隻以上

四 右ノ外各種ノ漁船 同 二隻以上

前各號ノ漁艇ニハ每隻航海用具、羅針盤、信號喇叭及水樽ヲ備フルヲ要ス

第八條 遠洋漁業船ニ於テ使用スル漁獵具ハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ

第一 臘虎 臘豚獸獵船

一 銃殺獵法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付獵銃二挺以上及之ニ要スル彈丸、火藥、雷管等ヲ設備スルヲ要ス

二 投銃獵法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付網及竿ノ全備セル銃二挺以上トス

第二 鯨獵法

一 銃殺獵法ヲ爲スモノハ本船ニ銃砲二挺以上漁艇ニハ各一挺ニシテ之ニ要スル爆裂矢ハ銃

砲一挺ニ付各二十發以上トシ火藥雷管等ハ其割合ヲ以テ之ヲ設備スヘシ

二 投銃獵法ヲ爲スモノハ漁艇每隻銃四挺又ハ爆裂銃二挺以上トス

三 捕鯨網ハ銃砲一挺又ハ漁艇一隻ニ付麻網三百尋以上トス

第三 右ノ外各種ノ漁船

一 釣漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ

延繩漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付延繩千五百尋以上トス

手釣漁ヲ爲スモノハ漁夫一人ニ付手釣三具以上トス

二 網漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ

刺網漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付刺網百尋以上トス

其他網漁ヲ爲スモノハ網及附屬具ノ全備セルモノ一統以上及其修覆ニ要スル原料ヲ備フルモノトス

三 釣漁 網漁ヲ爲スモノニシテ餌料ヲ要スルモノハ其採取又ハ貯藏ニ必要ナル器具ヲ備フルモノトス

○農商務省令第十號

遠洋漁業獎勵法施行細則左ノ通相定メ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治三十年六月二十六日 農商務大臣 伯耆大隈重信

遠洋漁業獎勵法施行細則

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住居地又ハ船舶定繫場ノ管轄地方官廳ヲ經由シテ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ

一 登簿船免狀寫(臘虎、臘豚獸獵業ハ免許)

二 船舶檢査證書寫

三 船舶檢裝明細書



(イ) 甲板上ノ裝置  
 (ロ) 船内ノ區劃  
 (ハ) 屬具及船員室ノ配置  
 (ニ) 漁艇及漁獵具ノ種類負數  
 四 乘組員數  
 (イ) 漁獵長經歷書  
 (ロ) 船舶職員並水火夫以下員數  
 (ハ) 漁獵夫員數  
 五 漁獵目論見書  
 (イ) 漁獵ノ種類及方法  
 (ロ) 漁獵ノ場所及區域  
 (ハ) 漁業ノ時期  
 (ニ) 漁獲物處理法  
 第二條 農商務大臣ニ於テ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ検査ノ場所及期日ヲ定メ當該官吏ヲシテ其船舶ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ地方官廳ヲ經テ認許證書(書式第一號)ヲ本人ニ下付スヘシ  
 第三條 認許證書ヲ受有スル者遠洋漁業獎勵金ヲ受クル漁業ニ従事スルトキハ毎年一回船裝ノ検査ヲ受クヘシ  
 前項漁業ニ従事スルトキハ發着地寄港地及期日ヲ其都府農商務省ニ届出ツヘシ  
 第四條 認許證書ハ常ニ船内ニ保持シ當該官吏其他職權アル者ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第五條 認許證書ヲ受有スル船舶ハ農商務省ヨリ下付セル漁獵日誌ヲ備ヘ同日誌記載心得ニヨリ各事項ヲ記入スヘシ  
 第六條 認許證書ヲ受有スル者漁獵ノ種類漁獵ノ場所船體機關ノ構造及機裝並ニ乘組員數ヲ變更セントスルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但シ止ムヲ得サル事故ニ因リ認可ヲ請フノ暇ナクシテ變更シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ本條ノ手續ヲナスヘシ  
 前項ノ手續ヲ怠リタルトキハ認許證書ノ效力ヲ失フモノトス  
 第七條 認許證書ヲ亡失毀損シタルトキハ該證書ノ表面ニ記載スル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其再授若クハ書換ヲ出願スヘシ  
 第八條 認許證書ヲ受有スル者死亡又ハ破産シタルトキハ其遺族又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ  
 認許證書ヲ受有スル商事會社解散又ハ破産シタルトキハ其清算人又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ  
 第九條 認許證書ヲ受有スル者左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ直ニ認許證書ヲ返納スヘシ  
 一 船舶ヲ賣渡貸渡交換又ハ讓渡シタルトキ  
 二 漁獵業ヲ廢止シタルトキ  
 三 船舶ヲ喪失又ハ解撤シタルトキ  
 四 遠洋漁業獎勵金ノ下附ヲ停止セラレタルトキ  
 五 前數項ノ外遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ  
 第十條 認許證書ヲ受有スル船舶ハ發着ノ都府帝國ニ在テハ税關、税關支署、警察本分署又ハ浦役場外國ニ在テハ帝國領事館又ハ帝國貿易事務館ニ届出テ其證明ヲ請求スルコトヲ得  
 第十一條 明治二十年勅令第七十六號第一條ニ指定シタル漁獵又ハ同第二條ニ指定シタル場所



ノ漁業ニ從事シタル者ハ漁業終了後農商務大臣ノ指定シタル官廳ニ於テ當該官吏又ハ其他特ニ委任セラレタル官吏ヨリ船舶乘組員數ノ證明ヲ受クヘシ

第十二條 賣買交換又ハ讓渡ニ依リ認許證書受有ノ船舶ヲ取得シテ其事業ヲ繼續セントスル者ハ第一條ノ書類ニ其實質ニ對スル市町村長ノ證明書又ハ登記ノ謄本ヲ添へ農商務省へ願出テ更ニ認許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船舶ノ検査ヲ須井スシテ認許證書ヲ下附スルコトアルヘシ

第十三條 遠洋漁業獎勵法第八條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ船舶ニ乗組マシムルトキハ相當ノ待遇ヲ爲シ中途下船セシムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ止ムヲ得サル事故ニ因リ認可ヲ受クル暇ナクシテ下船セシメタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

遠洋漁業練習生ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 遠洋漁業練習生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長漁獵長ハ該練習生ヲシテ技術ヲ練習セシメ漁獵終了ノ後其狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十五條 遠洋漁業獎勵法第八條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命ジタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ報告スヘシ

第十六條 遠洋漁業獎勵金ヲ請求スルモノハ請求書(第二號書式)ニ遠洋漁業明細書(第三號書式)漁獵日誌及第十條第十一條ノ證明書其他漁獵ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル書類ヲ添へ之ヲ農商務省ニ差出スヘシ

第十七條 農商務省ニ於テハ前條ノ請求書及關係書類ヲ審査シテ遠洋漁業獎勵金ヲ下附スヘシ

第十八條 遠洋漁業獎勵法違反ニ關シテ起訴セラレタル者ニ對シテハ其裁判ノ確定スル迄遠洋漁業獎勵金ノ下附ヲ中止ス

第十九條 遠洋漁業ニ從事スルコト一回五箇月ニ滿タサルトキハ二回以上ヲ通算シ五箇月ヲ經過

シタルトキ獎勵金下附ノ請求ヲ爲スコトヲ得

漁業ノ期間一箇年以上ニ涉ルモノハ毎年度末ニ於テ之ヲ請求ヲ爲スヘシ

第二十條 天災其他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘスシテ其船舶ヲ外國人ニ賣渡交換贈與質入書入ヲナシタルトキハ船長又ハ所有者ヨリ其事由ヲ具シ農商務省ニ届出ツヘシ

第一號書式

認許證書		表			
第 號	所 有 者	汽 船			府 縣 市 町 村 名
		登 録 年 月 日	本 船 番 號	定 繁 場	
		製 造 年 月 日	登 簿 噸 數		

本船ハ遠洋漁業獎勵法ノ規程ニ適合シタルヲ認メ茲ニ此證書ヲ下附ス

農 務 省

年 號 月 日

機 裝 檢 査 之 證											
備 考	認 査 官 印	年 月 日	容 器	飲 料 水	人 員 組	支 付 及 他 具 器	火 藥 室	處 理 場	種 類	漁 獵 具	漁 獵 所







○逓信省令第十七號

海外電報ニ日本普通語ヲ用フルトキハ羅馬字ヲ以テ書載スヘシ但次項ノ場合ハ此限ニアラス  
本邦ヨリ朝鮮ニ發著スル和文電報ハ左記三項ノ規定ヲ除クノ外萬國電信條約及同附屬細目規則ニ  
依リ取扱フヘシ

一本邦ヨリ朝鮮ニ發著スル和文電報ハ片假名七字ヲ以テニ語トス其七字ニ滿サルモノ亦同シ

一本邦ヨリ朝鮮ニ發著スル和文電報ハ受信人ノ住所氏名ヲ本文字數ニ算入セス

一本邦ヨリ朝鮮ニ發著スル和文電報ニシテ本文ナキモノハ之ヲ取扱ハス

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

明治三十年六月二十六日

逓信大臣子爵野村 靖

○逓信省令第十八號

外國新聞電報規則左ノ通相定ム

明治三十年六月二十六日

逓信大臣子爵野村 靖

外國新聞電報規則

第一條 新聞社又ハ新聞通信者ヨリ新聞社又ハ通信社ニ宛テ本邦ト外國トノ間ニ送受スル定刊  
新聞紙ニ記載スヘキ事項ノ電報ハ此ノ規則ニ依リ新聞電報トシテ之ヲ差出シ又之ヲ受取ルコト  
ヲ得

第二條 新聞電報ヲ送受スヘキ地及料金ハ左表ニ依ル

地名	料	金
本邦 上海間	二十二錢	二厘
本邦 厦門間	三十一錢	四厘五
本邦 福州間	三十一錢	四厘五
本邦 香港間	四十錢	七厘
本邦 新嘉坡間	七十一錢	〇四厘
本邦 英領印度間	七十七錢	七厘
本邦 英國間	一圓六錢	九厘三
本邦 佛國間	一圓六錢	九厘三
本邦 佛國間	一圓六錢	九厘三
本邦 佛國間	一圓十五錢	六厘
本邦 佛國間	一圓十五錢	六厘

本邦 福州間	三十一錢	四厘五
本邦 香港間	四十錢	七厘
本邦 新嘉坡間	七十一錢	〇四厘
本邦 英領印度間	七十七錢	七厘
本邦 英國間	一圓六錢	九厘三
本邦 佛國間	一圓六錢	九厘三
本邦 佛國間	一圓十五錢	六厘
本邦 佛國間	一圓十五錢	六厘

第三條 新聞電報ハ受信者必ス其ノ電報ノ事項ヲ新聞紙上ニ登載セサルヘカラス

第四條 新聞電報ハ普通ノ英語ヲ以テ記載シタルモノニ限ル其ノ本邦ト清國上海トノ間ニ發著ス  
ルモノハ普通ノ邦語ヲ羅馬文字ヲ以テ記載スルコトヲ得

但數字又ハ文字ヲ以テ示シタル商標若ハ商號ハ普通語ト見做ス

第五條 新聞電報トシテ差出シタル電報ト雖當該郵便電信局電信局ニ於テ新聞電報ニ非スト認ム  
ルトキハ之カ取扱ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第六條 新聞電報ハ至急返信料前納照校受信報知及同文電報トナシ又ハ傳送配達上特殊ノ指定ヲ  
附スルコトヲ得ス

第七條 新聞電報ヲ差出サントスル者ハ豫メ新聞電報ヲ登載スヘキ在外國ノ新聞社又ハ通信社名  
及其ノ所在地名ヲ其ノ電報ノ發送ヲ依リセントスル郵便電信局電信局ニ届出ヘシ

新聞電報ヲ受取ラントスル者ハ豫メ其ノ發信者タル在外國ノ新聞社名及其ノ所在地名又ハ通信  
者ノ氏名住所ヲ其ノ電報ノ配達ヲ受クヘキ郵便電信局電信局ニ届出ヘシ

第八條 新聞電報ヲ受ケタル者ハ其ノ電報事項ヲ登載シタル新聞紙ヲ其ノ電報ノ配達ヲ受ケタル  
郵便電信局電信局ニ差出スヘシ

明治三十年六月 省令 逓信省第十八號 外國新聞電報規則



第九條 左ニ記載シタル所爲アルトキハ通常電報ニ訂正シ其ノ語數ニ相當スル料金ヲ計算シ不足額ヲ追徴ス但其ノ情狀ニ依リ六箇月以内ノ期限ヲ以テ新聞電報ノ取扱ヲ拒絶スルコトアルヘシ

一 此ノ規則ニ違背シ新聞電報ニ非サルモノヲ新聞電報ト爲シ之ヲ通信シタルトキ

一 新聞電報ヲ受ケタルモノ正當ノ理由ナクシテ其ノ電報ヲ次回發行ノ新聞紙ニ登載セサルトキ

第十條 新聞電報ハ通信輻湊ノ爲メ一般ノ電報傳送ニ妨ケアリト認ムルトキハ其ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 新聞電報ハ此ノ規則ニ定ムル事項ノ外總テ萬國電信條約及細目規則ニ據リ取扱フモノトス

附則

第十三條 本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

○遞信省令第十九號

海難其ノ他ノ事實届出ノ件左ノ通定ム

明治三十年六月二十六日

遞信大臣子爵野村 靖

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ニ掲グル事項ニ該當シタルトキハ當該船長、船長不在ナルトキハ代理者ニ於テ其ノ地若ハ爾後始メテ到着シタル地ノ船舶司檢所、同支所、警察署、警察分署、市町村役場若ハ浦役場外國ニ在テハ領事館若ハ貿易事務館ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

一 其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 人ヲ殺傷シタルトキ

四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ

五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

六 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 第一條各號ノ事項ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ其ノ所在地ニ於テ第一條ニ掲グル官廳若ハ公署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三條 第一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第四條 本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第五條 明治二十六年遞信省令第五號海難取調手續明治二十八年遞信省令第一號外國航海中海難届出手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○司法省令第十六號

裁判所書記試驗手数料ハ登記印紙ヲ用井試驗志願書ニ貼付ス可シ但志願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス

明治三十年六月二十九日

司法大臣清浦奎吾



○司法省令第十七號

岐阜地方裁判所管内美濃國山縣郡岩野田村、保戸島村ヲ岐阜區裁判所高富出張所ノ管轄トシ同國羽島郡正木村ヲ同區裁判所竹ヶ鼻出張所ノ管轄トシ同國武儀郡北武藝村ヲ同區裁判所上有知出張所ノ管轄トシ同國安八郡淺草村、多藝島村ヲ大垣區裁判所ノ管轄トシ同國不破郡綾里村ヲ同區裁判所垂井出張所ノ管轄トシ同國加茂郡久田見村ヲ御嵩區裁判所八百津出張所ノ管轄トシ同國惠那郡坂本村、笠置村ヲ同區裁判所大井出張所ノ管轄トシ登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治三十年七月一日

司法大臣清浦奎吾

岐阜			
那加美濃	笠松美濃	竹ヶ鼻美濃	美濃
稻葉郡ノ内 那加村 鷺沼村	稻葉郡ノ内 笠松町 柳津村 笠松郡ノ内 笠松町 柳津村 笠松郡ノ内 笠松町 柳津村	羽島郡ノ内 竹ヶ鼻町 上中島村	岐阜市 稻葉郡ノ内 加納町 南長森村 常盤村 上加納村 北長森村 鷺山村 三里村 厚見村 長良村 島村 日野村 鏡島村 市橋村 日置江村 方縣村
更木村 前宮村 各務村 蘇原村 岩村 芥見村	鷺村 佐波村 中屋村 上羽栗村 下羽栗村 八劍村 松枝村 川島村	福壽村 下中島村 小熊村 堀津村 足近村 八神村 正木村 駒塚村 江吉良村	



大垣	八幡						
	下洞	白鳥	北方	神淵	關	上有知	高富
美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃
安八郡ノ内 大垣町 墨俣町	郡上郡ノ内 和良村	郡上郡ノ内 川合村	郡上郡ノ内 八幡町 川合村	武儀郡ノ内 神淵村 坂之東村	武儀郡ノ内 關町	武儀郡ノ内 上有知町 下牧村 中有知村	山縣郡 山縣郡
結村 南杭瀬村	東村	北濃村	奥明方村 西和良村 口明方村 嵩田村	上之保村 菅田村	下有知村 富野村 吉田村	東武藝村 西武藝村 安曾野村 南武藝村 北武藝村 大矢田村 藍見村 洞戸村 上牧村 板取村	
川並村 名森村	牛道村	高鷲村	相生村	中之保村 下之保村	吉田村	富野村 富之保村 上座生村	
安井村 中川村	彌富村	高鷲村	相生村	下之保村	吉田村	富野村 富之保村 上座生村	
洲本村 下宮村			下川村	富之保村	吉田村	富野村 富之保村 上座生村	
三城村 南平野村			西川村	富之保村	吉田村	富野村 富之保村 上座生村	
			山田村	富之保村	吉田村	富野村 富之保村 上座生村	

岐阜							
御嵩	高須	高須	高須	高須	高須	高須	高須
美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃
加茂郡ノ内 西白川村	加茂郡ノ内 伊深村 宮田村	可兒郡ノ内 御嵩町 平牧村	揖斐郡 本巢郡ノ内 雁正村	不破郡 不破郡	養老郡ノ内 高田町 日吉村	海津郡ノ内 高須町	今尾郡ノ内 安八郡ノ内 今尾町 安八郡ノ内 福東村 養老郡ノ内 池邊村
東白川村	川邊町 上米田村 田原村	今渡村 廣見村 伏見村	鷺田村 川崎村		笠郷村 一之瀬村 廣幡村 養老村 時村	吉里村 東江村 大江村	海西村 御養村 仁木村
佐見村	下麻生町 下米田村	土田村 伏見村	川崎村		上多度村 牧田村	東江村 大江村	
蘇原村	山之上村 加茂野村	帷子村 兼山町	西根尾村		上多度村 牧田村	大江村	
黒川村	古井村 三和村	春里村 中村			下多度村 牧田村	西江村	
	蜂屋村 富岡村	姫治村 上之郷村			多賢村 多賢村	城山村	
	加治田村 坂祝村	久久利村			小畑村	石津村	



八百津	美濃	加茂郡ノ内 八百津町 可兒郡ノ内 錦津村	和知村	飯地村	福地村	潮南村	久田見村
多治見	美濃	土岐郡ノ内 多治見町 妻木村 可兒郡ノ内 小泉村	土岐津町 下石村 笠原村	肥田村 笠原村	駄知村	泉村	曾木村 鷺里村
土岐	美濃	土岐郡ノ内 土岐村	餘戸村	日吉村	稻津村	明世村	瑞濱村
中津川	美濃	惠那郡ノ内 中津町	苗木町	福岡村	落合村	坂下村	
大井	美濃	惠那郡ノ内 大井町 長島村	蛭川村 三郷村	中野方村	坂本村	東野村	竹折村 笠置村
付知	美濃	惠那郡ノ内 付知町	加子母村				
岩村	美濃	惠那郡ノ内 岩村町	上村	阿木村	本郷村	遠山村	鷺岡村
明知	美濃	惠那郡ノ内 明知町	陶村	吉田村	串原村	三波村	下原田村
高山	飛騨	大野郡ノ内 高山町 山之口村	久久野村	宮村	大名田村	丹生川村	清見村 上枝村

吉川	飛騨	吉城郡ノ内 吉川町	國府村	細江村	小磯利村	河合村	阪上村 阪下村
船津	飛騨	吉城郡ノ内 船津町	上寶村	阿曾布村	袖川村		
下呂	飛騨	益田郡ノ内 下呂村 三郷村	馬園村 小坂村	川西村	竹原村	上原村	中原村 下原村
莊川	飛騨	大野郡ノ内 莊川村	白川村				

○逓信省令第二十號

郵便電信電話用ノ印刷物時計及郵便用ノ麻布綿布若ハ革ヲ以テ製シタル器具類供給ノ競争ニ加ハ  
ラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ規定スル資格ノ外尙本令ニ定ムル資格ヲ備フルコトヲ要ス

逓信大臣子爵野村 靖

明治三十年七月一日

第一條 物品供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ競争入札加入ノ際二年以來引續キ左ノ區別ニ從ヒ  
毎年所得稅ヲ納ムルコトヲ要ス

- 第一 一口ニ付各自見積代金五千圓未満ノ場合ニハ三圓以上
- 第二 一口ニ付各自見積代金壹萬圓未満ノ場合ニハ五圓以上
- 第三 一口ニ付各自見積代金貳萬圓未満ノ場合ニハ拾五圓以上
- 第四 一口ニ付各自見積代金五萬圓未満ノ場合ニハ參拾五圓以上
- 第五 一口ニ付各自見積代金五萬圓以上ノ場合ニハ五拾圓以上

第二條 合名會社ニ在リテハ其社員ノ一人合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ一人ニ於テ第一條



ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第三條 株式會社ニ在リテハ其資本金第一條第一號第二號ノ場合ニハ壹萬圓以上第三號ノ場合ニハ貳萬圓以上第四號ノ場合ニハ五萬圓以上第五號ノ場合ニハ拾萬圓以上ノ拂込ヲ終リタル者タルコトヲ要ス

○逓信省令第二十一號

電信電話用鐵線鋼線銅線護線海底線電信器電話器交換器鐵管架空「ケーブル」地下「ケーブル」供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ規定スル資格ノ外尙本令ニ定ムル資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十年七月一日

逓信大臣子爵野村 靖

第一條 物品供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ競争入札加入ノ際二年以來引續キ左ノ區別ニ從ヒ毎年所得稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第一 一口ニ付各自見積代金五千圓未満ノ場合ニハ五圓以上

第二 一口ニ付各自見積代金壹萬圓未満ノ場合ニハ拾五圓以上

第三 一口ニ付各自見積代金貳萬圓未満ノ場合ニハ參拾圓以上

第四 一口ニ付各自見積代金五萬圓未満ノ場合ニハ七拾五圓以上

第五 一口ニ付各自見積代金五萬圓以上ノ場合ニハ百圓以上

第二條 合名會社ニ在リテハ其社員ノ一人合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ一人第一條ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第三條 株式會社ニ在リテハ其資本金第一條第一號ノ場合ニハ壹萬圓以上第二號ノ場合ニハ貳萬圓以上第三號ノ場合ニハ四萬圓以上第四號ノ場合ニハ拾萬圓以上第五號ノ場合ニハ貳拾萬圓以上ノ拂込ヲ終リタルコトヲ要ス

○逓信省令第二十二號

鐵道及廳舎ノ建築若ハ修繕工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ規定セル資格ノ外尙本年七月逓信省令第二十號ニ定ムル資格ヲ備フルコトヲ要ス

但北海道沖繩諸島小笠原島及海外ニ於テ競争入札ヲ執行スル場合ニハ當分ノ内本令ヲ適用セス

明治三十年七月一日

逓信大臣子爵野村 靖

○陸軍省令第十八號

明治二十七八年戰役ニ從事シ死歿シタル陸軍軍人軍屬雇員備人ノ遺族ニシテ軍人恩給法官吏遺族扶助法及明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ扶助料ヲ受クル資格ナキ者ニ特別賜金支給方左ノ通定ス

明治三十年七月二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

第一條 陸軍軍人軍屬及雇員備人ニシテ明治二十七八年戰役ニ從事シ公務ニ原因セスシテ死歿ニ原因シタルモノヲ除クシタル者ノ遺族並陸軍軍人軍屬ニシテ同戰役ニ從事シ公務ニ原因シテ死歿シタル者ノ内軍人恩給法官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ制規ノ遺族ナキ者ノ相續人又ハ血族ニハ本令ニ依リ特別賜金ヲ支給ス

第二條 前條公務ニ原因セスシテ死歿シタル陸軍軍人軍屬及雇員備人ノ遺族ハ死歿當時同一戸籍内ニ在ル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姉妹トス

但特別賜金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下順次此例ニ依ル

前條公務ニ原因シテ死歿シタル陸軍軍人軍屬ノ血族ニ特別賜金ヲ給スルハ相續人ナキ死歿者ニシテ死歿當時同一戸籍内ニ在ル者ニ限ル

第三條 此規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケントスル者ハ左ノ書類ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ願出ヘシ



- 一 願書 親族若クハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長若クハ之ニ準スル者ノ證明シタルモノ
  - 二 履歷書 所管長官ノ證明シタルモノ(軍人軍屬ニ限ル)
  - 三 兵籍寫 所管長官ノ證明シタルモノ(軍人ニ限ル)
  - 四 職務證明書 所管長官ノ證明シタルモノ(雇員備人ニ限ル)
  - 五 死亡證書若クハ死亡診斷證書 所管長官ノ下付シタルモノ
  - 六 戶籍調書 市町村長若クハ之ニ準スル者ノ證明シタルモノ
- 第四條 北海道廳長官府縣知事前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ陸軍大臣ニ上申スヘシ
- 第五條 陸軍大臣前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ其金額ヲ定メ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス
- 第六條 明治二十八年陸軍省令第二十號第四條第五條第六條第七條及第八條ハ本令ニモ之ヲ適用ス
- 第七條 本令ニ於テ雇員備人ト稱スルハ明治二十七年勅令第六十四號ニ該當ノ者ニ限ル

〔參照〕

明治二十七年九月八日勅令第六十四號ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍雇員、軍艦乘組員、官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其他陸海軍備人等ニシテ公務ノタメ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルトキ一時限手當金給與ノ件ナリ

陸軍省令第二十號(明治二十八年十月二十四日)抄録

第四條 特別賜金ヲ受ケルモノハ其請求書ヲ辭令書ノ交付ヲ受ケタル官廳ヲ經テ陸軍省ニ差出スヘシ

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書ヲ以テ交付シ五拾圓未満ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス

第六條 軍事公債證書ノ價格ハ總テ額面ヲ以テ算ス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ陸軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限りニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキ者死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ通報記名ノ變更ヲ陸軍省ニ願出ツヘシ

○海軍省令第十三號

明治二十七八年戰役ニ從事シ死歿シタル海軍軍人軍屬雇員備人ノ遺族ニシテ軍人恩給法官吏遺族扶助法及明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ扶助料ヲ受ケル資格ナキ者ニ對スル特別賜金支給ノ方法左ノ通定ム

明治三十年七月二日

海軍大臣侯爵西郷從道

- 第一條 海軍軍人軍屬雇員備人等ニシテ明治二十七八年戰役ニ從事シ公務ニ原因セスシテ死歿ニ原因シタルモノヲ除クシタル者ノ遺族並海軍軍人軍屬ニシテ同戰役ニ從事シ公務ニ原因シテ死歿シタル者ノ内軍人恩給法官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ受ケヘキ制規ノ遺族ナキ者ノ相續人又ハ血族ニハ本令ニ依リ特別賜金ヲ支給ス
- 第二條 特別賜金ヲ給スルハ左ノ區別ニ依ル
  - 一 戰地若クハ戰地ニアラサルモ戰役ニ關スル軍務ニ服シ公務ニ原因セサル傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死歿シタル者ノ遺族ハ死歿者ト同戶籍内ニアル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姉妹トシ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ給ス以下順次此例ニ依ル
  - 二 戰地若クハ戰地ニアラサルモ戰役ニ關スル軍務ニ服シ公務ニ原因シテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死歿シタル者ニシテ軍人恩給法官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ受ケヘキ資格ヲ有スル制規ノ遺族ナキトキハ相續人ニ給シ相續人ナキトキハ死歿者ト同戶籍内ニアル血族ニ給ス
- 第三條 特別賜金ヲ受ケントスル者ハ左ノ書式ニ依リ願書ニ附屬書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ死歿者下士卒ニ在テハ本籍所管鎮守府司令長官ニ送附シ其他ニ在テハ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第四條 鎮守府司令長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ海軍大臣ニ



進達スヘシ

第五條 戦地ニアラサルモ戦役ニ關スル軍務ニ服シタル者ノ區域並士官下士卒ニ準スヘキ職務ノ區分ハ明治二十七年海軍省令第十六號第五條第七條ヲ適用ス

第六條 明治二十八年海軍省令第四號第五條第六條第七條及第八條ハ本令ニモ之ヲ適用ス

書式(用紙美濃紙正副二通)

特別賜金願書

右何年何月何所ニ於テ傷疾ヲ及ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何所ニ於テ死亡致候就テハ明治三十年海軍省令第十三號ニ依リ特別賜金下賜相成度別紙證據書類相添此段奉願候也

元海軍何々所屬

何所何所何町何番地華土族平民  
 何所何所何町何番地寄留  
 故何官職氏名(或ハ死後ト同戸籍内ノ血族)

親戚氏名印  
 同氏名印  
 親戚ナキトキハ居住地ノ月主二名連署スヘシ

本籍市區(町)長 氏 名印

海軍大臣 齋藤氏名殿

前書ノ通相違無之候也

- 願書ニ附屬スヘキ書類
- 一 履歴書 明治二十七年六月以後ノ分
- 一 戸籍寫書 市町村長若クハ之ニ準シタルモノ、證明シタルモノ
- 一 負傷證書若クハ罹病證書
- 一 主治醫死亡證書若クハ死亡報告書

〔參照〕

海軍省令第十六號(明治二十七年十二月二十八日)抄録

- 第五條 勅令第六十四號第一條第二項ノ戰地ニ非ラサルモ公務ノ爲メ死傷シタルモノ、區域ハ左ノ如シ
  - 一出征事務ニ關シ戰地ニ往復スルモノ
  - 一出征事務ニ關シ使用スル船舶ニ從事スルモノ
  - 一戰備完成ノ艦艇ニ從事スルモノ
  - 一防禦事務ニ關シ其業務ニ從事スルモノ
  - 一臨時特設部所ニ關スルモノ
- 第七條 勅令第六十四號第三條第四條第五條ノ軍艦乗組員並ニ官用船舶ノ船員ニシテ士官下士卒ニ準スヘキ職務ノ區分ハ左ノ如シ
  - 士官ニ準スヘキモノ
    - 機關手心得者クハ見習
  - 航海科生徒
    - 水夫長
    - 機關科生徒
    - 卒ニ準スヘキモノ
  - 水夫
    - 火夫
    - 石炭夫
    - ランブ番
    - 小使
    - 料理人

- 船長
- 運轉手
- 機關手
- 事務長
- 下士卒ニ準スヘキモノ
- 運轉手心得者クハ見習
- 水夫長
- 事務員
- 通辨
- 大工
- 楫取
- 油差

- 海軍省令第四號(明治二十八年十月二十四日)抄録
- 第五條 特別賜金ハ軍事公債證書額面ヲ以テ交付シ五拾圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルトキハ一通報ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ
- 第六條 特別賜金ハ總テ所管地方廳ヲ經テ支給ス所管地方廳ハ適宜之ヲ本人ニ交付シ其受領書及調印シタル貯金預入申込書ヲ海軍省ニ送付スルモノトス
- 第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ海軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限りニシテ價格ハ額面ニ代ル
- 第八條 特別賜金ヲ受領スヘキ者死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添ヘ通報記名ノ變更ヲ海軍省ニ願出ツヘシ



○陸軍省令第十九號

明治二十三年陸軍省令第十號陸軍給與令細則旅費ノ部中左ノ通改正ス

明治三十年七月三日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

第七條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但甲地ニ於テ直ニ丙地ニ赴クヘキ命アルモノハ甲丙間定則ノ旅費ヲ給ス

同條第二項中「停職」ノ下ニ「豫備役後備役」ノ六字ヲ加フ

第八條第一項ヲ左ノ通改ム

營外居住ノ下士以下營内居住ノ職務ニ轉シ赴任スル旅費ハ營外居住者ノ例ニ依リ營内居住ノ下士以下營外居住ノ職務ニ轉シ赴任スル旅費ハ營内居住者ノ例ニ依ル營内居住ノ下士以下赴任ノ際他ノ公務ヲ帶ヒ旅行セシムルトキ亦同シ

第九條但書中「准士官以上及營外居住ノ下士以下」ニ在テハ「宿舍料ヲ除クノ外」ノ二十七字ヲ削ル

第十一條中「及復習」ノ三字並但書中「宿舍料ヲ除クノ外」ノ八字ヲ削ル

第十五條中「屬員」ノ下ニ「又ハ其演習實視見學ノ爲メ出張ノ者」ノ十六字「實費支辨ス其ノ下ニ見學者ヲ除クノ外」ノ八字ヲ加フ

第十七條中「及復習」ノ三字ヲ削リ第四項ヲ左ノ通改ム

四 憲兵隊所在警察區内旅行者但其警察區外ニ跨ルトキハ總テ本令第三十二表ニ依ル

同條中第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

五 巡察將校下士巡察ノトキ

第十八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但陸軍里程表ニ掲ケサル地ニ在テハ總テ郵便線路圖ニ依リ陸軍里程表ニ掲ケル經路ヲ順路トナ

又該圖ニ掲ケサル里程ハ地方官衙若クハ公署ノ證明セル里程ニ依ル

又該圖ニ掲ケサル里程ハ地方官衙若クハ公署ノ證明セル里程ニ依ル

又該圖ニ掲ケサル里程ハ地方官衙若クハ公署ノ證明セル里程ニ依ル

第二十二條第三項中「旅行ヲ命スルトキ」ノ下ニ「及公務ヲ帶ヒ歸應ヲ命スルトキ」ノ十四字ヲ加ヘ「同表」ノ三字ヲ削ル

第二十四條中「場合ニ依リ」ノ下ニ「旅行ノ全部若クハ一部ニ對シ」ノ十三字ヲ加フ

第二十五條 刪除

丙表備考第一項中「下副官」ノ上ニ「特務曹長憲兵上等伍長」ノ十字ヲ加ヘ又第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

三 北海道陸路旅行ニ限リ車馬料ハ戊表ニ依ル

戊表ヲ左表ノ通改ム

名 稱		區 別		北 海 道 車 馬 料	
名	稱	區	別	月 迄 一 里 毎	年 三 月 迄 一 里 毎
將 官	同 官	一 等	上	十 錢	三 十 錢
上 長	官 同	二 等	上	十 錢	三 十 錢
士 官	官 同	三 等 以 上	上	十 錢	三 十 錢
准 士 官	官 同	六 等 以 下	上	十 錢	三 十 錢
下 士 官	官 同	補	上	十 錢	三 十 錢
兵 卒	判 任	官 同	上	十 錢	三 十 錢
			下	七 錢	六 錢
			兵 卒	七 錢	五 錢

〔參照〕

陸軍省令第十號陸軍給與令細則第九章旅費(明治二十三年四月一日)抄録

第七條 本令第七十條赴任ノ者甲地ヨリ乙地ヘ著ノ上命課及配附取扱ニ據リ更ニ丙地ニ赴クトキ其乙丙間ハ本令第三十三



裝中ノ雜費ヲ給セス  
休職停職ノ者就職任地ニ赴クトキ旅費及移轉料ノ計算ハ本籍地ヨリ其新任地マテノ里程ニ依ル但他ニ寄留ノ者ハ其寄留地ヨリ之ヲ計算ス

第八條第一項

本令第七十四條第一項營内居住下士以下營外居住ノ職務ニ轉シ赴任ノ際他ノ公務ヲ帶ヒ旅行セシムルモ旅費ハ本令第三十五條ニ依リ支給スヘシ

第九條

本令第七十七條第一項ノ旅費及第二項ノ宿舍料ハ其定額内ヲ以テ實費支辨スヘシ但准士官以上及營外居住ノ下士以下ニ在テハ宿舍料ヲ除クノ外時宜ニ依リ定額ヲ以テ支給スルコトヲ得

第十一條

本令第七十八條荷物運送費ハ實費支辨シ又馬丁ノ旅費ハ其定額内ヲ以テ實費トス其演習及復習ニ係ルモノハ總テ演習及復習費ニ屬ス但馬丁ノ旅費ハ宿舍料ヲ除クノ外時宜ニ依リ定額ヲ以テ支給スルコトヲ得

第十五條第一項

將校演習旅行ノ爲メ上長官士官召集ヲ命スルトキ及其統裁官補助官屬員ハ該所管ヨリ將校演習旅行地ニ赴クハ其旅費往返ハ本令第三十二條ノ旅費ヲ給ス作業中其旅費日額ハ日數ニ應シ甲表ノ金額ヲ給シ若シ舟車馬ヲ要スルトキハ實費支辨ス其費用ハ總テ演習費ニ屬ス

第十七條

左ノ各項ニ該ル者ハ丙表ノ旅費ヲ給ス但時宜ニ依リ定額内ヲ以テ實費支辨スルコトヲ得

四 警兵隊其管轄内旅行ノ者

但其管轄地外ニ跨ルトキハ總テ本令第三十二條ニ依ル

第十八條

差遣巡回出張及赴任歸郷旅行ノ経路ハ陸軍里程表ニ依ルモノトス

第二十二條第三項

請願休暇旅行中公務ヲ命スルトキハ公務日數間ハ本令第三十二條ノ日當ヲ給シ又其公務ノ爲メ旅行ヲ命スルトキハ同表ノ旅費ヲ給ス

第二十四條第一項

差遣巡回出張等ノ節官有又ハ借入雇入ノ舟車馬ニテ旅行シ若クハ本令第六十五條但書ノ場合ニ依リ特ニ汽車料船船料車馬料ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ日當ノミヲ給ス

第二十五條

本令第三十二條末文ノ第三項及第三十三條末文ノ第二項ニ據リ車馬料ノ附給ハ丙表ノ金額ヲ給ス

○大藏省令第十一號

明治二十三年九月 大藏省令第二十二號 稅關及稅關支署臨時開廳及貨物積卸特許手数料左ノ通改正シ

本年八月一日ヨリ施行ス

明治三十年七月五日

大藏大臣 伯耆松方正義

稅關平日臨時開廳特許手数料

一 午後四時ヨリ同六時マテ

一 午後四時ヨリ同十二時マテ

一 午後四時ヨリ同十二時ヲ過ルトキ

一 日出ヨリ午前十時マテ

一 但前日ヨリ引續キ開廳ノ場合ハ此限ニ在ラス

稅關休日臨時開廳特許手数料

一 午前十時ヨリ午後四時マテ

一 午前十時ヨリ午後六時マテ

一 午前十時ヨリ午後十二時マテ

一 午前十時ヨリ午後十二時ヲ過ルトキ

一 日出ヨリ午前十時マテ

一 但前日ヨリ引續キ開廳ノ場合ハ此限ニ在ラス

稅關平日貨物積卸特許手数料

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ

一 日出ヨリ日出マテ



- 一日出ヨリ日没マテ 每一時間 貳圓
  - 一日没ヨリ日出マテ 同 參圓
  - 税關支署平日貨物積卸特許手数料 每一時間 壹圓五拾錢
  - 一日没ヨリ日出マテ 同 壹圓
  - 一日出ヨリ日没マテ 每一時間 壹圓
  - 一日没ヨリ日出マテ 同 壹圓五拾錢
- 本令ノ特許手数料ハ船舶一艘毎トニ之ヲ徴收ス

○文部省令第九號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程第十二條第二項「徴收ス」ノ下ニ「但學資ヲ支給スル場合ニ於テハ此限ニアラス」ノ二十字ヲ加フ

明治三十年七月六日

文部大臣侯爵須賀茂韶

〔參照〕

文部省令第十一號高等師範學校規程(明治二十七年四月六日)抄録  
第十二條第二項  
專修生ハ授業料ヲ徴收ス

○逓信省令第二十三號

電話交換規則第十五條ニ掲クル電話料ハ大阪堺間京都堺間及神戸堺間ニ於テハ各一通信時金拾五錢ト定ム

明治三十年七月七日

逓信大臣子爵野村 靖

〔參照〕

逓信省令第七號電話交換規則(明治二十三年四月十九日)抄録  
第十五條 電話所ニ到リテ電話通信ヲ爲スモノ及加入者ニシテ他ノ市町ノ加入者又ハ其電話所ニ到ル者ト電話通信ヲナス者ハ逓信省ニ於テ別ニ定ムル電話料ヲ左ノ規定ニ據リテ納付スヘシ但加入者ニシテ其市町内ノ電話所ニ到ルモノト電話通信ヲナス場合ハ電話料ヲ支拂フヲ要セス  
一 電話所ニ到ルモノハ郵便切手ヲ以テ電話料ヲ其電話所ニ納付スヘシ  
二 加入者ハ通貨ヲ以テ其月分ノ電話料ヲ翌月十日迄ニ電話交換局ニ納付スヘシ

○逓信省令第二十四號

明治二十九年五月逓信省令第八號私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則左ノ通改正ス

明治三十年七月八日

逓信大臣子爵野村 靖

私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則

- 第一條 此ノ規則中電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用フル金屬線ヲ謂フ
- 第二條 此ノ規則中電路ト稱スルハ發電機、電線其ノ他ノ器具、大地等電流ノ通過スル一全路ヲ謂フ
- 第三條 此ノ規則中低壓ト稱スルハ直流法ニアリテハ六百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三百實效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ
- 高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニアリテハ三千五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三千五百實效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ
- 特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過セル電壓ヲ謂フ
- 第四條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流法ニシテ其ノ電壓ハ六百「ヴォルト」以下ナルヘシ但シ六百「ヴォルト」以上ノ電壓又ハ交流法ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 特別高壓電氣ノ使用ハ特種ノ保安裝置ヲ爲スモノニ限り逓信大臣其ノ土地ノ狀況ニ依リ許可スルモノトス



第六條 逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スルコトヲ許可セサルコトアルヘシ

第七條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ増スコトナク且絶縁物ニ變化ヲ顯ハササルモノタルヘシ

第八條 各電線ニハ完全ナル安全器ヲ備ヘ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ溫度ヲ増サシムヘカラス

第九條 架空電車線ノ太サハ直徑二分五厘以上ニシテ極メテ強硬ナル線條ヲ用フヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十條 架空電線ハ電車線ヲ除ク外總テ絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外装シタルモノタルヘシ

第三百「ヴォルト」以上ノ電壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ適當ナル絶縁物ヲ以テシ共ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ「一里一百」オーム以上ノモノタルヘシ

高壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ護膜又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テシ共ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ「一里四十万」オーム以上ノモノタルヘシ  
人家ヲ離隔シ交通稀少ニシテ危險ノ虞ナシト認ムル場所ニ於ケル架空電線ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十一條 各電路ノ必要ナル場所及電車ニハ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十二條 大地ト接続セサル電路ニハ必ス漏電ヲ檢スルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十三條 道路ニ架設スル架空電線ハ電車線ヲ除ク外道路ノ片側ニアラサレハ其架設ヲ許サス若

架空ノ電燈線、電力線又ハ他ノ電氣鐵道用電線ノ架設シアル道路ニ架設スルトキハ之ト同側ニ架設シ若道路ノ片側ニ電氣鐵道用電線ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ他ノ片側ニ架設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十四條 架空ノ電車線ハ地表ヲ距ル十六尺以上其ノ他ノ架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場所ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架設スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十五條 電氣信號線ノ他電氣信號線ヲ架設セル場所ニ架空電線ヲ架設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル様離隔スヘシ

第十六條 電氣信號線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ

第十七條 架空ノ電車線ニハ其ノ上部三尺以上ノ距離ニ於テ少クトモ二條ノ金屬線ヲ大地ヨリ絶縁架設スルカ若ハ適當ナル方法ヲ設ケ電氣信號線ノ他電氣信號線ト電氣的混觸ヲ豫防スルノ裝置ヲ爲スヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十八條 架空電線ハ他人ニ屬スル架空ノ電氣信號線又ハ電氣信號線ト並行、交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ三尺以上ヲ離隔スヘシ但シ其ノ關係管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ本條規定ノ距離ニ據ラズシテ架設スルコトヲ得ヘシト雖ニ二尺以内ニ接近セシムヘカラス

第十九條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分チ非常其ノ他道路ニ故障起リタル場合ニ於テ容易ニ電流ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但シ逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ



幹線ハ各要所ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ停止スルニ便ナラシムヘシ  
各幹線ニハ發電所ニ於テ鋭敏ナル自動遮斷法ヲ設クヘシ

第二十條 他人ニ屬スル架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事止ムヲ得サル場所ニシテ地方長官ノ認可ヲ得タルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架設スルモノハ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第二十一條 歸線ハ軌道ノ中間若ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設スル部分及軌線ヲ除ク外ハ總テ大地ヨリ絶縁スヘシ但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場所ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第二十二條 絶縁セサル歸線ヲ使用スルトキハ其ノ歸線ハ發電機ノ消極ニ接続スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第二十三條 絶縁セサル歸線ヲ使用スル場合ニ於テ地下ニ埋設シタル金屬體アルトキハ左ノ各項ニ據リ施設ヲ爲スヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 歸線ハ地下埋設ノ金屬體ヨリ成ルヘク離隔シ其ノ距離六尺以上タルヘシ但シ工事止ムヲ得サルトキハ六尺以内ニ近クルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト金屬體トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニアラサレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムヘシ

二 歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差四「ヴォルト」又金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差一「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

三 軌線ハ電氣的完全ナル接続ヲ爲スヘシ  
四 軌線ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ截面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル歸線ヲ用フヘシ

五 軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設シタル絶縁セサル歸線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ截面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌線ト接続スヘシ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ最大電位ノ差及第二十五條ニ規定スル接地點ヨリ發電機ニ向テ流ルル電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ裝置ヲ爲シ之ヲ毎日記録シ置クヘシ

第二十五條 發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ於テ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地點間ニ「アマムペアー」以上ノ電流ヲ發セシムル様施設シ少クとも毎月一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

前項接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設シ又埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上タルヘシ

本條ニ適合セル接地點ヲ得難キ場合ニハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第二十六條 絶縁電線ノ絶縁力ハ其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ「アマムペアー」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル様維持スヘシ若シ其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ「アマムペアー」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモノ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ停止スヘシ但シ地下ニ埋設シタル絶縁電線ノ絶縁力ハ一里四百萬「オーム」ヲ下ルヘカラス

逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

第二十七條 前條第一項本文漏洩電流ハ毎日一回第一項但書ノ絶縁力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第二十八條 歸線ト金屬體トノ電氣的接続ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ金屬體所有者ノ承諾ヲ



得タル後逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設  
 シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ  
 第二十九條 架空電線以外ノ電線ヲ他ノ金屬體ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ施設スルトキハ其ノ電  
 線又ハ之ヲ納メ若ハ保護スル爲用フル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起ササル様豫防方法ヲ設  
 クヘシ  
 第二十條 埋線試驗口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ様築造スヘシ若瓦斯ノ浸入ス  
 ルコトアルモ電氣作用ノ爲爆發セサル様豫防方法ヲ設クヘシ  
 第二十一條 高壓電線ト低壓電線ト同一ノ管若ハ桶内ニ納ムルコトヲ許サス  
 第二十二條 架空電線以外ノ高壓電線ヲ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スルトキハ完全  
 ナル絕緣方法ヲ施シ之ヲ堅牢ナル管若ハ桶内ニ納ムヘシ  
 第二十三條 電線ヲ納ムル暗渠、管若ハ桶等ハ堅牢ニシテ荷重其ノ他重大ナル重量ノ壓力ニ堪ヘ  
 且容易ニ瓦斯又ハ水ノ浸入セサル様築造スヘシ  
 第二十四條 電線ヲ納メ若ハ之ヲ鎖裝スル爲用フル金屬體ハ充分大地ト電氣的接續ヲ爲スヘシ但  
 シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短小ナルモノハ此ノ限ニ在ラス  
 第二十五條 開閉器、安全器、抵抗器及其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質ノモノタルヘシ否ラサレ  
 ハ耐火質ノ物體ニ取附クヘシ  
 第二十六條 變壓所ハ事業ノ爲專用スル場所ニ設置スヘシ  
 變壓器ハ營業者ノ外容易ニ之ニ觸ルルコト能ハサル場所ニ設置スヘシ  
 第二十七條 變壓器ノ内外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル  
 爲適當ノ方法ヲ設クヘシ

第三十八條 電柱上ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函内ニ納メ地上十六尺以上ノ所ニ取附クヘ  
 シ  
 第三十九條 電柱ニハ事業者名並電柱ノ番號ヲ記スヘシ  
 高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ  
 第四十條 此ノ規則中第七條第三十四條及第三十五條ノ規定ハ發電所、配電所及變壓所内ニ適  
 用セス  
 第四十一條 毎日運轉スル車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ヲ記録シ置クヘシ  
 第四十二條 事業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其ノ履歷書ヲ添へ逓信大臣ニ届  
 出ヘシ爾後之ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ其ノ履歷書ヲ添へ届出ヘシ但シ逓信大臣ニ於テ不  
 適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ  
 第四十三條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電車ニ避難器、速度制限器、特種ノ  
 緩急器等ヲ裝置セシムルコトアルヘシ  
 第四十四條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電氣用器具及物品ノ見本ヲ差出シ  
 其ノ試験ヲ受ケシムルコトアルヘシ若試験ノ成績不完全ナリト認ムルトキハ改修又ハ使用ノ停  
 止ヲ命スルコトアルヘシ但シ其ノ試験ニ係ル費用ハ事業者ノ負擔トス  
 第四十五條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ此ノ規則規定以外ノ施設ヲ命スルコトアルヘ  
 シ  
 第四十六條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ第二十四條第二十五條第二十七條第二十八條及  
 第四十一條ノ記録ヲ差出サシムルコトアルヘシ  
 第四十七條 逓信大臣ハ出火其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險豫防ノ手續ヲ爲サシムルカ爲必要ト認  
 ムルトキハ常ニ電氣線路ノ各要所ニ技術者又ハ工夫ノ散宿ヲ命スルコトアルヘシ



散宿所ニハ屋外衆人ノ賭易キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ

第四十八條 事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ出張員ハ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯スヘシ

第四十九條 事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ其ノ区域内ノ電流ヲ遮斷スヘシ

前項ニ依リ送電ヲ止メタル區域内電線ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第五十條 前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第五十一條 事業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ逓信大臣ニ届出ヘシ

第五十二條 左ノ事項ハ三日以内ニ逓信大臣ニ届出ヘシ

- 一 主任技術者ノ改氏名
- 二 送電ノ停止及廢止但シ其ノ理由ヲ記スヘシ
- 三 幹線又ハ絕緣歸線ノ増設又ハ變更
- 四 車輛數及其ノ増減

第五十三條 私設鐵道條例第十二條ニ據リ開業免許狀ヲ下付セラレタル後ニ於テ工事設計中電氣ニ關スル事項ヲ變更セムトスルトキハ同條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並工費豫算書中關係事項ヲ記載セル書類ヲ添ヘ逓信大臣ニ願出認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ其旨逓信大臣ニ届出ヘシ

逓信大臣ハ前項ノ届出ニ依リ工事ヲ検査シ完全ナリト認ムルトキハ使用認可書ヲ下付スヘシ但

シ検査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ

第五十四條 此ノ規則ニ據リ逓信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳ヲ經由スヘシ

第五十五條 事業者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ據リ發スル命令ヲ遵守セサルカ爲危險ノ虞アリト認ムルトキハ逓信大臣ハ其ノ危險ノ除去セラルルマテ電氣ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五十六條 事業者此ノ規則第四條第二十八條前段第三十九條第四十二條第四十八條及第四十九條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十一條及第五十二條ノ届出ヲ爲サス又ハ第四十六條ノ記録ヲ差出サス若ハ第二十四條第二十五條第二十七條第二十八條及第四十一條ノ記録ヲ爲ササル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ料科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

前項ノ罰則ハ其ノ所爲ヲ爲シタル取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第五十七條 此ノ規則ハ明治三十年八月一日ヨリ實施ス

○外務省令第三號

明治二十七年外務省令第一號外務省留學生規程第七條中「滿二十一年以下」トアルヲ「滿二十五年以下」ト改メ及同規程第十條ニ左ノ二項ヲ追加ス

外務大臣伯爵大隈重信

明治三十年七月九日

一 數學 加減、乘除、分數、比例

一 簿記 官用簿記

〔參照〕

外務省令第一號外務省留學生規程(明治二十七年一月十七日)抄錄

第七條 外務省留學生ハ採用試驗出願ノ時年齡滿十八年以上滿二十一年以下ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ニ限ル

一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復讐シタル者ハ此ノ限ニアラス



- 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 三 破産若クハ家産分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第十條 外務省文官普通試験委員ハ前條ニ規定シタル 出願書類ヲ調査シ適當ト認メタル者ヲ召集シ左ノ試験ヲ施行ス  
(シ)
- 一 第八條ニ掲グル出願人ノ起草シタルト同一ノ外國文ヲ以テ更ニ往復文ニ通テ起草セシムルコト  
但尙ホ起草文ト同一ノ國語ヲ以テ對話ヲ試ムルコトアルヘシ
- 一 邦文ヲ以テ往復文ニ通テ起草セシムルコト

○農商務省令第十一號

明治二十四年八月農商務省令第十一號度量衡法施行規則左ノ通改正ス

明治三十年七月十二日

農商務大臣伯耆大隈重信

度量衡法施行規則

第一章 檢定

第一條 度量衡檢定所ハ常置、特設ノ二トシ常置檢定所ニ於テハ製作、修復若クハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定シ特設檢定所ニ於テハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス  
常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルトキ地方長官便宜  
其ノ場所ヲ指定スヘシ  
地方長官ニ於テ地方ノ狀況ニ依リ該廳所在地外ニ常置檢定所ヲ設置スヘキ必要アリト認ムルト  
キハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
特設檢定所ノ場所及檢定ノ期日ハ其ノ檢定ヲ施行スル期日ヨリ少クモ一箇月以前ニ之ヲ告示ス  
ヘシ

第二條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルトキハ製作、修復若クハ輸入シタル者ハ左ノ甲號書式ニ

營業ノ目的ニ使用スル者ハ乙號書式ニ依リタル檢定請求書ニ明治三十年勅令第十六號第九條  
ニ定ムル檢定料相當ノ登記印紙ヲ貼用シ之ヲ器物ニ添ヘ度量衡檢定所ニ差出スヘシ  
甲號書式 用紙  
美濃

度量衡器檢定請求書

此書ニ登記印紙ヲ貼用シ添付スヘシ

度量衡器

形状物質	全種類		製作又ハ輸入番號	箇數
	直形竹	直尺何尺又ハ何メートル		
.....	.....	.....	何號又ハ至何號	何箇

種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ一尺以下ノ度量器ニ限ル

量器

形状物質	種類	製作又ハ輸入番號	箇數
.....	.....	何號又ハ至何號	何箇

斗概

種類	製作又ハ輸入番號	箇數	
			大
.....	何號又ハ至何號	何箇	



乙號書式用紙  
年月日

度量衡器檢定請求書

何製作 修理又ハ輸入者 宿 何 某

秤	種類	物質	秤	量	感量又ハ目盛	製作又ハ輸入番號	箇數
	秤	秤	又ハ何キログラム	何	何	何	何
分銅	形狀	物質	種類	類	製作又ハ輸入番號	箇數及組數	
	圓錐形	眞鍮	又ハ何グラム	何	何	何	
秤	種類	物質	秤	量	感量又ハ目盛	製作又ハ輸入番號	箇數
	秤	秤	又ハ何キログラム	何	何	何	何

此器ニ登用紙ヲ貼用シテ印スヘシ

度量衡器

物	實	種類	長	目	類	箇	數
	竹	直尺又ハ何メートル	何	何	何	何	何
物	實	種類	長	目	類	箇	數
	竹	曲リ尺	何	何	何	何	何

種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ一尺以下ノ度量器ニ限ル

量器

物	實	種類	類	箇	數
	鐵	葉	又ハ何リットル	何	何
斗	概	種類	類	箇	數
	何	何	何	何	何

分銅

種	類	類	箇	數	及	組	數
	何	又ハ何グラム	何	何	何	何	何
自	何	至	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何

秤

種	類	秤	量	感量又ハ目盛	箇	數
	秤	又ハ何キログラム	何	何	何	何

年月日

宿 何 某

第三條 檢定所ニ度量衡器ヲ差出シ難キトキハ其ノ事由及度量衡器ノ種類、箇數等ヲ詳記シ特ニ其ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケンコトヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得  
地方長官前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ請求者ハ檢定吏員ノ爲メニ成規ノ旅費日當其ノ他檢定



ニ要スル費用ヲ負擔シ檢定吏員ノ指示ニ從ヒ諸般ノ準備ヲナスヘシ但シ旅費其ノ他ノ費用ハ之ヲ前納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ請求書ヲ出張吏員ニ差出スヘシ

第四條 度量衡器ノ種類形状物質公差竝ニ度器玻璃製量器ノ目盛及分銅ノ最小定限ハ明治三十年勅令第十六號第一條第三條及第四條其ノ構造ハ本令第二章ノ規定ニ依リ檢定スヘシ

第五條 度量衡器ヲ檢査シタルトキハ其ノ合格ノモノニハ檢定ノ證印ヲ附シ證印ヲ附シ難キモノニハ證書ヲ附シ證印又ハ證書アルモノニシテ不合格ノトキハ證印ニハ消印ヲ附シ證書ハ塗抹スヘシ

錘及增錘ハ其ノ初回ノ檢定ノ外合格スルモ證印ヲ附セス

第六條 證印、證書及消印ノ種類、雛形ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ定期檢定ニ用井ル證印ハ別ニ之ヲ定ム

一 證印



打込ミ印 烙キ印  
大 二分平方 四分平方  
中 一分二厘平方 二分平方  
小 六厘平方

一 證書

檢定之證	
製作人	聽府縣 何 某
年號	何 年
番號	第何號
物質	何
形狀	何
種類	何
年月	聽府縣 度量衡檢定所印

大 縦三寸五分 横五寸  
小 縦一寸二分 横一寸五分

一 消印



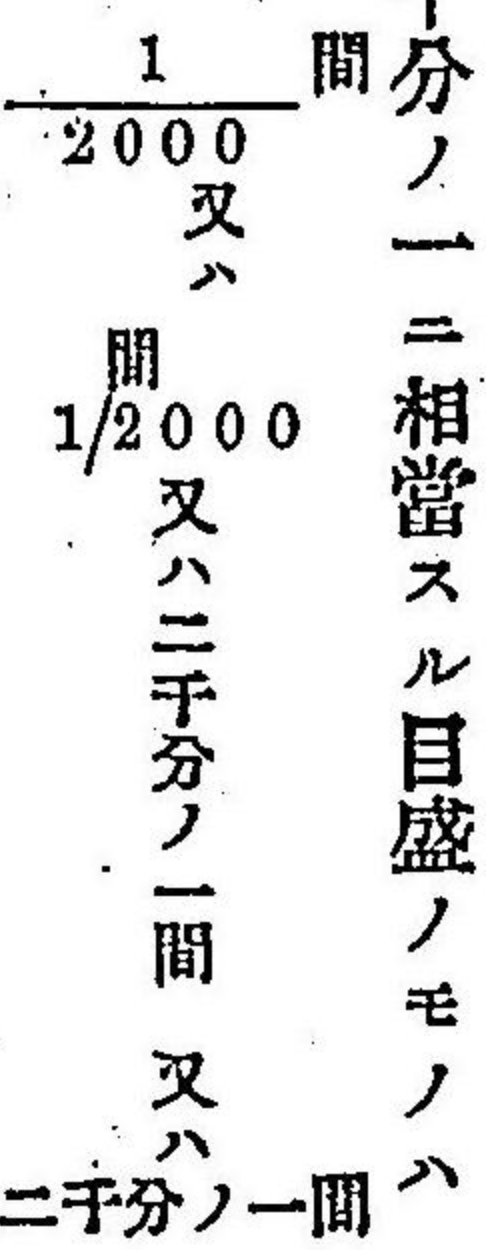
打込ミ印及烙キ印  
大 長徑四分 短徑二分六厘  
中 長徑二分六厘 短徑一分六厘  
小 長徑一分三厘 短徑一分三厘

第七條 汚染、磨滅、毀損等ニ依リ證印證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノハ更ニ其ノ器ノ檢定ヲ受クヘシ

第二章 構造

第八條 度器ハ表面ニ其ノ全長ヲ表記スヘシ但シ細帶狀ノ度器ニシテ函ニ連結シタルモノハ其ノ函ニ表記スルモ妨ナシ

割目ヲ盛リタル度器(縮尺)ハ全長ノ外其ノ目盛ノ割合ヲ表記スヘシ表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘシ



鏈狀ノ度器ハ其ノ一端ノ環ニ其ノ全長ヲ表記スヘシ

鏈狀ノ度器ハ別種ノ金屬片ヲ以テ其ノ目盛ノ標識トスヘシ

鋼鐵、革、麻布製ノ細帶狀度器ハ其ノ一端ニ真鍮片ヲ附著シ證印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第九條 量器ハ外側ニ其ノ全量ヲ表記シ斗概ハ切口ニ其ノ種類ノ大中小ヲ表記スヘシ

第十條 鐵葉ヲ以テ五合及一リットル以上ノ量器ヲ製作スルトキハ之ヲ二重ニスヘシ

第十一條 鐵、銅若クハ真鍮ヲ以テ製作シタル量器ハ其ノ内面ニ錫又ハ白銅ヲ鍍著スヘシ

第十二條 木製ノ量器ハ鐵板ヲ以テ口縁ヲ被ヒ尙一升及二リットル以上ノ方形ノモノハ側及底(趾アルモノハ其ノ趾)ノ四隅ノ外面ニ鐵帶ヲ附著シ其ノ圓錐形ノモノハ一箇又ハ交又シタル二箇ノ鐵帶ヲ側及底ノ外面ニ沿フテ附著スヘシ但シ酒酢、醬油、食鹽等ノ如キ鐵ヲ腐蝕スヘキ物料ヲ量ルニ用井ル量器ハ此ノ限ニアラス

鐵板又ハ鐵帶ヲ量器ニ附著スルニ螺旋釘ヲ以テシタルトキハ其ノ捻戻シヲナシ得サル丈ケ釘頭ヲ削去スヘシ



斗概ハ鐵葉ヲ以テ其ノ側面ヲ包ムヘシ但シ本條第一項但書ノ量器ニ附屬スル斗概ハ此ノ限ニアラス

第十三條 量器ニハ注口、把手及趾ヲ附スルコトヲ得

注口ヲ附スルトキハ其ノ容量ノ割合ニ應シ量器ノ深サヲ減スヘシ

注口ノ口面ハ量器ノ上面ト其ノ高サヲ同一ニスヘシ但シ玻璃製ノモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 衡器ノ重點及支點ニハ鋼鐵若クハ堅石ヲ用井緒紐ニハ金屬、革又ハ強靱ナル絹絲、麻絲等ヲ用井ルヘシ

第十五條 錘及增錘ノ物質ハ分銅ノ物質ト同一ノモノニ限ル但シ其ノ重量五十匁又ハ二百グラ

ム以上ノモノニアラサレハ鐵ヲ以テ製作スルコトヲ得ス

第十六條 分銅、錘及增錘ノ重サヲ齊整スル爲メ鉛ノ類ヲ用井ルトキハ其ノ一部ヲ穿テ此ニ鉛ヲ

填充シ金屬片(鐵ヲ除ク)ヲ以テ之ヲ緊塞スヘシ但シ鉛ノ量ハ分銅、錘及增錘ノ重サノ二十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ穿口ヲ塞クニ螺旋釘ヲ用井ルトキハ其捻戻シヲナシ得サル丈ケ釘頭ヲ打テ潰シ若クハ釘著ケニナスヘシ

第十七條 鐵製ノ分銅、錘及增錘ニシテ鉛ノ類ヲ填充セサルモノハ特ニ其ノ一部ニ眞鍮片ヲ挿入シ認印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第十八條 天秤、臺秤、桿秤ハ其ノ最大重ヲ掛ケタル量ヲ秤量トシ左ノ定限以下ノ量ヲ感スルコトヲ要ス

天秤 秤量ノ千分ノ一

臺秤 秤量ノ二千分ノ一

桿秤 秤量ノ二百分ノ一

第十九條 臺秤ハ秤量十貫若クハ三十キログラム以上ノモノニ限ル

第二十條 臺秤及桿秤ノ目盛ハ左ノ定限以内トス但シ其ノ感量ヨリ小ニスルコトヲ得ス

秤秤 秤量ノ二百分ノ一

第二十一條 二段以上目盛シタル桿秤ノ秤量及感量ハ每段ニ就キ之ヲ定ムヘシ

第二十二條 桿秤ノ取緒ハ一緒若クハ二緒トス其ノ二緒ノモノハ之ヲ表裏ニ附著スヘシ

第二十三條 調子玉アル衡器ニシテ支點ニ筒以上ヲ設ケタルモノハ其ノ支點毎ニ直線ヲ附スヘシ

第二十四條 分銅ハ其ノ重量增錘ハ其ノ掛量ヲ其ノ上面又ハ側面ニ表記スヘシ但シ線狀ノ分銅ハ此ノ限ニアラス

第二十五條 錘、增錘、皿等ニシテ其ノ附屬スル秤桿ト分離シ得ルモノハ其ノ秤桿ト同一ノ符號ヲ

表記スヘシ

第二十六條 天秤ハ其ノ秤量及感量ヲ支柱、臺又ハ其ノ他ノ部ニ表記スヘシ

第二十七條 臺秤ハ其ノ臺ノ縁ニ桿秤ハ其ノ桿ノ目盛ノ各段ニ秤量ヲ表記スヘシ

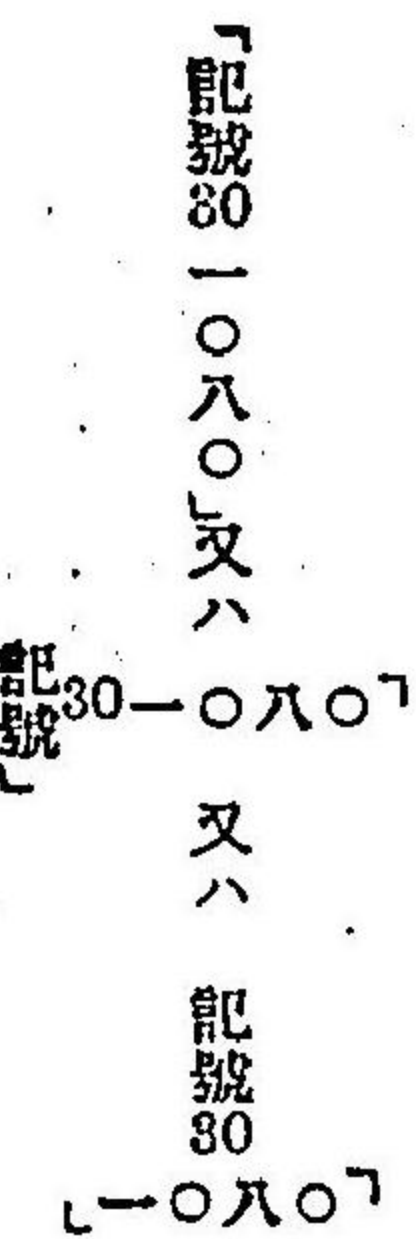
第二十八條 度量衡器ニハ製作者若クハ輸入シテ販賣スル者ノ記號及製作若クハ輸入ノ年號、番

號ヲ併列シテ表記スヘシ

修葺シタル度量衡器ニシテ前項ノ記號、年號又ハ番號ヲ識別シ難キモノニハ修葺者ノ記號及修

葺ノ年號、番號ヲ表記スヘシ其ノ表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘシ

明治三十年製輸入若クハ修葺ノ第八十號ハ





記號ニハ地方名ヲ附記スヘシ  
 第二十九條 數箇ノ分銅ヲ一組トナストキハ箱ニ納メ各箇ニ同一ノ記號、年號及番號ヲ附スヘシ之ヲ各箇ニ附シ難キトキハ箱ニ表記スルコトヲ得  
 第三十條 度量器ノ目盛ハ割目ノモノヲ除ク外度ノ名稱ノ二分ノ一又ハ一倍、二倍、五倍タルヘシ但シ間ノ目盛ハ本項規定ノ外其ノ十分ノ一、百分ノ一トナスコトヲ得  
 玻璃製量器ノ目盛ハ量ノ名稱ノ一倍、二倍又ハ二分ノ一、五分ノ一、十分ノ一、二十分ノ一タルヘシ  
 衡器ノ目盛ハ衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍若クハ此ノ倍數ノ十倍、百倍タルヘシ但シ斤ノ目盛ハ本項規定ノ外其ノ二分ノ一、四分ノ一、八分ノ一トナスコトヲ得

第三章 免許

第三十一條 度量衡器ノ製作、修覆若クハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書ニ明治三十年勅令第十六號第六條ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ願書ニ記スヘシ  
 第三十二條 農商務大臣度量衡器ノ製作、修覆若クハ販賣ノ免許ヲ與ヘントスルトキハ其ノ通知書ニ免許料納入用紙ヲ添ヘ出願者ニ送付スヘシ  
 出願者ハ前項ノ免許料納入用紙ニ明治三十年勅令第十六號第八條ノ免許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ其ノ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ農商務省ニ納ムヘシ  
 第三十三條 免許料ノ納入ヲナシタルトキハ免許狀ヲ下付スヘシ  
 免許狀ヲ受領シタルトキハ免許狀受領ノ日ヨリ三十日以内ニ明治三十年勅令第十六號第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ  
 免許ヲ取消サレ若クハ營業ヲ廢止シタルトキハ免許狀ヲ返納スヘシ又之ヲ紛失シタルトキハ更ニ其ノ下付ヲ請フヘシ  
 第三十四條 第三十二條ノ免許料及第三十三條ノ身元保證金ヲ規定ノ期限内ニ差出サ、ルトキハ

其ノ出願又ハ免許ヲ無効トス

第三十五條 身元保證金ハ通貨若クハ公債證書ヲ地方長官ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證券ヲ地方廳ニ納メ置クヘシ但シ公債證書ハ時價ニ依リ其ノ二割ヲ増シテ納ムヘシ  
 地方長官前項ノ預リ證券ヲ受取タルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ  
 第三十六條 身元保證金ノ金額ニ減少ヲ生シタルトキハ地方長官其ノ旨ヲ納入者ニ通知シ完納セシムヘシ  
 前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ完納セサルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申シ處分ヲ請フヘシ  
 第三十七條 度量衡器ノ製作若クハ修覆ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ備フヘシ但シ其ノ賣渡ヲ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得  
 製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ製作スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ  
 製作若クハ修覆ニ用非ル原器ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ  
 第三十八條 度量衡器ノ製作、修覆若クハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ表記ニ用非ル記號ヲ定メ豫メ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ヘシ  
 第三十九條 度量衡器ノ製作、修覆若クハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ヘシ  
 第四十條 度量衡器ノ製作、修覆若クハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者死亡又ハ退隱シタルトキハ其ノ相續者ニ限リ營業ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ免許狀ノ名義書換ヲ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出ヘシ  
 第四十一條 衡器販賣ノ免許ヲ受ケタル者秤秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲ



ナサントスルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第四十三條 桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲ爲ス販賣者ハ秤架及左ノ分銅ヲ備フヘシ

重量合計十五貫又ハ五七キログラム以上ノ分銅但シ此ノ内五貫乃至一厘又ハ二七キログラム乃至一センチグラムノ各種ヲ合セ一組以上ヲ含ム

前項ノ分銅ハ每五年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

第四十三條 桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲナシタルトキ差狂アリト認ムルニ於テハ其ノ旨ヲ地方廳若クハ市町村長ニ届出ヘシ

罰則

第四十四條 第七條、第四十一條及第四十三條ニ違背シタル者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第三十三條第三項、第三十八條若クハ第三十九條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第四十六條 第三十七條若クハ第四十二條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ本規則第六條、第二十八條第三項及第四十二條ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第四十八條 本規則施行以前ニ製作シタル鐘狀度量器ノ檢定ニ付テハ明治三十年八月三十一日マテ明治二十四年農商務省令第十一號ヲ適用ス

第四十九條 本規則發布以前度量衡器ノ製作、修覆若クハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ明治三十年八月三十一日マテニ本規則第三十八條ニ依リ其ノ記號ヲ届出ヘシ

○逓信省令第二十五號

明治二十年六月逓信省令第十四號電氣事業取締規則實施前ニ於テ付與シタル工事改造猶豫ノ認可又ハ工事改造ノ命令ハ該規則ノ實施ニ因リ其改造又ハ改修ノ必要ナキモノヲ除クノ外該規則實施後ト雖猶其ノ效力ヲ有ス

明治三十年七月十二日

逓信大臣子爵野村 靖

○内務省令第十八號

傳染病豫防法第二十四條補助ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十年七月十五日

内務大臣伯爵樺山資紀

府縣知事ハ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ對スル補助ニ關シ左ノ各項ニ依リ規程ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出總額ニ對シ府縣稅又ハ地方稅ヨリ各市町村ニ補助スル歩合ハ精算額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス但支出ニ伴フ收入アルトキハ支出總額ヨリ其ノ收入ヲ控除シタル額ニ對シ本項ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得

二 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シテ別段ノ補助歩合ヲ定メ又ハ指定シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジテ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但本項ニ依リ算出シタル補助ノ金額前項六分ノ一ヲ下ルトキハ六分ノ一迄増額シ二分ノ一ヲ超ルトキハ二分ノ一迄減額スヘシ

三 市町村ノ支出額其ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキハ二分ノ一以上全部迄ヲ補助スルコトヲ得

四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但金額ニ換算スヘシ

〔參照〕

法律第三十六號傳染病豫防法(明治三十年四月一日官報抄録)

第二十一條 左ノ階級ハ市町村ノ負擔トス



- 一 豫防委員ニ關スル諸費
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
- 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手当、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、埋葬料
- 六 第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費
- 七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費
- 其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十三條第二項
- 市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得
- 第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

○海軍省令第十四號

舞鶴軍港規則左ノ通定ム

明治三十年七月十七日

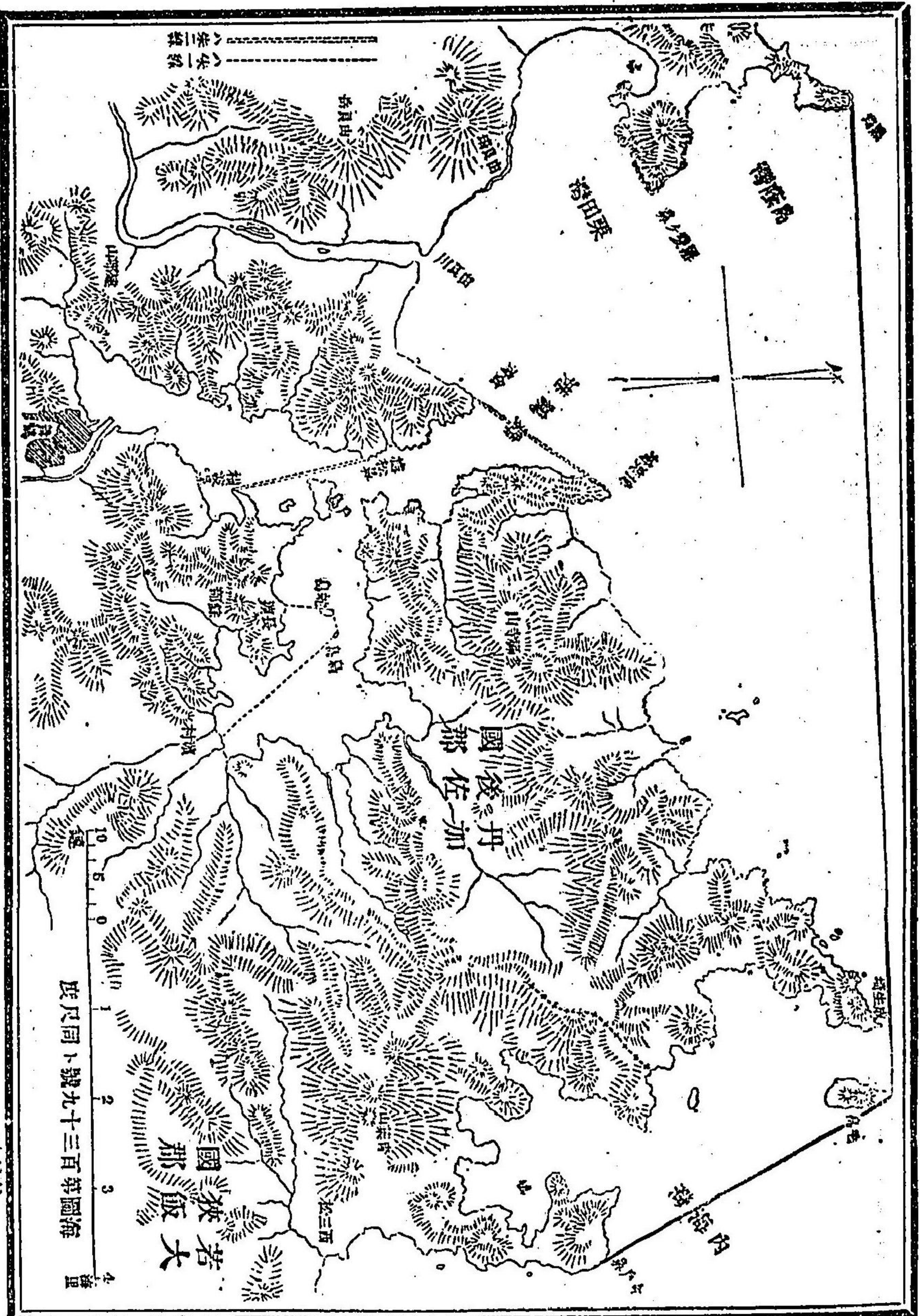
海軍大臣 侯爵西鄉從道

- 舞鶴軍港規則
- 第一條 舞鶴軍港ノ海面ヲ三區ニ分チ別圖朱一線以內ヲ第一區ト稱シ第一區以外朱二線以內ヲ第二區ト稱シ第一區第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス
- 第二條 軍港ニ入ラントスル艦船ハ軍港外三海里以外ノ所ヨリ投錨若クハ繫止スル地點マテ萬國信號旗ヲ以テ信號符字ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ
- 第三條 第三區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限リハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得
- 第四條 第一區ハ排水噸數十五噸以下ノ帝國海軍所屬舟艇ノ外鎮守府司令長官ノ許可ナクシテ進入スルコトヲ禁ス
- 第五條 第一區及第二區ニ在リテハ艦船ノ進退ハ排水噸數十五噸以下ノ舟艇ヲ除クノ外總テ知港

- 事ノ指示ニ從フヘシ但シ天災其ノ他不時ノ事故ニ依リ危急ノ場合ニハ此ノ限リニアラス
- 第三區ヨリ第二區ヲ横過シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ第二區ニ在ルトキト雖知港事ノ指示ヲ待ツ限リニアラス
- 第六條 鎮守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ碇地ノ變換若クハ港外へ退去ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 鎮守府司令長官ハ艦船第一區内ニ入ラントスルニ當リ其ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトアルヘシ
- 第八條 凡テ艦船ハ鎮守府司令長官ノ特許アルモノ、外火藥庫ヲ距ル百三十間以內ニ進入スルコトヲ禁ス汽罐點火中ノ小蒸汽船及其ノ他一切ノ火氣ヲ有スル船舶亦同シ
- 軍港ノ山林原野ニ於テ濫ニ焚火スヘカラス
- 第九條 軍港ニ於テハ禮砲號報及鎮守府司令長官ノ特許ヲ得タルモノ、外銃砲及水雷ノ發射其ノ他一切ノ爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス
- 陸上ニ於ケル公私ノ家屋ヲ距ルコト七十五間以內ノ海上ニ於テハ禮砲號報ノ類ト雖一切銃砲ノ發放ヲ爲スコトヲ禁ス
- 第十條 博奕岬ト金崎トヲ連ヌル朱二線以內ノ海面及之ニ注入スル水流ニハ一切ノ浮流物並ニ沈澱物ヲ遺棄スルコトヲ禁ス
- 艦船ノ遺棄物ハ知港事ヨリ出ス所ノ塵棄船ニ移スカ若クハ各自ニ處分スヘシ
- 第十一條 第一區ニ於テハ鎮守府司令長官ノ特許アルトキノ外一般人民ノ漁業ヲ禁ス
- 第十二條 現ニ傳染病アルカ若クハ傳染病發生シテ未タ消毒ヲ終ラサル艦船ハ第二區以內ニ入ルコトヲ禁ス
- 第十三條 軍港ニ於テ左ニ掲クル工事ヲ起シ又ハ營業ヲ願出ル者アルトキハ地方長官ハ鎮守府司令



- 令長官ニ協議シ許否スヘシ
- 一 棧橋ヲ架設シ波止場ヲ築造スル事
  - 二 海面ヲ埋立海岸ヲ掘鑿シ又ハ海岸ニ石垣ヲ築造スル事
  - 三 道路溝渠ヲ開通シ又ハ橋梁ヲ架設スル事
  - 四 山岡ヲ掘鑿スル事
  - 五 森林ヲ伐採スル事
  - 六 軍港ニ發著スヘキ航海ノ營業ニ關スル事
  - 七 浮標又ハ立標ヲ設置スル事
- 第十四條 鎮守府司令長官ノ承認ヲ得シテ軍港内ノ測量撮影及製圖ヲ爲シ又ハ地理及水路案内等ノ圖書ヲ出版若クハ作述スルコトヲ禁ス
- 第十五條 地方長官ハ軍港内衛生ノ事ニ關シテハ鎮守府司令長官ニ協議スヘシ
- 第十六條 鎮守府司令長官ハ海軍用地内及之ニ接近スル一般公路ノ取締上必要ノ場合ニハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得
- 第十七條 軍港ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム
- 附則
- 第十八條 舞鶴鎮守府開廳ニ至ルマテ此ノ規則中鎮守府司令長官ノ職務ハ臨時海軍建築部長、知港事ノ職務ハ臨時海軍建築部支部長之ヲ行フ
- 臨時海軍建築部長ハ此ノ規則ニ關シ其ノ職務ノ一部ヲ臨時海軍建築部支部長ニ委任シ行ハシムルコトアルヘシ
- 第十九條 舞鶴鎮守府開廳ニ至ルマテ此ノ規則ニ關スル事務ハ總テ臨時海軍建築部支部ニ於テ取扱フ
- (別圖)





○內務省令第十九號  
傳染病豫防法第十八條ニ依リ汽車檢疫規則左ノ通定ム

明治三十年七月十九日

內務大臣 伯耆樺山資紀

汽車檢疫規則

第一條 府縣知事東京府ハ汽車檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ停車場及開始ノ期日ヲ定メテ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關係府縣廳東京府ハニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ準ス但官設鐵道ノ停車場ニ於テ檢疫ヲ施行スルトキハ遞信省ニモ申報スヘシ

關係府縣廳東京府ハニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者ハ之ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年九月布告第四十九號行旅死亡人取扱規則ニ準シ市町村長、區長、沖繩縣又ハ區長又ハ戶長長ニ準スヘシヲシテ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第三條 汽車檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルトコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ  
第四條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者死者ト同車室ニ在ルカ否サルモ病毒汚染ノ虞アル乗客及手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒方法ヲ施行スヘシ

第五條 傳染病患者又ハ死者アリタル車室ハ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行スヘシ此ノ場合ニ於テハ鐵道掛員ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルトコトヲ得  
傳染病患者又ハ死者ナキ車室ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルトコトヲ得

第六條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキ其ノ停車場ニ於ケル設備ノ都合等ニ依リ前數條ニ規定シタル事項ヲ施行スルト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ相當ノ手當ヲ爲シ該車室ノ出入口ヲ閉鎖シテ乗客ノ出入ヲ止メ他ノ停車場ニ至リ其ノ處置ヲ爲スヘシ  
第七條 檢疫掛員ニ於テ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ列車ニ乗込ミ又ハ必要ナル通信ヲ驛長若クハ掛員ニ求ムルトコトヲ得無償乗車ノ場合ニ於テハ官職氏名ヲ記シタル證票ヲ驛長若クハ掛員ニ示スヘシ

附 則

第八條 汽車檢疫施行中府縣知事東京府ハ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル汽車ニ傳染病患者者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第九條 明治二十三年內務省訓第四五二號汽車檢疫心得ハ廢止ス

○內務省令第二十號  
傳染病豫防法第十八條ニ依リ船舶檢疫規則左ノ通定ム

明治三十年七月十九日

內務大臣 伯耆樺山資紀

船舶檢疫規則

第一條 府縣知事東京府ハ船舶檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ場所及開始ノ期日ヲ定メテ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關係府縣廳東京府ハニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ準ス



關係府縣廳東京府ハニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二條 府縣知事東京府ハノ指定シタル地方ヲ發シ又ハ其ノ地方ヲ經テ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ檢疫掛員ノ尋問又ハ檢査ヲ受ケ其ノ許可ヲ得タル後ニアラサレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ乗客乗組人ヲ上陸セシメ又ハ積荷手荷物ノ陸揚ヲ爲スヘカラス

航行中又ハ現ニ傳染病患者若クハ死者ナキ船舶ニハ直ニ前項ノ許可ヲ與フルコトヲ得  
第三條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶及停留中ノ船舶ハ黃旗ヲ前櫓ニ掲揚スヘシ但檢疫掛員ノ許可ヲ得ル迄ハ之ヲ下スヘカラス

第四條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ港内適當ノ場所ニ停留セシムルコトヲ得  
ニ停留セシメ其ノ船舶ノ乗客乗組人ニハ消毒方法ヲ施行シ停留所船中其ノ他適當ノ場所ニ停留セシムルコトヲ得

前項停留ノ日時ハ傳染病豫防法施行規則第六條交通遮斷ノ日時ニ準ス停留中新タニ患者ヲ發シタルトキハ其ノ處置ヲ了シタル時ヨリ起算シ更ニ同期間停留ヲ繼續スルコトヲ得  
檢疫掛員ニ於テ消毒方法ヲ施行スルトキハ乗組人ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第五條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ乗客乗組人中患者死者ト飲食起居ヲ共ニシタル等ニ依リ檢疫掛員ニ於テ病毒感染ノ虞アリト認ムル者ノ外ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ上陸ヲ許可スルコトヲ得

第六條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ積荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ陸揚ヲ許可スルコトヲ得但檢疫掛員ニ於テ病毒汚染ノ虞ナシト認ムル積荷手荷物ニハ消毒セサルモ妨ケナシ

第七條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場

所ニ收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年九月布告第四十九號行旅

死亡人取扱規則ニ準シ市町村長沖繩縣又ハ戶長長ニ準スヘシ但該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第八條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ  
第九條 消毒方法ヲ施行スヘキ船舶ハ其ノ港ニ於ケル消毒設備ノ都合等ニ依リ他ノ港ニ回航セシムルコトヲ得

第十條 檢疫掛員ハ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ船舶ニ乗込ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ船長若クハ事務員ニ其ノ旨ヲ通告スヘシ

第十一條 傳染病患者又ハ死者ナキ船舶ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得

第十二條 船舶檢疫施行中府縣知事東京府ハノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル船舶又ハ其ノ港ニ碇泊中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第十三條 府縣知事東京府ハ大和船漁船等ノ檢疫ニ關シ別段ノ規程ヲ設グルコトヲ得  
第十四條 明治十四年內務省達乙第四十九號傳染病豫防規則第十三條船舶檢査手續ハ廢止ス

〔參照〕四十九號  
法律第三十六號傳染病豫防法(明治三十年四月一日官報)抄錄

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ選キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽



車ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得  
 船舶汽車ノ検査ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乘客乗組人ニシテ病源感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間  
 停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込シムルコトヲ得  
 船舶汽車ノ検査ニ於テ発見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ  
 相當ノ理由ヲシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲テ必要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得  
 前各項ノ外検査委員ノ設置及船舶汽車ノ検査ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○内務省令第二十一號

水曾川改修土工費壹萬圓以上ノモノ、受負競争ニ加ハラントスル者ノ資格左ノ通定ム  
 明治三十年七月十九日 内務大臣伯耆樺山資紀

水曾川改修土工費壹萬圓以上ノモノ、受負競争者資格規定

第一條 受負競争者ハ明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十九條第一項ノ外尙本令第二條第

三條ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第二條 資産ニ關スル資格

第一 各人ハ直接國稅年額拾五圓以上ヲ二年以來引續キ納ムルコト

第二 合名會社ニ在リテハ其社員ノ納稅額ヲ併セ又合資會社ニ在リテハ其業務擔當社員ノ納稅

額ヲ併セ前項ノ例ニ依リ直接國稅ヲ納ムルコト

第三 株式會社ニ在リテハ資本金壹萬圓以上ノ拂込済ナルコト

第三條 營業ニ關スル資格

入札當時ノ年ヨリ起算シ既往三箇年中ノ少クモ一箇年ニ於テ一箇所金壹萬圓以上ノ土工受負契

約ヲ完全ニ履行シタル確證アルコト

○農商務省令第十二號

製鐵所ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス  
 明治三十年七月十九日 農商務大臣伯耆大隈重信

農商務大臣伯耆大隈重信

○文部省令第十號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ヲ改定スルコト左ノ如シ  
 明治三十年七月二十一日 文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

高等師範學校生徒募集規則

第一條 高等師範學校本科生及官費專修生ハ尋常師範學校官公立尋常中學校及文部大臣ニ於テ徵

兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立尋常中學校ノ卒業生ニシテ身體健全

品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ高等師範學校長其ノ中ヨリ試験ノ上選拔スルモノト

ス

第二條 高等師範學校本科生及官費專修生ハ毎年一回之ヲ募集シ其ノ期日及員數ハ其ノ都度高等

師範學校長ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノ、外高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齢當該

學級ニ相當スル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 新募生ハ四箇月以内假ニ入學セシメ其ノ資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限り本入

學ヲ許可スルモノトス

第五條 研究生私費專修生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣ノ許

可ヲ受クヘシ

附 則

第六條 明治二十七年文部省令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十七年三月文部省令第二號ハ高等師範學校生徒募集方ノ件ナリ

○文部省令第十一號

明治三十年七月 省令 文部省第十號 高等師範學校生徒募集規則 第十一號 高等師範學校卒業生服務規則 二八三



明治十九年文部省令第十九號高等師範學校卒業生服務規則ヲ改定スルコト左ノ如シ

明治二十年七月二十一日

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

高等師範學校卒業生服務規則

- 第一條 高等師範學校本科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス
- 第二條 高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス
- 第三條 第一條第二條ノ義務ヲ終リタル者ハ其ノ經歷書ヲ具シテ文部大臣ニ届出ツヘシ
- 第四條 第一條第二條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アル者ハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ請願スルコトヲ得
- 第五條 第一條第二條ノ卒業生ハ其ノ服務年限中毎年未服務ノ情況ヲ文部省ニ報告スヘシ
- 第六條 第一條第二條ノ卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム
  - 一 第一條第二條ノ義務ヲ盡ササル者但第四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得タル者ハ學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還ヲ免除スルコトアルヘシ
  - 二 服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者
- 第七條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ分科大學高等師範學校研究科專修科及撰科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ
- 指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ

除算スルモノトス

附則

第八條 明治十九年文部省令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治十九年文部省令第六號ハ師範學校卒業生服務規則ニ從事スル者服務ノ狀況報告方ノ件ナリ

○文部省令第十二號

女子高等師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十年七月二十一日

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

女子高等師範學校卒業生服務規則

- 第一條 女子高等師範學校卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其ノ間教職ニ従事スル義務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス
- 第二條 第一條ノ義務ヲ終リタル者ハ其ノ經歷書ヲ具シテ文部大臣ニ届出ツヘシ
- 第三條 第一條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アル者ハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ請願スルコトヲ得
- 第四條 卒業生ハ其ノ服務年限中毎年未服務ノ情況ヲ文部省ニ報告スヘシ
- 第五條 卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム
  - 一 第一條ノ義務ヲ盡ササル者但第三條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得タル者ハ學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還ヲ免除スルコトアルヘシ
  - 二 服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者



第六條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ專修科及撰科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ  
 指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルモノトス

○陸軍省令第二十號

理事試験補登用試験規則左ノ通定ム

陸軍大臣子爵高島綱之助

明治三十年七月二十四日

- 理事試験補登用試験規則
- 第一條 理事試験補登用試験ハ須要ニ應ジ陸軍省ニ於テ理事試験補登用試験委員之ヲ行フ
  - 第二條 理事試験補登用試験ヲ行フヘキ期日ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
  - 第三條 理事試験補登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル
    - 一 官立學校及判事檢事登用試験規則第五條ニ依リ司法大臣ノ指定シタル公私立ノ學校ニ於テ法律學ヲ卒業シタル者
    - 二 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者
  - 第四條 理事主理任用令第五條ニ該ル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
  - 第五條 受験者募集ニ付テハ豫メ人員年齡等制限ヲ付スルコトアルヘシ
  - 第六條 試験志願者ハ書式ニ照ラシ試験願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ陸軍大臣ニ差出スヘシ
    - 一 履歷書
    - 二 身分年齡及兵役ニ關スル證明書
    - 三 第三條ニ定メタル要件ノ證明書

四 醫師ノ作レル體格證明書

試験志願者ハ試験手数料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ但其ノ手数料ハ登記印紙ヲ用井之ヲ試験願書ニ貼付スヘシ

手数料ハ試験願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖トモ之ヲ還付セス

第七條 試験ハ受験者ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス

第八條 筆記試験ハ刑法陸軍刑法刑事訴訟法陸軍治罪法民法憲法行政法國際法ノ各法ニ就キ之ヲ施行ス

第九條 口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ對シ前條ニ掲グル各法中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第十條 受験者ハ理事試験補登用試験委員長ノ揭示其ノ他試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ

第十一條 試験ニ及第シタル者ハ官報ヲ以テ公告シ仍之ヲ本人ニ通知ス

第十二條 試験委員及試験成績調査ニ關シテハ理事試験補出願並實務修習及實務修習試験規則第四條第五條第六條第十六條第十七條ヲ本令ニ準用ス

理事試験補登用試験出願書式(用紙兼簿紙)

試験願書

族籍

氏

名

生年月

現住所

氏

名印

年月日

陸軍大臣爵氏名宛

(陸軍省若クハ試験委員ヨリ發スル通知書ヲ送付スヘキ宿所ヲ便宜ノ爲メ臨メ現住所外ニ定メ置カントスル者ハ左ノ書式ニ



私儀理事試験補登用試験相受度候ニ付理事試験補登用試験規則第六條ニ掲グル書類相添此段奉願候也



依り追記スヘシ  
道ヲ御省若クハ試驗委員ヨリ發スル通知書ハ左ノ處へ御發送被成下度候  
何府縣何郡市何町村何番地  
(何方)

履歷書

族籍  
氏 名  
何年何箇月

- 一 何年何月ヨリ何地ニ於テ何業ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ所修ノ科目大略左ニ云云
- 一 何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り法律學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其ノ證書寫眞ニ本校證明書別紙ノ通
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何業ヲ營ミ若クハ何業ニ従事ス
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何地何會社ニ備ハレ何々ノ業務ニ従事ス
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何地官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ従事ス
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何官職ニ於テ何々ノ事務ニ従事ス其ノ他何々ノ歷任
- 一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ貸ヲ受テ其ノ辭令書寫左ノ如シ  
(辭令書寫ハ其ノ全文ヲ掲ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ受領ノ事由ヲ記スヘシ)
- 一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ罰ヲ受テ其ノ辭令書寫宣告書要領左ノ如シ  
(辭令書アルモノハ其ノ全文ヲ掲ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ其ノ事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其ノ要領ヲ記シ總テ罰ハ其ノ受領ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ)
- 一 破産家資分散又ハ身代限處分ノ有無
- 一 何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受テ何年何月負債ノ辨償ヲ終リタルコト又ハ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受テ何年何月復讐シタルコト
- 一 裁判所ノ申渡書寫ヲ記スヘシ
- 一 破産若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ

右之通相違無之候也

身分證明書

右  
氏 名 印  
族籍  
氏 名  
何年何箇月

- 一 何府縣何國何郡市何町村何番地(士族(平民)戸主(何某兄弟伯叔父等))
- 一 何府縣何國何郡市何町村何番地(何方)
- 一 何年何月何日何地ニ於テ出生
- 一 何年何月何日何々ヲ以テ何兵何聯隊ニ入營何年何月何日何等卒トナリ何年何月何日現役滿期ヲ以テ豫備軍へ編入若クハ何年何月何日某徵兵署ニ於テ兵役免除等兵役上ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 理事主任任用令第五條ニ觸ルコトナシ

右之通相違無之此段證明候也

右  
氏 名 印  
何府縣何市區町村長 氏 名 印  
(本籍地ノ市區町村長ニ限ル)

體格證明書

一定ノ書式ヲ示サ、ルニ付相當醫師ニ就キ身體強壯ニシテ從軍ニ堪フヘク且著大ナル畸形等アラサルコトノ證明ヲ受テヘシ

(參照)

勅令第十三號理事主任任用令(明治二十七年二月六日官報)抄録



第五條 左ノ諸項ノ一ニ該當スル者ハ理事及主理ニ任用スルコトヲ得ス  
 一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復権シタル者ハ此ノ限ニアラス  
 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者  
 三 破産者クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

陸軍省令第二十一號理事候補出願實務修習及實務修習試驗規則(明治二十九年九月二十九日)抄録  
 第四條 實務修習試驗委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織ス  
 第五條 實務修習試驗委員長ハ委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ綜理ス  
 第六條 實務修習試驗委員長及試驗委員ハ陸軍省法官部理事若クハ師團法官部理事ノ中ヨリ其附屬ノ書記ハ陸軍省法官部書記若クハ師團法官部書記ノ中ヨリ試驗ヲ行フ毎ニ陸軍大臣之ヲ命ス  
 第十六條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ試驗ノ成績ニ對スル委員過半數ノ意見ニ從ヒ之ヲ決ス  
 及第落第ニ就テノ意見數相半スルトキハ落第者ト看做スヘシ  
 第十七條 試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其ノ試驗成績ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

○司法省令第十八號

大分地方裁判所管内豆田區裁判所森出張所管轄玖珠郡野上村大字右田ヲ同區裁判所町田出張所ノ管轄ニ改メ登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治三十年七月二十六日

司法大臣清浦奎吾

大分豆田	森	玖珠郡ノ内 森町	八幡村	東飯田村	万年村	北山田村
	町田	豊後 玖珠郡ノ内 南山田村	飯田村	野上村		

○逓信省令第二十六號

電信取扱規則第二十五條中「十字」トアルヲ「十五字」ト改正シ來八月一日ヨリ施行ス

明治三十年七月二十六日

逓信大臣子爵野村 靖

〔參照〕

太政官第七號布達電信取扱規則(明治十八年五月七日)抄録  
 第二十五條 歐文ハ一語ハ聯綴十字ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

○大藏省令第十二號

明治二十三年法律第九十一號及明治二十四年法律第四號ニ據リ退隱料及扶助料ヲ受クルモノハ該金受領ノ際本人ノ生存證書ヲ退隱料及扶助料證書ニ添ヘ差出スヘシ

明治三十年七月二十八日

大藏大臣伯爵松方正義

○内務省令第二十二號

府縣出納吏其ノ府縣外ニ於テ府縣稅地方ノ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ所屬長官ヲ經テ其ノ處分ヲ爲スヘキ地ノ府縣出納吏ニ之ヲ囑托スルコトヲ得  
 市參事會町村長其ノ市町村外ニ於テ市町村稅ノ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ其ノ處分ヲ爲スヘキ地ノ市參事會町村長ニ之ヲ囑托スルコトヲ得

明治三十年七月二十九日

内務大臣伯爵樺山資紀



○海軍省令第十五號  
海軍少主計候補生採用試験規則左ノ通改正ス

明治三十年八月二日

海軍大臣侯爵西郷從道

海軍少主計候補生採用試験規則

第一條 海軍高等武官候補生規則第五條ニ依リ海軍少主計候補生タラントスル者ハ願書<sup>第一號</sup>ニ  
履歷書<sup>第二號</sup>ヲ添ヘ告示シタル試験期日十日前マテニ海軍省經理局ニ差出スヘシ

前項ノ試験期日ハ三箇月前ニ告示ス

第二條 試験ヲ受ケントスル者ニハ先ツ身體検査ヲ行ヒ共合格者ニ就キ學術試験ヲ行フ

第三條 學術試験ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

- 一 憲法
- 二 民法
- 三 行政法
- 四 財政學
- 五 經濟學

六 國際法

七 數學<sup>代算術</sup>

以上ノ科目ハ受験者ニ於テ選擇取捨スルコトヲ得ス

第四條 試験ハ分テ筆記試験及口述試験トス

口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第五條 試験合格ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

第六條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケント企タル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其期

明治三十年八月 省令 海軍省第十五號 海軍少主計候補生採用試験規則



ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス試験合格ノ後等ノ事實ヲ發見シタルトキハ其合格ハ無効トス  
試験當日開始ノ時刻ニ出席セサルモノハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス  
第一號書式(用紙美濃紙)

海軍少主計候補生採用試験願

私儀海軍少主計候補生採用試験相受度履歴書相添此段奉願候也

選擇科目 何々

年月日

海軍省經理局長宛

第二號書式(用紙美濃紙)

履歴書

姓 名

何年何月何日生

本籍  
現住所

姓 名 印

何府縣華士族平民  
戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

姓 名 印

何年何月何日生

- 一 祖父母兄弟姉妹(養子ハ其親共ニ之ヲ記スルハ可トス)
- 一本籍(府縣市町村並ニ支庁ニ在ル所ニ記ス)
- 一 現住地(同上)
- 一 教授ヲ受ケタル學校名及其年月(卒業シタルモノハ其年ヲ記ス)
- 一 法律及經濟學ノ教授ヲ受ケタル學校名及其年月(卒業シタルモノハ其年ヲ記ス)
- 一 職業技術等
- 一 官廳會社等ノ職務ニ従事シタル者ハ各其辭令文
- 一 現ニ官廳ニ奉職スル者ハ其官廳名(所屬官署ノ受シテ)
- 一 賞罰ヲ受ケタル者ハ其賞狀及罰文

右者海軍高等武官候補生規則第八條ニ抵觸セス且其出生年月ニ相違無之候也

年月日

何府縣何國何都市區何町村  
市區町村長 何々 姓

名 印

○文部省令第十三號

明治二十五年文部省令第八號尋常師範學校ノ學科及其程度第五條ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治三十年八月二日

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

第五條 學級ハ生徒ノ員數種類等ニ應シテ之ヲ編制シ一學級生徒數ノ最多限ヲ凡四十八トス

〔參照〕

文部省令第八號尋常師範學校ノ學科及其程度(明治二十五年七月十一日)抄錄  
第五條 學級ハ生徒ノ員數種類等ニ應シテ之ヲ編制スヘシ但一學級ノ生徒數ハ凡二十人以上三十人以下タルヘシ

○拓殖務省令第九號

傳染病豫防法第十八條ニ依リ北海道ニ汽車船舶ノ檢疫ヲ施行セントスルトキハ本年七月內務省令第十九號及同第二十號ヲ適用ス

明治三十年八月三日

拓殖務大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

法律第三十六號傳染病豫防法(明治三十年四月一日官報)抄錄  
第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船  
舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得  
船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乗客乗組人ニシテ痲毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ時間  
停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得  
船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ  
相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲テ必要ナル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得  
前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
明治三十年七月內務省令第十九號ハ汽車檢疫規則同第二十號ハ船舶檢疫規則ナリ



○大藏省令第十三號

明治二十五年大藏省令第三號中「貼用シ」以下ヲ「貼用スヘシ」ト改正ス  
明治二十九年大藏省令第六號中第三條ヲ删除ス

大藏大臣伯爵松方正義

〔參照〕

大藏省令第三號(明治二十五年二月八日)

明治二十四年十月勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼用シ署名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ形紋トニカケ消印スヘシ

大藏省令第六號登録税法施行細則(明治二十九年三月三十日)抄録

第三條 貼用シタル印紙ニハ摺類ノ紙面ト印紙ノ形紋トニカケテ其名下ノ印ヲ以テ消印スヘシ

○逓信省令第二十七號

明治三十年勅令第二百五十號千島國後島、同國樺提島、大隅國大島、琉球國八重山島ニ設置スル二等郵便及電信局職員月手當金給與細則ハ明治二十四年逓信省令第七號在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金給與細則ニ依ル

逓信大臣子爵野村 靖

明治三十年八月五日

○農商務省令第十三號

官有森林原野ヲ民有ニ引戻ヲ請フモノハ自今左ノ手續ニ據ル可シ

明治三十年八月六日

農商務大臣伯爵大隈重信

第一條 官有森林原野ニ編入セラレタルモノニシテ民有タルヘキ證左ニ據リ地所又ハ立木竹ノ引戻ヲ請フモノハ官林ニ關シテハ大林區署其他ノ官有地御料地又ハ未定地脫落地ノ民有編入ニ係ルモノハ府縣廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請スヘシ  
申請書ハ別記雛形ニ準據スヘシ

第二條 前條ノ申請アリタルトキハ府縣廳並ニ大林區署ハ所見ヲ具シ六十日以内ニ農商務省ニ進達スヘシ

第三條 農商務省ニ於テ必要アリト認ムルトキハ直接申請人ニ就キ推問ヲ爲スコトアルヘシ

第四條 申請ニ對スル指令ハ府縣廳又ハ大林區署ヲ經テ申請人ニ交付スヘシ

第五條 本令發布以前府縣廳へ出願セシ分ハ本令ニ依リ提出シタル申請ト看做ス

(別記雛形)

何々申請書

住所身分職業

氏

年

名

申請ノ目的物

何、、、、

事實

何、、、、

理由

何、、、、

立證

何、、、、

(證據ハ本書並ニ寫ヲ添付スヘシ)

右申請仕候也

年月日

市町村長 氏 氏 名 名 印 印  
(別紙ヲ以テ具申スルコトヲ得)

農商務大臣宛



○陸軍省令第二十一號  
屯田兵召募規則左ノ通改正ス

明治三十年八月九日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

屯田兵召募規則

- 第一條 屯田兵ハ志願者中召募検査ニ合格シタル者ヨリ所要ノ人員ヲ採用シ毎年四月ニ於テ移任セシム
- 第二條 屯田兵召募ノ區域及其人員ハ移任スヘキ前年之ヲ告示ス
- 第三條 屯田兵ニ採用スヘキ者ハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス
  - 一 年齢満十七歳以上満二十五歳以下以テ算ス以下同シノ者
  - 二 身長五尺以上ノ者
  - 三 但年齢二十歳未満ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上ノ者
  - 四 身體強壯ニシテ兵農ノ動作ニ堪ユル者
  - 五 戸主若クハ移住期迄ニ戸主トナルヘキ者
  - 六 年齢満十五歳以上満六十歳以下ニシテ身體強壯且北海道ニ移任シ志願者ヲ助ケ農業ニ従事スルノ志操確實ナル家族二人以上ヲ有スル者
- 第四條 第三條ノ資格ヲ具フル者ト雖モ左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ採用セス
  - 一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵
  - 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未ダ復權ヲ得サル者並ニ其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者
  - 三 素行修マラサル者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

五 養子ニシテ入籍後第五條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

六 召募區域内ニ本籍ヲ定メ第五條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

第五條 屯田兵志願者ハ第二條ノ告示ニ依リ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書第二書式ノ明細證明書各一通ヲ作り市町村長在テハ區長以下同シニ差出スヘシ

第六條 市町村長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ第二書式ニ照シテ事實ヲ調査シ之カ證明ヲ爲シ聯隊區司令官包含ス以下同シニ差出シ町村長ハ島司 聯隊區司令官ハ更ニ之ヲ審査シ該書類各一通ニ第三書式ノ連名簿ヲ添ヘ九月三十日迄ニ第七師團長ニ送付スヘシ

第七條 聯隊區司令官ハ検査場ヲ定メ検査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ之ヲ町村長ニ達スヘシ  
市町村長ハ検査當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者及其家族中強壯者二名以上第三條第五引經メ検査場ニ出頭シ召募検査ヲ受ケシムヘシ

第八條 召募検査ハ其召募區域内ニ於ケル聯隊區司令官之ヲ行フ  
志願者及其家族ノ検査場往復ニ關スル費用ハ自辨トス

第九條 聯隊區司令官召募検査ヲ終レハ第四書式ノ検査成績連名簿ヲ作り軍醫ノ體格検査表ト共ニ十一月三十日迄ニ到達スル如ク第七師團長ニ送付スヘシ

第十條 第七師團長ハ検査成績連名簿及其他ノ書類ニ就キ審査ヲ爲シ採用者家族中ノ扶助ヲ受クヘキ人員五人以上ニ豫備員及集合地集合期日ヲ定メ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ島司郡市長並ニ町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ告達スヘシ

第十一條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ其家族十五歳以下ト共ニ第五書式ノ誓文ヲ作り市町村長並ニ島司郡長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ



前項ノ誓文ハ聯隊區司令官之ヲ取繼メ第七師團長ニ送付スヘシ

第十二條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ第七師團司令部ヨリ聯隊區司令部ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十三條 屯田兵志願者ニシテ出願後第四條ノ事項ニ該當シ若クハ屯田兵志願者及其家族ニシテ失踪死亡犯罪其他第二書式ノ明細證明書ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ市町村長竝ニ島司郡長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ但其事故屯田兵志願者ニ係ルモノハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ本文ノ例ニ依リ届出ヘシ

第十四條 屯田兵志願者及其家族中ノ強壯者ニシテ召募検査後傷痍若クハ疾病ニ依リ廢疾不具トナリタルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ速ニ市町村長竝ニ島司郡長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十五條 屯田兵志願者ニシテ第十三條第十四條ノ届出ヲ爲ササル者アルトキハ市町村長ハ島司郡長ヲヨリ速ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十六條 第十三條第十四條第十五條ノ届出アルトキハ聯隊區司令官ハ直ニ之ヲ第七師團長ニ通報スヘシ

第十七條 第七師團長第十六條ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其事故第三條ノ資格ヲ缺キ若クハ第四條ノ事項ニ該當スルモノナルトキハ屯田兵採用ノ達ヲ取消シ其缺員ハ豫備員ヲ以テ補充スルモノトス但採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ聯隊區司令官之ヲ返納セシムヘシ

前項缺員補充ノ手續ハ第十條ノ例ニ依ル

第十八條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者若クハ其家族ニシテ疾病其他正當ノ事故ニ依リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ豫定シ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者

ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出テ許可ヲ受クヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ聯隊區司令官ニ届出テ支度料旅費日當及運搬料ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

聯隊區司令官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ之ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十九條 屯田兵移住ニ際シ聯隊區司令官ハ副官若クハ書記ヲシテ集合地ニ派遣シ屯田兵受領委員ニ引渡サシメ且其宿泊乗車乘船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ

第二十條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以內トシ一箇ノ重量ハ九貫目以內トス但左ニ掲クル物件ハ攜帶スルヲ許サス

- 一 容積長サ三尺幅二尺高サ二尺以上ノモノ
- 二 梱包堅固ナラサルモノ又ハ其標識所定ノ式ニ違フモノ
- 三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類
- 四 藥若クハ白ノ類
- 五 危險物
- 六 以上掲クルモノノ外取扱ニ困難ナルモノ

附則

第二十一條 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第一書式 用紙美濃白紙

屯田兵服役願

屯田兵志願ニ付御検査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ可申依テ別紙明細證明書相



明治三十年八月 省令 陸軍省第二十一號 屯田兵召募規則  
 添此段奉願候也  
 年 月 日

族籍(戸主ニアラサルモノハ其子弟等)  
 住地

第七師團長何某殿

右之通願出ニ付取調候處相違無之候也  
 一 志願者戸主ニアラサルトキハ戸主連署スヘシ  
 第二書式甲

何府(縣)何市(郡町(村))長 姓 名 印  
 年 月 日 生  
 何年何箇月

志願者明細證明書		志願者姓 名	
一 何年月日ヨリ何業ニ従事何年間總額目下何々業後何々ニ轉業傍ラ何業ニ従事	二 何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)入學何科卒業(何修業)	三 何年月日ヨリ何年月日迄何學研究(商業)ノ爲メ何所留學(滞在)	四 何年月日ヨリ何官(何職)任免何省府縣廳
財 產	志願者戸主ニアラサルトキハ當時ノ戸主ノ財產	身 元	證 明
建 物	家屋 何棟 土蔵 何棟	一 身代限ノ處分又ハ家資分ケタルコトナシ	二 散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ
右 賣 拂 價 格	約何百何拾圓	三 身代限ノ處分ヲ受ケシモ既ニ負債ノ辨償ヲ終ル	四 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タルコトナシ
土 地	畑田 何町何段何畝何歩 山林 何町何段何畝何歩	五 現今負債ナシ	六 現任何々ノ官職アリト雖モ移任前ニ辨償シ得ル
右 賣 拂 價 格	約何百何拾圓	七 陸海軍現役兵若クハ海軍陸軍後備兵ニアラサル	八 禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
家 財 價 格	約何百何拾圓	九 品行何々 召募區域内ニ本籍ヲ定メ 出願時期迄ニ一箇年ヲ經 過ス 家族中禁錮ノ刑ニ處セラ レタル者ナシ 本人發子ナルトキハ入籍 檢出願時期迄ニ一ケ年ヲ 經過セラレト雖モ屯田兵ニ 採用セラレト欲シテ一 時ヲ經シタルモノト認 ムルヤ否	

第二書式乙

一 履歷財產ハ志願者之ヲ記載シテ差出シ身元證明及參考事項欄内ニハ證明者之ヲ記入ス  
 二 本證明書ハ志願ノ採否ニ關セズ之ヲ返附セサルモノトス

一 何年月日何々ニ依リ賞典何々下賜	一 何年月日何々ノ科ニ依リ何罰申付ラル	一 履歷書ハ最モ精密ニ記載スヘシ	二 書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記スヘシ
右之通候也	年 月 日	志願者 姓 名 印	何府(縣)何市(郡町(村))長 姓 名 印
右之通相違無之ヲ證明ス	年 月 日	何府(縣)何市(郡町(村))長 姓 名 印	本人剛復ナルト酒癖アルトニ依リ時々村吏ヲ罵詈シ云々
一 父某何々ノ際ヲ以テ何年月金何圓貸賜セラル	二 何年月何縣水害ノ際金何圓貸附	財產ハ前記證明ノ如シト雖モ經濟ハ功妙ナラス又慈善義侠ノ風ニ富ムヲ以テ時蓄心ハ稱謝シ云々	本人剛復ナルト酒癖アルトニ依リ時々村吏ヲ罵詈シ云々
項 考 參	一 何年月日何々ノ際ヲ以テ何年月金何圓貸賜セラル	二 何年月何縣水害ノ際金何圓貸附	本人剛復ナルト酒癖アルトニ依リ時々村吏ヲ罵詈シ云々
區 大 中 小	別 男 女	計	

明治三十年八月 省令 陸軍省第二十一號 屯田兵召募規則















但陸軍隊附准士官下士卒埋葬規則並戰時陸軍埋葬規則ヲ廢止ス

明治三十年八月十七日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

陸軍埋葬規則

- 第一條 在隊在職陸軍軍人軍屬並在郷軍人召集中死亡シタルモノ、埋葬ハ本規則ノ定ムル所ニ據ル但臺灣ニ在職スル者並海外ニ鎮戍スル者ヲ除クノ外將校准士官ヲ除ク外並營外居住ノ下士兵卒職工及軍屬ハ特ニ規定ナキモノハ本規則ヲ適用セス
- 第二條 本規則ニ於テ將校以下ノ爲メニ定メタルモノハ同相當官以下ニ適用ス
- 第三條 見習士官、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫、見習軍吏其他ノ將校生徒ハ下士ニ下士生徒及雜卒ハ兵卒ニ軍屬タル高等官ハ將校ニ判任官ハ准士官若クハ下士ニ其他ハ兵卒ニ準ス其階級ニ數等アルモノハ各其相當階級ニ據ル
- 第四條 死體ハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ若シ遺言シテ陸軍埋葬地外ニ葬ルヲ願フ又ハ親族ヨリ引受ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得
- 第五條 死體ハ火葬スルコトヲ得又海上ニ在テハ水葬スルコトアルヘシ但火葬又ハ水葬シタルトキハ必ス遺骨或ハ遺髮ヲ採收シ前條ニ據リ埋葬スルモノトス
- 第六條 凡ソ軍人軍屬戰地ニ於テ死亡シ又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ之ニ起因シ戰地外ニ於テ死亡シタル者ハ陸軍埋葬地ニ葬ルヲ例トス其遺體ヲ親族ニ下附シタルトキト雖モ其墓標ハ第八條ニ據リ建設ス
- 第七條 將校以下前項ニ據リ死亡シタル者ニシテ陸軍埋葬地ニ葬ルヲ得サルトキハ一時假葬シ又ハ合葬スルコトヲ得但後必ス陸軍埋葬地ニ改葬スルモノトス其手續ハ總テ本規則ニ據ル
- 第八條 墓地ハ將校准士官下士兵卒毎ニ區畫ヲ定ムルモノトス但各墳墓ノ坪數ハ第一表ニ據ル

第八條 墳墓ニハ墓標ヲ建設ス其寸法ハ第一表ニ據ル但假葬ニ在テハ適宜ニ其尺度ヲ伸縮スルコトヲ得

第九條 墓標ハ其表面ニ官位勳功爵氏名墓ト記シ左側面ニ死亡ノ年月日ヲ記スヘシ但其後面並右側面ニハ所要ノ碑文ヲ記スルコトヲ得

第十條 陸軍埋葬地ニ葬リタルモノト雖モ親族ヨリ改葬ヲ願フトキハ之ヲ許スコトアルヘシ但傳染病ニ罹リ死亡シタル者ニ在テハ傳染病豫防法ニ據ル

第十一條 將校准士官ヲ除クノ外埋葬後十年ヲ經タルモノハ之ヲ合葬スルコトヲ得

前項ニ據リ合葬シタルトキハ在來ノ墓標ヲ合葬地ニ並列ス但合葬ノ爲メ更ニ墓標ノ建設ヲ要スルモノハ表面ニ陸軍軍人(軍屬)合葬之墓ト記シ右側ヨリ背面ニ連ネ官位勳功爵氏名ヲ列記シ其各氏名ノ左傍ニ死亡ノ年月日ヲ記シ左側面ニハ何年何月何日建ト記スルモノトス

第十二條 前條ニ據リ合葬スル者ノ墓標ハ合葬人員ノ多少ニ據リ適宜ニ之ヲ定ムヘシト雖モ其高サハ第八條ノ規定ニ據ル

第十三條 陸軍埋葬地ノ設ケナキ地ニ在テハ近傍適宜ノ埋葬地ニ假葬シ若クハ火葬トナシ其遺骨或ハ遺髮ヲ收拾シテ後陸軍埋葬地ニ葬ルモノトス

第十四條 前條ニ據リ埋葬シタル者ノ墓標ハ第八條ニ據ル

第十五條 歸省中死亡シタル者ハ埋葬料ヲ其親族ニ下附シテ埋葬セシム

第十六條 陸軍埋葬地ニハ親族故舊ヨリ燈籠水鉢等ノ建設ヲ願フモ之ヲ許サス但寺院等一般ノ墓地ニ埋葬シタルモノハ此限ニアラス

第十七條 死者ヲ歛スルトキハ帽衣袴靴ヲ著セシムルモノトス其親族ノ願ニ據リ死體ヲ引渡ストキハ定則ノ如ク之ヲ歛シ白布ヲ以テ棺上ヲ覆フヘシ其棺柩及白布ノ費用ハ埋葬料ノ内ヨリ支辨シ其殘金ハ親族ニ下附ス



第十八條 死亡シタル者アルトキハ本人所屬部隊校團等ヨリ其病狀竝死亡時刻ヲ勉メテ急速ニ親族へ通報シ若シ死體ノ引受ヲ願フモノハ死亡ノ日ヨリ二日以内ニ死者所屬ノ部隊及校團等ニ願出ツヘキ旨ヲ告ケ其期日以内ニ願出サルトキハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ

死體ハ死亡ノ時ヨリ二日以内ニ埋葬スヘカラス但傳染病等ニ罹リ此期限ヲ待ツヘカラサルモノ又ハ戰時事變ノ際若クハ親族遠隔ノ地ニ在ルモノハ二十四時間ノ後埋葬スルコトヲ得

第十九條 死體ノ引受ヲ願フモノハ前條ノ期日以内ニ通報ヲ受ケタル部隊校團等ニ願書ヲ出スヘシ但傳染病ニ罹リ死亡シタルモノニ在テハ死體引受ノ願書ニ其埋葬等ハ傳染病豫防法ニ據ルヘキ旨ヲ記入スヘシ

死體ヲ引渡ストキハ部隊長又ハ校團長ハ軍醫ノ死亡證書ニ基キ書式ニ據リ埋葬證書ヲ附與スヘシ

第二十條 將校准士官ヲ除ク營外居住ノ下士兵卒ハ本人ノ遺言又ハ親族ヨリ請願スルモノハ陸軍埋葬地ヲ貸與スルヲ得但第七條乃至第十二條及第十六條ヲ適用ス

第二十一條 戰時戰地ニ於ケル死亡者ノ通報ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第一表

將官同相當官	上長官	士官	准士官	下士官	下士兵卒
檢 二間半	同	二間半	同	二間半	同
橫 一間半	同	同	同	同	同
三坪七合五勺	二坪五合	二坪	一坪五合	一坪	間

第二表

將官同相當官	上長官	士官	准士官	下士官	兵卒
高 五尺	同 四尺五寸	同 四尺	同 三尺	同 二尺五寸	同 二尺
方 一尺	同 九寸	同 八寸	同 七寸	同 六寸	同 五寸

(埋葬證書式)

埋葬證書	
族籍	姓名
病名	年齢
死亡年月日	死亡時間
年月日	部隊長姓名印

○逓信省令第二十九號

明治二十八年逓信省令第二號 逓信省鐵道書記補、郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補試驗規則中「逓信省鐵道書記補」ヲ「鐵道書記補」ニ郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補ヲ「逓信書記補」ニ「逓信省鐵道局長」ヲ「鐵道作業局長官」ニ改メ第二條第五項中「通信局」ノ二字ヲ削除シ「逓信省鐵道局」ノ下「郵務局電務局鐵道作業局」ノ十一字ヲ挿入ス

明治三十年八月十九日

逓信大臣子爵野村 靖

○司法省令第十九號

札幌地方裁判所管内石狩國空知郡歌志内村、富良野村ヲ札幌區裁判所龍川登記所ノ管轄トシ登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治三十年八月二十四日

司法大臣清浦奎吾

札幌	札幌	龍川	石狩
		空知郡ノ内	龍川村 奈江村 歌志内村 富良野村
		石狩郡ノ内	樺戸郡ノ内
		新十津川村	
		兩龍郡	



○司法省令第二十號

岡山地方裁判所管内岡山區裁判所高松出張所ヲ賀陽郡足守町ニ移シ足守出張所ト改稱シ同出張所  
管轄同郡庭瀬村眞金村ヲ同區裁判所撫川出張所ノ管轄ニ改メ登記管轄區域表中左ノ通改正ス  
明治三十年八月二十七日  
司法大臣清浦奎吾

岡山	撫川	郡守部	賀陽郡ノ内	眞金村
足守	備中	賀陽郡ノ内	庭瀬村	
備中	足守町	賀陽郡ノ内	高松村	生石村
池田村	菅谷村	菅谷村	福谷村	服部村
				岩田村
				日近村
				阿曾村
				總社町
				大井村
				淺尾村

○文部省令第十四號

明治二十九年文部省令第十二號尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則第八條ニ左ノ一  
項ヲ加ヘ附則第二十條ノ明治三十一年ヲ明治三十六年ト改ム  
明治三十年八月二十七日  
文部大臣侯爵齋藤實

- 左ノ各款ニ記載セル一學科目若クハ數學科目ノ檢定ヲ出願スル者ハ前項ノ檢定手数料ニ關シテ  
ハ其一款ヲ以テ一學科目ト同視ス
- 一 歷史 日本史 萬國史
  - 一 數學 算術代數幾何
  - 一 毛筆畫及用器畫 毛筆畫
  - 一 鉛筆畫及用器畫 鉛筆畫

〔參照〕

文部省令第十二號尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則明治二十九年十二月二日抄錄  
第二十條 本規則第九條檢定學科目中數學ノ試驗ハ明治三十一年以後ニアリテハ算術代數幾何三角法及解析幾何大意檢  
分積分大意マテヲ併セテ出願スルニアラサレハ檢定ヲ行ハス

○遞信省令第三十號

本年六月遞信省令第十五號中左ノ通改正ス

電報發著地名ノ欄

- 一 亞非利加ノ下ヲ「歐羅巴ヲ經過」間ニ
- 一 亞非利加「及」以テ「各」地ヲ「經」間ニ
- 一 太平洋及「下」ヲ「亞非利加」セサル場合「間」ニ

明治三十年九月三日

遞信大臣子爵野村 靖

〔參照〕

遞信省令第十五號(明治三十年六月二十六日)抄錄  
海外電報本邦首尾料左ノ通相定ム

電報發著地名	經過線路	明治三十年七月一日 ヨリ同九月三十日マテ		明治三十年十月一 日以降	
		一語料金	一語料金	一語料金	一語料金
本邦ト歐羅巴(亞非利加及以テ各地方ヲ經)間	島拉日阿斯德線	金貳拾參錢八厘	金貳拾八錢	金貳拾八錢	金貳拾八錢
亞非利加(及以テ各地方ヲ經)間	上海線	金貳拾五錢九厘	金貳拾八錢	金貳拾八錢	金貳拾八錢
本邦ト歐羅巴(亞非利加及以テ各地方ヲ經)間	島拉日阿斯德線	金貳拾五錢九厘	金貳拾八錢	金貳拾八錢	金貳拾八錢
南亞非利加(及以テ各地方ヲ經)間	上海線	金貳拾五錢九厘	金貳拾八錢	金貳拾八錢	金貳拾八錢

○農商務省令第十四號

度量衡器製作、修覆、販賣ノ免許料納入用紙又ハ度量衡器檢定請求書ニ貼用スル登記印紙ハ出願者  
又ハ請求者ニ於テ消印ヲ爲サス當該官廳ニ差出スヘシ當該官廳ハ正當ト認メタル後之ニ消印ヲ付  
スヘシ



但消印ハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ涉ルヲ要ス  
明治三十年九月六日

農商務大臣伯耆大隈重信

○大藏省令第十五號

酒造税法施行規則及自家用酒税法施行規則ニ依ル申請申告等ニ關スル書類ハ第一號乃至第八號樣式ニ準シテ調製シ所轄稅務署ニ提出スヘシ  
從來酒造税法自家用酒税法及混成酒税法ノ施行ニ關シ北海道廳府縣ニ於テ發シタル命令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十年九月七日

樣式

(第一號) 酒類製造免許申請

製造場 所在位置

一 清酒 造石見込高何百何十石

一 濁酒 一何々

右酒類前記製造場ニ於テ製造致度候間免許相成度(會社契約書謄本相添)(登記認可書謄本及假定款謄本相添)此段申請候也

年 月 日

稅務管理局長宛

居所 氏 名 印  
居所 (何々會社員)(何々株式會社發起人) 氏 名 印

(第二號)

酒類製造場移轉免許申請

製造場 所在位置

右ハ何地ニ於テ免許ヲ得酒類製造致居候處今同前記ノ箇所ニ移轉致度候間免許相成度此段申請候也

備考

一 他局管内ニ酒類製造場ヲ移轉セムトスルキハ現在ノ酒類製造場管轄廳ヘ提出スヘシ

二 本號乃至第八號ハ年月日氏名宛名記載方第一號樣式ニ同シ

(第三號)

酒類製造見込石數、製造方法、仕込數及著手時期申告

酒類製造見込石數及製造著手ノ時期左ノ通

一 清酒何百何十石 何年月何日製造著手ノ見込  
此白米何百石 此汲水何百石

一 燒酎何十石 何年月何日製造著手ノ見込  
此原料酒粕何千何百貫匁  
一 何々

酒類製造方法左ノ通

酒母一箇造リ方法

符號	生配水	原料品目量數	使用スル器具名
區分	總箇數	蒸米	米
		米	汲水

清酒一仕込方法

符號	總箇數	原料品目	酒母	添	仲	留	計	使用スル器具名
		蒸米						
		麴米						
		汲水						

此應何石何斗但白米ヨリ何割何歩ノ見込  
此清酒何石何斗但麴ヨリ何割何歩ノ見込  
燒酎一金類溜方法

符號	總箇數	原料品目量數
----	-----	--------

一 釜蒸溜石數何斗何升  
但酒粕十貫匁(清酒一石)ニ對シ何程ノ見込  
右申合候也

備考

一 仕込又ハ蒸溜方法ノ異ナル毎ニ片假名符號ヲ付スルモ  
ノトス

二 濁酒白酒味淋ハ清酒ニ酒精ハ燒酎ニ準シ記載スルモノ  
トス

三 酒造原料品酒類ハ何原料用ト記載スルモノトス

四 見込石數製造方法其他一事項毎ニ分割申告スルヲ妨ケ  
ス

(第四號)

酒類造石稅免除申請

一 何酒造石稅何十何圓

但何年月何日査定濟第何號仕込何酒何石ノ内何石ニ對スル未納造石稅金

右ハ何々(稅法第十二條ニ該當スル事實原因ヲ詳記スヘシ)ニ付造石稅免除相成度此段申請候也

(第五號)

納稅保證物提供書

何縣何市何町何大字何字何

一 田(畑宅地等)何段何畝歩

此地假金何程

何縣何市何町何大字何字何

一家屋瓦葺平屋(土藏二階造等)何坪

此火災被保險金額何程

何證券番號何枚此券面額何程

何月中平均總價格何程

計保證價格何程



右ハ(明治何年度中何酒製造見込石數何百石ノ税金ニ對スル) (明治何年何月何日査定済何酒何百石ニ對スル)納稅保證物トシテ提供候也 (第六號)

納稅保證人認可申請

府縣都市町村番地

何ノ陸

右ハ府縣都市町村番地酒造場ニ於ケル明治何年期中製造酒類全部(取付税)ニ對シ納稅保證人ニ相立テ度候間御認可相成度此段申請候也 (第七號)

納稅保證書

府縣都市町村番地

酒類製造主

何 某

右何某ニ於テ明治何年期中府縣都市町村番地酒類製造場ニ於

○大藏省令第十六號

葉煙草再鑑定規程

第一條 葉煙草專賣法第四條第二項ニ依リ葉煙草ノ品位等級ノ再鑑定ヲ求ムルモノハ鑑定不服ノ要領ヲ具シ所管葉煙草專賣所ニ申出ヘシ

第二條 葉煙草專賣所ハ前條再鑑定ノ申出アリタルトキハ二名以上ノ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシムヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クモ其ノ半數ヲ葉煙草專賣所員以外ヨリ選定スルモノトス

第三條 再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作り再鑑定申出人ニ交付スヘシ

明治三十年九月七日

大藏大臣伯爵松方正義

ケル製造酒類全部(取付税)ニ對シ自分納稅保證人ニ相立テ候依テ此證書提供候也 (第八號)

自家用酒製造免許申請

居所

氏 名

直接國稅納額拾圓未満(五圓未満)

一何酒何程

製造時期何々

製造方法一仕込(一釜)ニ付

一何何程

一何何程

一何何程

右自家用トシテ製造致度自家酒稅法第五條第一項ニ該當スル者ニ無之候間免許相成度此段申請候也

○大藏省令第十七號

煙草仲買人及葉煙草耕作者葉煙草納付規程

第一條 煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ニシテ葉煙草專賣法施行ノ際葉煙草ヲ所持スル者ハ左ノ期限ニ從ヒ所管葉煙草專賣所ニ納付スヘシ但葉煙草耕作者ニシテ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セシトスルトキハ所管葉煙草專賣所ノ認許ヲ受クヘシ

一煙草仲買人 明治三十一年一月三十一日限

一葉煙草耕作者 明治三十一年三月三十一日限

第二條 煙草仲買人及葉煙草耕作者ヨリ納付スル葉煙草ニ對シテハ大藏大臣定ムル所ノ賠償金ヲ交付ス

第三條 煙草仲買人及葉煙草耕作者納付葉煙草ノ再鑑定ヲ求ムルトキハ明治三十年大藏省令第十六號ヲ準用ス

第四條 葉煙草耕作者ヨリ納付スヘキ葉煙草ニ關シテハ本令ニ規定スルモノ、外葉煙草專賣ニ關スル一般ノ規程ヲ準用ス

明治三十年九月九日

大藏大臣伯爵松方正義

○內務省令第二十五號

本年拓殖務省令第七號勅令第五百五十八號北海道區制及同第五百五十九號北海道一級町村制施行ノ期日ヲ延期ス

明治三十年九月十一日

內務大臣伯爵樺山資紀

○農商務省令第十五號

明治三十年五月農商務省令第四號種牡馬検査法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十年九月 省令

大藏省第十七號 煙草仲買人及葉煙草耕作者葉煙草納付規程 內務省第二十五號 農商務省第十五號



明治三十年九月十四日

農商務大臣伯耆大隈重信

第二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
北海道廳、府縣ノ管下ニ屬スル島嶼ニ於テハ第一項ニ據ラサルコトヲ得  
第八條ニ左ノ一項ヲ加フ  
種牡馬斃死シタルトキハ證明書ヲ添ヘ其旨届出ヘシ

〔參照〕

農商務省令第四號種牡馬検査法施行細則(明治三十年五月十日)抄録

第二條 種牡馬ノ検査ハ地方長官豫メ其期日ヲ告示シ二名以上ノ検査委員之ヲ行フ  
検査委員ハ府縣官吏、獸醫又ハ產馬業ニ經驗アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ス

○農商務省令第十六號

本大臣ニ提出スル左記ノ文書ハ自今地方廳ヲ經由スルヲ要セス

明治三十年九月十四日

農商務大臣伯耆大隈重信

- 一 一般人民及法人其他ノ團體ヨリ提出スル建議書請願書並任意ノ報告書
- 二 一般人民及法人其他ノ團體ヨリ吏員派遣ノ申請書
- 三 産業若クハ技術ニ關スル質問調査並紹介ノ申請書
- 四 獸醫及蹄鐵工免許試驗願
- 五 獸醫及蹄鐵工學校ノ學則認可願
- 六 認可獸醫及蹄鐵工學校ヨリ提出スル文書
- 七 株式會社ヨリ提出スル左記ノ報告  
一 總會ニ於テ認定シタル每事業年度ノ計算書財産目錄貸借對照表事業報告書利息又ハ配當金分配ノ率

二 會社又ハ役員訴訟ノ當事者トナリタルトキ其訴件ノ要旨及年月日

三 前號訴件終了シタルトキ其結果及年月日

八 債券發行ニ關シ株式會社ヨリ提出スル左記ノ届書

一 債權者募集締切ノ年月日

二 募集金額

三 應募金額

四 申込價格ノ最昂、最低及平均

五 募集契約締結ノ最低價格及會社ノ實收スヘキ金額

六 毎年債券拂込高既往累年拂込總高及未拂込高

七 毎年債券償還高既往累年償還總高及未償還高

八 利子仕拂高

九 債券讓渡讓受ノ人員及債金高

十 毎年末期現在債權者ノ員數

九 取引所開業届書

十 取引所仲買人營業免許願及免許狀受書

十一 取引所仲買人免許狀再交付及書換ノ申請書

十二 取引所ヨリ提出スル左記ノ報告

一 毎日公定相場表

二 毎月賣買高表

三 毎月商品集散及商況報告

四 收支豫算表



- 五 每季財產目錄
- 六 每季貸借對照表
- 七 每季損益計算表
- 八 每季季末日現在會員株主仲買人氏名表
- 十三 商業會議所會員役員ノ就任退任屆書

○農商務省令第十七號

明治三十年法律第四十七號重要輸出品同業組合法施行細則左ノ通定

農商務大臣伯耆大隈重信

重要輸出品同業組合法施行細則

- 第一條 組合ノ名稱ニハ同業組合ナル文字ヲ附スヘシ
- 第二條 組合ノ地區ハ郡市以上ノ區域ニ依ルヲ通例トス
- 第三條 組合ノ設置ニ關スル事務ハ地方長官ノ認可ヲ得タル五名以上ノ發起人ニ於テ之ヲ處辨スヘシ
- 重要輸出品同業組合法第十四條ニ依リ組合ノ設置ヲ命シタル場合ニ於テハ地方長官ハ創立委員ヲ選定スヘシ
- 地方長官ハ發起人ヲ認可シ又ハ創立委員ヲ選定シタルトキハ其ノ氏名住所及組合ヲ組織スル營業ノ種類並組合ノ地區ヲ管內ニ告示スヘシ
- 第四條 發起人ハ地方長官ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ組合創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ選舉シ左ノ書類ヲ添附シテ認可申請ノ手續ヲ爲スヘシ
  - 一 組合ノ設置ヲ必要トスル理由
  - 二 組合ノ目的トスル物品並其ノ最近五箇年間組合地區内ニ於ケル生産製造又ハ販賣ノ數量及

價額

- 三 同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ證明スヘキ書類
- 四 經費ノ概算並徵收法ノ見込
- 第五條 組合ノ設置ヲ命シタル場合ニ於テハ創立委員ハ直ニ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ選舉シ其認可ヲ申請スヘシ
- 第六條 組合創立總會ハ發起人又ハ創立委員ニ於テ其ノ期日ヲ定メ少ナクトモ十四日前ニ公告又ハ其他ノ方法ニ依リ地區内ノ同業者ニ通知シ且地方長官ニ届出ヘシ
- 組合創立總會ハ出席者三分ノ二以上ノ同意ニ依リ議決ヲ爲ス但創立總會ニ出席シ能ハサル者ハ同業者ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第七條 聯合會ノ設置ニ關スル事務ハ各組合ヨリ選出シタル委員ニ於テ之ヲ處辨スヘシ
- 第八條 組合又ハ聯合會ノ定款ニ掲クヘキ事項概ネ左ノ如シ
  - 一 名稱及其ノ事務所ノ位置
  - 二 組合ヲ組織スル營業ノ種類及其ノ地區又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱
  - 三 目的及其ノ業務
  - 四 加入及脱退ニ關スル規程
  - 五 役員ノ資格權限及其ノ選舉ニ關スル規程
  - 六 會議ニ關スル規程
  - 七 會計ニ關スル規程
  - 八 違約者處分ニ關スル規程
  - 九 定款ノ變更ニ關スル規程
  - 十 解散ニ關スル規程



十一 營業品ノ検査ヲ爲ストキハ其ノ規程

第九條 組合又ハ聯合會ノ役員認可申請書ニハ其ノ履歷書ヲ添附スヘシ  
左ニ掲クル者ハ役員トシテ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

一 地區内ニ於テ組合ヲ組織スル營業ニ從事シ一箇年ヲ經サル者

二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪財産ニ對スル罪風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免後二箇年ヲ經サル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ其ノ停止中ノ者

四 復權セサル破産者及家資分散者

第十條 組合又ハ聯合會經費ノ豫算並徴收法ノ認可申請書ハ創立ノ場合ヲ除クノ外毎會計年度二箇月前ニ差出シ經費ノ決算貸借對照表及業務成績ハ毎會計年度後二箇月内ニ報告スヘシ

第十一條 農商務大臣ニ差出スヘキ認可申請ニ關スル文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

○農商務省令第十八號

牛疫檢疫規則左ノ通相定ム

明治三十年九月二十日

農商務大臣伯爵大隈重信

牛疫檢疫規則

第一條 牛疫流行地ヨリ牛羊ヲ搭載シ來ル船舶ニシテ該獸類ヲ陸揚セントスルトキハ檢疫官ノ指揮ニ從フヘシ

皮骨類及其他ノ物品ニシテ牛疫傳播ノ虞アルモノヲ陸揚セントスルトキ亦同シ

第二條 前條ノ獸類ハ檢疫官ニ於テ其所有者所有者ナキトキハ管理人又ハ船長ヲシテ檢疫所ニ送致セシメ必要アルトキハ之ヲ緊留スヘシ

第三條 檢疫所ニ於テ牛疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ヲ發見シタルトキハ檢疫官ハ獸疫豫防法ノ

規定ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一條ニ依リ陸揚シタル物品ニシテ病毒ニ汚染シ若クハ其疑アルモノハ消毒ヲ行フニアラサレハ他ニ移スヘカラス

第四條 檢疫委員ハ獸類ニ於テ牛疫發生ノ虞ナシト認メタルトキハ其所有者所有者ナキトキハ管理人又ハ船長ニ證明書ヲ交付スヘシ

第五條 檢疫所所在地ノ地方長官ハ所屬官吏及獸醫ヲ以テ檢疫官トシ檢疫ヲ行フヘシ

第六條 檢疫施行地及檢疫施行ノ始終ハ其都度告示ス

○內務省令第二十六號

藥劑師化學者及會社等ニシテ醫療用藥品ノ検査證明ヲ業務トスル者ハ藥品ノ性状、品質日本藥局方ニ記載アルモノハ該局方記載ナキモノハ其ノ據ル所ノ外國藥局方ノ所定ニ適合スルモノニアラサレハ試験済印紙ヲ貼付シ又ハ適合ノ證明ヲ與フルコトヲ得ス違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ニハ爾後検査證明ノ業務ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ  
停止禁止ノ命令ニ背キ検査證明ヲ爲シタル者ハ五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

明治三十年九月二十一日

內務大臣伯爵樺山資紀

○文部省令第十五號

明治二十四年文部省令第二十六號尋常師範學校附屬小學校規程第四條但書ヲ改正スルコト左ノ如シ  
但單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ之ヲ徴收セサルコトヲ得

明治三十年九月二十二日

文部大臣侯爵松岡茂昭



〔參照〕

文部省令第二十六號尋常師範學校附屬小學校規程(明治二十四年十一月十七日)抄錄  
第四條但書  
但單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ之ヲ徵收セサルモノトス

○文部省令第十六號

明治二十九年文部省令第二號中央氣象臺氣象通報規程第三條第五條及第八條中通報依頼書式ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治三十年九月二十九日

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

第三條 氣象通報一回ノ手数料金額ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ定ム  
但暴風警報ハ警戒及解除ノ通報ヲ併セテ一回トス

種別	普通電報ヲ以テ通報スル料金	至急電報ヲ以テ通報スル料金
氣象區天氣豫報	金貳拾錢	金四拾錢
同上高低氣壓ノ位置及氣壓度付	金參拾錢	金六拾錢
東京地方天氣豫報	金貳拾錢	金四拾錢
全國天氣實況	金七拾錢	金壹圓四拾錢
暴風警報	金參拾五錢	金九拾錢

第五條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ規程シタル事項ノ外依頼ニ應セス但測候所若クハ官廳等ノ依頼ニ限り特別ノ通報ヲ爲スコトアルヘシ其手数料ハ中央氣象臺長ノ定ムル所ニ依ル書式(用紙美濃紙但一葉一種ニ限ル)

通報依頼書

愛知縣  
ヲ指シテ

一 通報種別

- 一 通報期限
  - 一 電報種類
  - 一 届先
  - 一 最近電信局
  - 一 最近電信局マテノ距離
  - 一 別便若クハ解船配達
  - 一 右通報相成度及御依頼候也
- 年 月 日

中央氣象臺長氏名殿

依頼者 住所氏 名印

〔參照〕

文部省令第二號中央氣象臺氣象通報規程(明治二十九年三月七日)抄錄  
第三條 氣象通報手数料ノ金額ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ定ム

種別	普通電報ヲ以テ通報スル一分料金	至急電報ヲ以テ通報スル一分料金
氣象區天氣豫報	金貳拾錢	金四拾錢

(以下各欄其本文ニ同シ)

第五條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ規定シタル事項ノ外依頼ニ應セス但測候所ノ依頼ニ限り特別ノ通報ヲ爲スコトアルヘシ其手数料ハ中央氣象臺長ノ定ムル所ニ依ル

○文部省令第十七號



明治二十九年文部省令第三號中央氣象臺氣象器械檢定規程第十條中氣象器械檢定依頼書式ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治三十年九月二十九日

文部大臣侯爵峰須賀茂韶

第一書式(用紙美濃紙但一葉一器ニ限ル)

檢定依頼書

右檢定相成度及御依頼候也

器械附刻ノ番號

何國何某製

中央氣象臺長氏名殿

依頼者 住所氏 名印

第二書式(用紙美濃紙但一葉一器ニ限ル)

檢定依頼書

右檢定相成度及御依頼候也

器械附刻ノ番號

何國何某製

中央氣象臺長氏名殿

依頼者 住所氏 名印

第三書式(用紙美濃紙)

檢定證再度交付依頼書

右紛失ニ付再度交付相成度及御依頼候也

檢定證

何國何某製

中央氣象臺長氏名殿

依頼者 住所氏 名印

○陸軍省令第二十三號

明治三十年陸軍省告示第九號及第十八號ニ依リ同三十一年移住セシムヘキ屯田兵志願者ニ限リ屯田兵召募規則第五條ノ願書差出期日ハ十一月十五日迄同第六條ノ書類送付期日ハ十二月十五日迄同第九條ノ書類送付期日ハ翌年一月三十一日迄トス

明治三十年十月二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

○陸軍省令第二十四號

陸軍召募規則中左ノ通改正ス

明治三十年十月四日

陸軍大臣子爵高島綱之助

第二條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官及諸生徒ノ召募人員ハ其ノ時時之ヲ告達ス

第二十三條中「四月九日十日ノ兩日ニ」ヲ「四月六日ヨリ」ニ改ム

第二十四條中「十二月三十一日」ヲ「十一月三十日」ニ改ム

第二十五條中「一月三十一日迄ニ」府縣知事ニ差出シ「府縣知事ハ二月十日迄ニ之ヲ師團長ニ送付ス

ヘシ」ヲ「一月十日迄ニ師團長ニ差出スヘシ」ニ改ム

第二十八條中「府縣知事ヲ經テ」ノ七字ヲ削ル

第二十一條中「府縣知事」ヲ「郡市長」ニ送付セシ」ヲ差出シタル」ニ「二月二十八日」ヲ「一月三十一日」ニ改ム

改ム

第三十八條中「府縣知事」ノ四字ヲ削ル

第四十一條中「十二月三十一日」ヲ「十一月三十日」ニ改ム

第四十六條中「但」ヲ「其」ニ改メ「其」ノ「二」字ヲ削リ「四尺九寸以上トス」ノ下ニ「但戰死者ノ孤兒ニ

在テハ士官候補生トナル迄ニ身長本文ノ定限ニ達スヘキ見込アル者」ノ三十八字ヲ加フ







附シ六月十五日迄ニ監軍ニ差出スヘシ  
 第九十五條 學科試験ハ聯隊區司令部所在地ニ於テ三月十五日ヨリ同月三十一日迄ノ間ニ之ヲ行フ  
 第九十六條 志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ一月三十一日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出シ市町村長ハ之ヲ調  
 査シ典書證印シテ二月十五日迄ニ聯隊區司令部ニ送付スルヲ要スヘシ  
 願書ニハ其ノ寫字スル兵種ヲ記載シ又便宜上他ノ聯隊區ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ  
 第九十七條 聯隊區司令部ハ前條ノ書類ヲ調査シ志願者ノ人員ヲ二月二十八日迄ニ師團司令部ヲ經テ監軍部ニ報告スヘシ  
 志願者中前條第二項ニ依リ他ノ聯隊區ニ於テ検査ヲ受クヘキ者アルトキハ甲乙兩聯隊區司令部協議ノ上之ヲ許可スヘシ  
 第九十九條 聯隊區司令部検査ヲ終ルハ學科試験ノ答解ニ評點ヲ附シ試験成績表ヲ調製シ之ニ志願者ヨリ差出シタル書類  
 及志願者連名簿ヲ添ヘ答解書類ト共ニ四月三十日迄ニ監軍部ニ差出スヘシ

○内務省令第二十七號

廳 府 縣 集 治 監 土 木 監 督 署

衛生試驗所 血清藥院 痘苗製造所

警察官吏其他内國旅費概則左ノ通告正シ明治三十年十月ヨリ施行ス

內務大臣伯耆權山資紀

明治三十年十月七日

警察官吏其他内國旅費概則

第一條 警視總監警視警部長警部ノ旅費ハ此ノ規則ニ定ムルモノ、外明治三十年勅令第三百三十  
 三號ノ規程ニ依ル  
 第二條 警察署詰又ハ警察分署詰警視警部其ノ管轄内ヲ巡迴スルトキハ普通ノ旅費ヲ給セス左ノ  
 規定ニ依ル但シ特別用務ノ爲メ臨時出張スルトキハ此限ニ在ラス  
 一 陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十海里未滿ノ巡迴ハ宿泊シタルトキニ限り夜數ニ應シ警視ハ  
 一圓警部ハ七十錢ノ宿泊料ヲ給ス  
 一 陸路六里以上汽車十哩以上水路十海里以上ノ巡迴ハ宿泊料ノ外尙ホ日數ニ應シ警視ハ一圓警  
 部ハ五十錢ノ日當ヲ給ス  
 一 地勢上渡航ニアラサレハ至リ難キ場所ヘ巡迴スルトキハ渡航賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第三條 巡查看守雇員ノ旅費ハ甲號表ニ押丁給仕小使職工等ノ旅費ハ乙號表ニ依ル其ノ支給方ハ

明治三十年勅令第三百三十三號ノ規定ニ依ル

一 巡查持區内ヲ巡迴スルトキハ普通ノ旅費ヲ給セス宿泊シタルトキニ限り夜數ニ應シ宿泊料五  
 十錢ヲ給ス但シ特別ノ用務ノ爲メ臨時出張スルトキハ此限ニ在ラス  
 一 巡查持區内ニシテ地勢上渡航ニアラサレハ至リ難キ場所ヘ巡迴スルトキハ渡航賃ノ實費ヲ支  
 給スルコトヲ得

一 巡查持區内ノ宿泊料ハ特ニ其ノ月額ヲ定メ支給スルコトヲ得

第四條 試補及見習其ノ他官吏ノ待遇ヲ受クルモノ、旅費ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外ハ其ノ

待遇ニ依リ本官相當ノ額ニ依ル其ノ支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル

第五條 華族及有位帶勳者等ヲ公務ニテ旅行セシムルトキハ左ノ規定ニ依ル其ノ支給方ハ明治三

十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル

一 華族及從六位以上勳六等以上ノ者ハ三等旅費其ノ他有位帶勳ノ者ハ四等旅費ヲ給ス

一 一般ノ人民ハ甲號表ニ依ル

第六條 旅費ノ定額ハ地方ノ狀況ニ依リ之レヲ減少シ若クハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

甲號表

汽車賃	二	船賃	三	車馬賃	十	宿泊料	七	日當	三十	食卓料	五十
金	二	金	三	金	十	金	七	金	三十	金	五十

乙號表

汽車賃	一	船賃	二	陸路雜費	六	日當	三十	食卓料	三十
金	一	金	二	金	六	金	三十	金	三十

○内務省令第二十八號

左ノ種目ノ手数料又ハ代價ヲ登記印紙ヲ以テ納ムルトキハ其ノ金額ニ相當スル印紙ヲ願書其ノ他



ノ書類ニ貼用スヘシ

- 一 醫術開業試験手数料
- 一 藥劑師試験手数料
- 一 藥品其ノ他検査手数料
- 一 藥品其ノ他再検査手数料
- 一 醫術開業免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ)
- 一 藥劑師免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ)

前項ニ依リ貼用シタル登記印紙ハ當該官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但出願者又ハ請求者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

明治三十年十月十一日

内務大臣 伯耆權山資紀

○文部省令第十八號

明治二十年文部省令第二號教科用圖書檢定規則第十二條第十五條第十六條ヲ改メ及第十八條ヲ加フルコト左ノ如シ

明治三十年十月十一日

文部大臣 侯爵 須賀茂韶

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ増減若クハ校訂シ又ハ枚數行數字體畫形ヲ變更シ又ハ紙質印刷ヲ粗惡ニシ又ハ註解附錄序跋ヲ加除若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定濟其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ販賣シ又ハ情ヲ知リテ其圖書ヲ受託販賣スルコトヲ得ス

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ二十五圓以内ノ罰金又ハ二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第十八條 同一ノ圖書ニ關シ第十五條ノ犯罪數回ニ涉ルトキハ事宜ニ依リ其圖書ノ檢定效力ヲ取消スコトアルヘシ

〔參照〕

文部省令第二號教科用圖書檢定規則(明治二十年五月七日)抄錄

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ増減若クハ校訂シ又ハ字體畫形ヲ變更シ又ハ註解附錄序跋ヲ加除若クハ變更スル等ノ場合ヲ包含スルモノトス

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定濟其他之ニ類スル文字ヲ記載スルコトヲ得ス

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

○文部省令第十九號

明治二十五年文部省令第十四號師範學校教諭助教諭會監訓導及書記ノ人員ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治三十年十月十一日

文部大臣 侯爵 須賀茂韶

師範學校教諭助教諭會監訓導及書記ノ人員

第一條 教諭助教諭ハ左ノ割合ニ依リテ配置スヘシ

一 生徒四學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ教諭助教諭各專任一人トス但教諭ヲ以テ本文ノ人員ニ充ツルコトハ妨ケナシ

二 生徒五學級以上七學級以下ノ學校ニ於テハ本項第一款ノ割合ニ依リテ定ムヘキ總人員ヨリ教諭若クハ助教諭一人ヲ減シ以上一學級ヲ加フル毎ニ七學級ノ場合ノ定員ニ對シ教諭一人ツ、ヲ増ス

外國語、農業、商業及手工ノ中一科目ヲ課スル毎ニ其ノ科目ノ學級數八學級以下ナルトキハ教諭若クハ助教諭專任一人、九學級以上ナルトキハ同一人ノ割合ヲ以テ前項ノ人員ヲ増スヘシ

第一項ノ教諭助教諭中女教員ノ人員ハ少クトモ女生徒ノ學級數ニ等シキヲ要ス



第二條 舍監ノ人員ハ男子ハ三人以上女子ハ二人以上トス但女子舍監ノ人員ハ適當ノ者ヲ得サル場合ニ於テハ一人ニ減スルコトヲ得

舍監ハ少クトモ一人ハ教諭ヨリ兼任スルモノトス

女生徒ヲ置カサル學校ニ於テハ女子舍監ヲ置カス

第三條 訓導ノ人員ハ附屬小學校ノ學級數ト同數タルヘシ

第四條 書記ノ人員ハ生徒定員百八十八人未滿ノ學校ニ於テハ專任二人以上トシ同百八十八人以上ノ學校ニ於テハ專任三人以上トス

第五條 豫備科、小學校教員講習科又ハ保姆講習科ヲ置クトキハ第一條ノ外適宜教諭助教諭ヲ増スヘシ

第六條 特別ノ事情アルトキハ第一條ノ教諭助教諭ノ人員ヲ増スコトヲ得又助教諭ヲ以テ教諭ニ代フルコトヲ得

第七條 教諭助教諭又ハ訓導タルニ適當ノ候補者ヲ得ルコト能ハサルトキハ豫メ期限ヲ定メ雇教員ヲ以テ第一條ノ教諭助教諭又ハ第三條ノ訓導ニ代フルコトヲ得

第八條 第六條後段及第七條ノ場合ニハ地方長官ハ其事由ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 前諸條ニ定メタル人員ノ外地方長官ハ臨時ノ須要ニ依リ雇員ヲ使用スルコトヲ得

○文部省令第二十號

明治二十五年文部省令第八號師範學校ノ學科及其程度第十條第二教育ノ部「實地授業ニ就キテハ各學科目ノ教員常ニ巡視シテ其適否ヲ批評シ又時々自ラ教授シテ之カ模範ヲ示スヘシ」トアルヲ改正スルコト左ノ如シ

明治三十年十月十一日 文部大臣侯爵須賀茂韶

實地授業ニ就キテハ附屬小學校ニ於テ順次師範生徒ヲシテ兒童ヲ教授セシメ各學科目ノ教員附

屬小學校主事又ハ受持訓導ハ授業ニ當ラサル生徒ヲ率井テ之ニ立會ヒ其授業ヲ監督シテ適否ヲ批評シ又時々自ラ教授シテ之カ模範ヲ示スヘシ

○文部省令第二十一號

師範學校私費生規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十年十月十一日 文部大臣侯爵須賀茂韶

師範學校私費生規則

第一條 師範學校ニ於テ私費生ヲ置カントスルトキハ地方長官ハ其ノ員數ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 私費生ハ文部省令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルモノ、外總テ公費生ト同シキモノトス

第三條 私費生ニ關シ必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第四條 此省令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○陸軍省令第二十五號

陸軍召集諸費支出規程左ノ通改正ス

明治三十年十月十二日 陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍召集諸費支出規程

第一條 本規程ハ充員召集及國民兵召集ニ係ル諸費ノ支出竝ニ演習召集、教育召集及補缺召集ニ係ル旅費ノ支出ニ關スル事ヲ定ム

第二條 充員召集及國民兵召集ニ係ル諸費ハ臨時費ニ屬シ演習召集、教育召集及補缺召集ニ係ル旅費ハ經常費ニ屬ス但充員召集ノ演習ヲ目的トスル演習召集ニ係ル諸費ノ所屬ハ臨時之ヲ定ム

第三條 充員召集及國民兵召集ニ際シ其ノ諸費支出ニ係ル事務ハ晝夜ヲ分タス之ヲ處辨シ其ノ通

明治三十年十月 省令 文部省第二十一號 師範學校私費生規則 陸軍省第二十五號 陸軍召集諸費支出規程 三三七



達ニハ至急官報ノ電信其ノ他確實迅速ノ方法ヲ用フヘシ其ノ使丁ヲ用井ルトキハ一時間ニ一里半ノ速度ヲ以テ基準トス

第四條 前條ノ電信ヲ受領シタル者ハ其ノ電信ノ全文ヲ掲ケ之ヲ確受シタル旨ヲ附記シ至急官報ヲ以テ返信スヘシ

第五條 充員召集及國民兵召集諸費ニ關スル諸部團隊官衙及公署ノ往復書類ハ動ノ字ヲ冠シ之ニ番號ヲ附スルモノトス但必要ニ應シ動ノ字ノ下ニ他ノ文字ヲ加フルコトヲ得

第六條 充員召集及國民兵召集ニ際シ召集諸費ニ係ル文書ノ發送ニハ召集用封筒(第一様式)ヲ用井文書ノ番號、簡數、發簡時刻ヲ記入シ之ヲ受領シタル者ハ其ノ受領時刻ヲ記入シ受領證區畫ニ捺印ノ上返付スヘシ其ノ本人ニ代テ受領シタル者ハ尙ホ自己ノ氏名ヲ附記スヘシ

第七條 充員召集及國民兵召集諸費ノ調査ハ毎年二回トシ各期概算表其ノ施行期 第一回ハ助員年一月三十日迄第二回ハ十二月迄ニ金庫ニ到達セサルトキハ其ノ到達スル迄前期概算表ヲ有效トス一日ヨリ助員年度末日迄

第八條 島司郡市長 東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行ハ聯隊區司令官 警備隊司令官ヨリ受クル所ノ充員名簿、待命員名簿及國民兵召集員配當表ニ依リ充員召集ニ應スヘキ者 待命員ヲ

下同 國民兵召集ニ應スヘキ者、補充兵引率吏員ノ旅費ヲ計算シ尙ホ島司郡長ニ在テハ聯隊區警備隊區ヲ包含ス以下同シ 國民兵集合場ニ派遣スヘキ吏員ノ旅費國民兵引率ノ町村長戸長及之ニ準スヘキ者ノ旅費ヲ市長ニ在テハ國民兵引率吏員ノ旅費ヲ計算シテ召集旅費概算表(第二様式)ヲ作り二月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ五日迄ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第九條 島司郡市長ハ充員召集及國民兵召集ニ際シ召集諸費支給ニ要スル吏員ノ旅費島廳郡市役所 東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行 町村役場、戸長役場及之ニ準スヘキモノニ要スル郵便電信料使丁賃金等ヲ計算シ召集諸費概算表(第三様式)ヲ作り二月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第十條 島司郡市長ハ所管内ニ充員召集員集合場 聯隊區國民兵集合場ヲ設ケラルトキハ其ノ設備ニ要スル諸費ヲ計算シ各費目ヲ區別シ前條ノ諸費概算表ニ記載スヘシ

第十一條 地方長官警視總監ハ充員召集及國民兵召集ニ際シ警察官吏ノ出張旅費並道廳、府縣廳警視廳、警察署、警察分署、巡查駐在所、巡查派出所ニ要スル郵便電信料使丁賃金等ヲ計算シ召集諸費概算表(第四様式)ニ通フ作り二月二十八日迄ニ師團長ニ送付スヘシ

第十二條 聯隊區司令官第八條第九條ノ概算表ヲ受領スルトキハ之ヲ調査シ充員交付官ノ旅費國民兵身體檢査補助醫ノ旅費及手當、聯隊區國民兵集合場設備後ニ要スル諸費、聯隊區國民兵集合場ヨリ國民兵編成地ニ到ル國民兵引率諸費、聯隊區國民兵集合場ヨリ歸郷セムヘキ國民兵見込人員ノ旅費及郵便電信料使丁賃金等ヲ計算シ之ト共ニ一表ニ取纏メ召集諸費概算表(第五様式)ニ通フ作り二月二十八日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

第十三條 諸部團隊長ハ必要ニ應シ郵便電信料使丁賃金等ヲ計算シテ召集諸費概算表(第四様式)ニ準ス(二通)ヲ作り二月二十八日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

憲兵隊長ハ充員召集及國民兵召集ニ際シ憲兵ノ出張旅費並憲兵隊本部、憲兵分隊首部、憲兵分隊支部、憲兵屯所ニ要スル郵便電信料使丁賃金等ヲ計算シ召集諸費概算表(第四様式)ニ準ス(二通)ヲ作り二月二十八日迄ニ師團長ニ送付スヘシ

第十四條 師團長第十一條第十二條ノ概算表ヲ受領スルトキハ之ヲ調査シ充員召集ニ應スヘキ將官同相當官ノ旅費、引率委員ノ集合場ニ到ル旅費、召集事務所ノ諸費、傷痍疾病等ニ依リ諸部團隊及集合場ヨリ歸郷セムヘキ應召員見込人員ノ旅費、充員召集員集合場ヨリ編入部隊ニ到ル引率諸費及郵便電信料使丁賃金等ヲ計算シ之ト共ニ一表ニ取纏メ召集諸費概算表(第三通)ニ通フ第六様式(一通)第七様式(一通)ヲ作り之ニ第十一條第十二條第十三條ノ諸費概算表一通ヲ添



三月十日迄ニ陸軍省ニ差出スヘシ

第十五條 師團長聯隊區司令官ハ召集諸費調査ニ關シ所要ノ事項ハ適時ニ諸部團隊長、憲兵隊長、地方長官、警視總監、島司郡市長ニ通達スヘシ

第十六條 聯隊區司令官ハ十二月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ現役ヨリ豫備役、後備役ニ轉入スヘキ將校下士兵卒並ニ歸休ヲ命セラルヘキ輸卒ノ豫定人名及其ノ召集ニ方リ到着スヘキ地點ヲ十月十日迄ニ島司郡市長ニ通知スヘシ

第十七條 島司郡市長ハ第一期概算表調製後充員名簿、待命員名簿ノ加除訂正及前條ノ通知ニ依リ第二期ノ召集旅費概算表(第二様式)ヲ作り十月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第十八條 聯隊區司令官前條ノ概算表ヲ受領スルトキハ召集諸費概算表(第五様式)ヲ作り十月三十一日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

第十九條 師團長前條ノ概算表ヲ受領スルトキハ召集諸費概算表三通(二通ハ第六様式一通ハ第七様式)ヲ作り十一月十日迄ニ陸軍省ニ差出スヘシ

第二十條 陸軍省ハ第十四條第十九條各師團ノ召集諸費概算表ヲ調査シテ大藏省ニ送付シ當該師團監督部長ニ下付ス

師團監督部長ヲ召集諸費ノ仕拂命令官トス

第二十一條 出納官吏 現金前渡ヲ受ケルハ師團司令部聯隊區司令部警備隊司令部ヲ諸部團隊長、憲兵隊長、道廳府縣廳警視廳ノ主任官及島司郡市長トス但師團長必要ト認ムルトキハ尙ホ島廳書記、郡書記、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ分任出納官吏分任現金前渡ヲ受ケノ職務ヲ執ラシメ若クハ警察官吏、町村長、戸長及之ニ準スヘキ者ニ出納官吏又ハ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

前項但書出納官吏分任出納官吏ノ任命ハ地方長官若クハ警視總監ニ於テスヘシ

第二十二條 出納官吏ノ召集諸費支給擔任ノ區分左ノ如シ

一 師團司令部出納官吏 第三十四條第二項ノ郵便電信料使丁賃金等但必要ニ應ジ他ノ官吏又ハ公吏諸費師團外ノ官吏並ニ在アハ前條ニ依ル者

二 諸部團隊出納官吏 電信料使丁賃金等但必要ニ應ジ他ノ官吏又ハ公吏ニ分任スルコトヲ得

三 聯隊區司令部出納官吏 電信料使丁賃金等但必要ニ應ジ他ノ官吏又ハ公吏ニ分任スルコトヲ得

四 憲兵隊出納官吏 憲兵出張旅費郵便電信料使丁賃金等但必要ニ應ジ他ノ官吏又ハ公吏ニ分任スルコトヲ得

五 道廳府縣廳警視廳所轄出納官吏 充員召集ニ應スヘキ者國民兵召集ニ應スヘキ

第二十三條 憲兵隊長、地方長官、警視總監ハ召集諸費前渡ヲ受ケヘキ官吏及公吏ノ官(職)氏名ヲ師團長ニ通知スヘシ師團長ハ之ヲ當該仕拂命令官及聯隊區司令官ニ通達シ大藏省ニ報告スヘシ

爾後異動アルトキ亦同シ

第二十四條 師團長ハ平時ニ於テ召集諸費仕拂請求書ヲ作り置クヘシ

第二十五條 仕拂命令官ハ平時ニ於テ爲シ得ル限リ仕拂命令發行ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二十六條 地方長官ハ平時ニ於テ召集旅費支給場ノ位置及其ノ支給場ニ於テ支給スヘキ地方區域ヲ管内ニ告示スヘシ

第二十七條 島司郡市長ハ平時ニ於テ召集旅費支給區分表(第八様式)二通ヲ作り一通ハ旅費計算ノ用ニ供シ一通ハ聯隊區司令官ニ送付スヘシ爾後異動アル毎ニ訂正ノ上聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十八條 聯隊區司令官前條ノ區分表ヲ受領スルトキハ之ヲ一表ニ製シ(第八様式ニ準ス)應召員ヲ編入スヘキ諸部團隊長ニ送付スヘシ但前條但書ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ都度通知スヘシ



他ノ師團ノ諸部團隊長ニ送付スルモノハ必要ノ部分ノミヲ掲グルコトヲ得

第二十九條 諸部團隊長前條ノ區分表ヲ受領スルトキハ之ヲ保管シ應召員歸郷旅費計算ノ用ニ供スヘシ但戰時特設部隊長ニ要スルモノハ動員擔任官ニ於テ準備シ該部隊編成ノ際同部隊長ニ送付スヘシ

第三十條 召集旅費ノ支給ヲ爲スヘキ官吏及公吏ハ平時ニ於テ召集旅費受領證書(第九樣式)ヲ作り置クヘシ

第三十一條 陸軍省ハ平時ニ於テ召集諸費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ作り置キ充員召集若クハ國民兵召集ニ際シ其ノ要求書ハ大藏省ニ提出シ同省ヨリ裁定濟ノ通知ヲ得テ即時當該師團長及仕拂命令官ニ令達シ其ノ計算書ハ大藏省會計検査院及師團監督部長ニ送付ス

第三十二條 師團長前條ノ令達ヲ受クルトキハ召集ノ種類ニ應シ召集諸費概算表ノ金額ヲ目途トシ現金前渡ノ仕拂ヲ當該仕拂命令官ニ請求スヘシ

第三十三條 仕拂命令官ハ前條ノ請求ヲ調査シ直ニ仕拂命令ヲ發スヘシ但其ノ所在地外ノ出納官吏又ハ分任出納官吏ニ對シ電信ノ便アルモノハ必ス電信送金ト爲スヲ要ス

第三十四條 出納官吏及分任出納官吏前條ノ仕拂命令ヲ受クルトキハ現金ヲ受領シ所要ノ仕拂ヲ爲スヘシ其ノ召集ニ應スヘキ者ニ旅費支給ヲ爲ストキハ受領證書氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ若シ印章ヲ携帶セサル者アルトキハ捺印セシムルモ妨ナシ

第三十五條 出納官吏ハ召集終ルトキハ會計検査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證書類ヲ師團司令部ヲ經テ仕拂命令官ニ送付スヘシ其ノ仕拂殘金ハ仕拂命令官ノ返納告知書ヲ得テ金庫ニ納付スヘシ

分任出納官吏ノ仕拂計算書及證書類ハ主任出納官吏ニ提出シ該官吏ハ自己ノ計算ニ併算スルモノトス

第三十六條 出納官吏分任出納官吏ニシテ陸軍部外ノ官廳及公署ニ屬スル者事故ニ依リ代理ヲ要スルトキ其ノ代理者ノ命免會計規則第九十一條第九十二條及第九百條ニ依リ要スル検査員立會員若クハ計算書ヲ調製セシムヘキモノノ任命ハ地方長官警視總監ニ於テスヘシ

第三十七條 召集旅費ヲ受領シ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ出發セサル者アルトキハ該旅費ノ徵收ヲ仕拂命令官ヨリ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三十八條 召集ニ應シタル者ニシテ諸部團隊長ニ於テ歸郷ヲ命スヘキ者ノ旅費ハ諸部團隊長ニ於テ支給スヘシ

第三十九條 充員召集ノ演習ヲ目的トスル演習召集ノ諸費支出ノ手續ハ第三條乃至第六條第二十一條第二十二條及第三十二條乃至第三十八條ニ準據シ取扱フヘシ但旅費額ハ諸部團隊長區司令部ニ於テ算定シ

第四十條 演習召集教育召集旅費及其ノ歸郷旅費並補缺召集旅費ハ第二十二條第二十二條及第三十二條乃至第三十八條ニ準據シ取扱フヘシ但旅費額ハ諸部團隊長區司令部ニ於テ算定シ

普通ノ手續ヲ以テ仕拂命令官ニ請求スルモノトス

豫備役後備役將校下士兵卒及第一補充兵ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ニ應スルコトノ許可ヲ受ケタル者並一年志願兵終末試驗及第證書及士官適任證書ヲ所持スル准士官

下士ヲ勤務演習ノ爲メ召集スルトキ之ニ支給スヘキ旅費ノ計算方ハ其ノ現住地ヨリ召集地迄ノ

里程トス但其ノ旅費ハ召集スヘキ隊ノ屬スル師團ニ於テ支給スルモノトス

第四十一條 師團長ハ本規程ヲ實施シ難キトキハ適宜方法ヲ規定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請クヘシ

第四十二條 師團長ハ本規程一部ノ施行ヲ本動員年度末日迄延期スルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ陸軍大臣ニ報告スヘシ



第一様式 召集用封筒

勅 第 號	通	發附時刻	月	日	時	分
	受領時刻	月	日	時	分	
受領證						

勅ノ字ハ朱書スヘ

第二様式

明治何年度 何師管何島(郡市)第何期召集旅費概算表 何府縣何島(郡市役所)

何師團同時充員及國民兵召集ノ部(何師團各別充員ノ部) 何師團充員ノ部

何年何月何日

區 分	旅 費	充 員	召 集	第 一 國 民 兵 召 集	費 金	額 計	支 出	
							官 庫	職 名
將 校							何 官 庫	何 職 名
下 士 兵 卒 補 充 兵							何 官 庫	何 職 名
引 率 吏 員							何 官 庫	何 職 名
派 遣 吏 員							何 官 庫	何 職 名
計							何 官 庫	何 職 名
將 校							何 官 庫	何 職 名
下 士 兵 卒 補 充 兵							何 官 庫	何 職 名
引 率 吏 員							何 官 庫	何 職 名
計							何 官 庫	何 職 名

- 一 師團同時充員トハ師團長ノ勅員計畫主管ニ係ルモノ全部ヲ同時充員スルヲ謂フ、第三第四第五第六様式同シ
- 二 師團各別ニ充員スル計畫ヲ爲ストキハ充員召集第二國民兵召集ノ區畫ニ換アルニ、イ號各別充員召集「ロ號各別充員召集」ノ師團殘部充員召集「ハ號各別充員召集」ノ區畫ヲ設ケ別表ニ作ルヘシ第三第四第五第六様式同シ但各別充員召集ノ符號ニ應スル部隊號ハ備考欄ヲ設ケ之ヲ示スモノトス
- 三 他ノ師團ノ召集ニ應スヘキ者アルトキハ師團毎ニ各別表ニ作ルヘシ第三第四第五第六様式同シ
- 四 應召員ノ旅費ハ本籍地ヨリ編入部隊所在地若クハ集合場迄ノ里程ニ依リ計算スヘシ其ノ陸路海路ニ様アルモノハ陸路ニ依リ計算スヘシ但引率吏員派遣吏員ノ旅費ハ往復里程及滞在日數ニ依リ計算スルモノトス第三第四第五第六様式同シ
- 五 船舶料等實費ヲ支給スルモノニシテ季節ニ依リ金額ニ高低アルモノハ其ノ最高價ヲ以テ計算スヘシ第三第四第五第六様式同シ
- 六 應召員ノ旅費ハ召集ノ種類及一島嶼郡市毎ニ現員ノ十分ノ二ニ當ル金額ヲ加算スヘシ但其ノ金額ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ調査スヘシ
- 七 本表ニ記載スルコト能ハサル事項ハ適宜備考欄ヲ設ケテ記載スヘシ以下諸様式同シ
- 八 引率吏員ハ第二補充兵引率吏員國民兵引率ノ町村長、戸長及之ニ準スヘキモノトス第五様式同シ
- 九 派遣吏員ハ聯隊區國民兵集合場ニ派遣スヘキ吏員トス第五様式同シ
- 十 本表ハ一島嶼郡市ニ二名出納官吏アル場合ノ例ヲ示ス二名以上ノ出納官吏及金庫ヨリ現金直送ノ分任出納官吏アルトキハ其ノ數ニ應シ各區畫ヲ增加シテ記載スヘシ第四第五第六様式モ之ニ準シ各區畫ヲ增加シテ記載スヘシ

第二様式

明治何年度 何師管何島(郡市)召集諸費概算表 何府縣何島(郡市役所)

何師團同時充員召集及國民兵召集ノ部(何師團各別充員ノ部) 何師團充員ノ部

何年何月何日

區 分	旅 費	充 員	召 集	第 一 國 民 兵 召 集	費 金	額 計	支 出	
							官 庫	職 名
將 校							何 官 庫	何 職 名
下 士 兵 卒 補 充 兵							何 官 庫	何 職 名
引 率 吏 員							何 官 庫	何 職 名
派 遣 吏 員							何 官 庫	何 職 名
計							何 官 庫	何 職 名
將 校							何 官 庫	何 職 名
下 士 兵 卒 補 充 兵							何 官 庫	何 職 名
引 率 吏 員							何 官 庫	何 職 名
計							何 官 庫	何 職 名



第四様式

明治何年度 何師管何府(縣)召集諸費概算表									
何師團同時充員召集及國民兵召集ノ部(何師團各別充員ノ部)(何師團充員ノ部)									
縣名		區分		充員召集		第一國民兵召集		計額	
				金		額		支出名庫	
何府(縣)廳		計		吏員出張旅費		郵便電信料		使丁賃金	
何警務署		計		出張旅費		郵便電信料		使丁賃金	
合計		計		何金庫		出納官吏何官			

明治何年度 何師管何縣區第何期召集諸費概算表									
何師團同時充員召集及國民兵召集ノ部(何師團各別充員ノ部)(何師團充員ノ部)									
縣市區		區分		充員召集		第一國民兵召集		計額	
				金		額		支出名庫	
何縣區司令部		計		下士兵卒補充兵		使丁賃金		出納官吏何職	
聯隊區司令部		計		將校		集合場諸費			
合計		計		何金庫		出納官吏何職			

第五様式

明治何年度 第何期召集諸費概算表									
何師團同時充員召集及國民兵召集ノ部(何師團各別充員ノ部)(何師團充員ノ部)									
府縣		市部區隊		充員召集		第一國民兵召集		計額	
				金		額		支出名庫	
何府		何市		何縣區		何縣區		何縣區	
合計		計		何金庫		出納官吏何職			

第六様式

明治何年度 第何期召集諸費概算表									
何師團同時充員召集及國民兵召集ノ部(何師團各別充員ノ部)(何師團充員ノ部)									
府縣		市部區隊		充員召集		第一國民兵召集		計額	
				金		額		支出名庫	
何府		何市		何縣區		何縣區		何縣區	
合計		計		何金庫		出納官吏何職			







第一條 女子高等師範學校本科及官費專修生ハ師範學校女子部、修業年限六箇年ノ官公立高等女學校卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ女子高等師範學校長其ノ中ヨリ試験ノ上選抜スルモノトス但本科生ハ年齢十七年以上二十二年未滿ニシテ夫ヲ有セサル者ニ限ル

第二條 女子高等師範學校本科生ハ毎年一回官費專修生ハ臨時之ヲ募集ス其ノ期日及員數ハ其ノ都度女子高等師範學校長ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノ、外女子高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齢當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 新募生ハ四箇月以内假ニ入學セシメ其ノ資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許可スルモノトス但假入學ノ生徒ハ自費トス

第五條 研究生私費專修生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ女子高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附則

第六條 明治二十六年文部省令第十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

文部省令第十一號(明治二十六年八月五日) 高等師範學校及女子高等師範學校ニ於テ生徒ノ缺員ヲ臨時補充スル必要アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則第一條乃至第三條ノ規程ニ依ラヌ學力年齢當該學級ニ相當ノ資格アル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

○文部省令第二十三號

明治三十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則中改正スルコト左ノ如シ

明治三十年十月十二日

文部大臣侯爵齋藤實茂詔

第一條中「卒業生」ノ上ニ「本科」ノ二字ヲ加ヘ左ノ一項ヲ追加ス

女子高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年トシ其ノ間教職ニ從事スル義務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

第六條中「專修科」ノ上ニ「研究科」ノ三字ヲ加フ

〔參照〕

文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則(明治三十年七月二十一日)抄録

第一條 女子高等師範學校卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其ノ間教職ニ從事スル義務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

第六條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ專修科及撰科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルモノトス

○文部省令第二十四號

明治二十七年文部省令第二十五號女子高等師範學校規程左ノ通改正シ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治三十年十月十二日

文部大臣侯爵齋藤實茂詔

女子高等師範學校規程

第一條 女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科トス

第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、地理、家事體操トス

前項科目ノ外習字、圖畫、音樂ヲ隨意科トス

第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、外國語、地學、數學、物理、化學、博物、家事、圖畫、體操トス

前項科目ノ外習字、音樂ヲ隨意科トス

第四條 女子高等師範學校ノ學科ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教



授スルモノトス

第五條 修業年限ハ四箇年トス

第六條 第四年級生徒ハ附屬學校及幼稚園ニ於テ實地授業及保育ニ從事セシム

第七條 生徒在學中自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第八條 生徒在學中疾病ニ罹リ若クハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

品行修マラサルカ爲ニ退學ヲ命セラレタル者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

第九條 相當ノ學力ヲ有シ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タラントスルノ目的ヲ以テ教育學及教授法等ヲ專修セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設クルコトヲ得

第十條 師範學校女子部及高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

第十條 師範學校女子部及高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

專修科ノ學科目及其ノ程度並ニ修業年限募集人員、入學者資格等ハ其ノ都度文部大臣ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第十一條 師範學校女子部又ハ高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ文科又ハ理科中ノ一科目若クハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

撰科生ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ラス教育學ヲ兼修スルコトヲ要ス

撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

○文部省令第二十五號

文部省ニ於テ編纂スル年報ノ印刷及製本供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條第

一項ノ外尙左ニ掲クル資格ヲ備フルコトヲ要ス

一東京市内ニ於テ印刷及製本ノ工場ヲ有スルコト

明治三十年十月十二日

文部大臣 侯爵 須賀茂韶

○外務省令第四號

明治二十九年外務省令第三號移民保護法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十年十月十四日

外務大臣 伯爵 大隈重信

內務大臣 伯爵 樺山資紀

移民保護法施行細則第五條、第七條、第八條、第十三條及第十六條中、及內務大臣若クハ拓殖務大臣ノ十三字ヲ削ル

〔參照〕

外務省令第三號移民保護法施行細則(明治二十九年五月二十七日)抄録

第五條 移民取扱人タラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官東京府ハヲ經由シ外務大臣及

內務大臣若クハ拓殖務大臣ニ出願スヘシ但シ合名會社ニ於テハ各社員ヨリ合資會社ニ於テハ業務擔當社員ヨリ株式會社ニ於テハ發起人ヨリ出願スヘシ

第七條 移民取扱人ハ左ノ事項ヲ十日以内ニ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官東京府ハヲ經由シ外務大臣及內務大臣若クハ拓殖務大臣ニ届出ツヘシ

第八條 外務大臣及內務大臣若クハ拓殖務大臣ニ於テ不適當ト認メタル者若クハ左ノ事項ノ一ニ該當スル者ハ移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ス

(以上各條中事項書以下略ス)

第十三條 移民保護法第十六條ニ掲クル保證金ハ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官東京府ハニ納付スヘシ

前項保證金額及其ノ増減ハ外務大臣及內務大臣若クハ拓殖務大臣之ヲ定ム

第十六條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ許可ヲ受ケント欲スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添附シ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官東京府ハヲ經由シ外務大臣及內務大臣若クハ拓殖務大臣ニ出願スヘシ(以下略ス)

○外務省令第五號

明治十一年外務省第一號布達海外旅券規則第一條中「開港場管廳ヲ」地方行政廳ト改ム



明治十一年外務省第二號布達及明治二十六年外務省令第二號ヲ廢止ス  
本令ハ明治三十年十一月十五日ヨリ施行ス

外務大臣伯耆大隈重信

〔參照〕

外務省第一號布達海外旅券規則(明治十一年二月二十日)抄録  
第一條 旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ開港場官廳へ願出之ヲ受取ルヘシ右郵便ヲ以テスルモ若シカラ  
ス旅券ヲ受取ラハ直ニ其示シアル所へ當人姓名ヲ自記スヘシ(別紙略ス)

外務省第二號布達(明治十一年三月六日)

本年二月二十日第一號海外旅券規則第一條外務省又ハ開港場官廳ト掲載有之候處朝鮮國へ旅行候者ニ限り左ノ縣島廳へ  
願出旅券受取候テ不苦候條此旨布達候事  
廣島 山口 島根 福岡 鹿兒島 長崎縣對馬島廳

外務省令第二號(明治二十六年九月二十五日)

京都府丹波國宮津港ヨリ露領浦潮斯德及朝鮮國へ渡航スル者ニ限り京都府廳へ願出海外旅券ヲ受クルコトヲ得

○内務省令第二十九號

明治二十四年五月内務省令第三號ハ「コッホ」結核病治療液使用取締方ノ件ナリ

明治二十四年五月内務省令第三號ハ「コッホ」結核病治療液使用取締方ノ件ナリ

内務大臣伯耆樺山資紀

〔參照〕

○内務省令第三十號

徵兵參事員手當並ニ旅費支給規則左ノ通改定シ明治三十年十月ヨリ施行ス

北海道廳 府縣

明治三十年十月二十二日

内務大臣伯耆樺山資紀

徵兵參事員手當並ニ旅費支給規則

一手當金ハ府縣郡市島嶼ヲ問ハス執務セシ日ニ限り一日金壹圓ヲ支給ス

一旅費ハ明治三十年勅令第三百二十三號ノ規程ニ依リ四等旅費ヲ支給ス

〔參照〕

明治三十年七月二十日勅令第三百二十三號ハ内國旅費規則ナリ

○内務省令第三十一號

明治二十五年三月内務省令第二號毒藥劇藥品目劇藥ノ部へ左ノ通追加ス

明治三十年十月二十二日

内務大臣伯耆樺山資紀

コッホ氏ツベルクリン

コッホ氏新ツベルクリン

○陸軍省令第二十六號

陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ海員タル者届出ノ件左ノ通定ム

明治三十年十月二十二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

第一條 陸軍豫備役後備役ニ在ル者及第一第二補充兵ニシテ左ニ掲クル者ハ其ノ雇入ヲ受ケタル  
日ヨリ十四日以内ニ其ノ雇入ヲ公認シタル市町村長又ハ浦役人又ハ領事ノ證明ヲ受ケ其ノ旨ヲ  
本籍聯隊區司令官又ハ警備隊司令官(町村ニ在テハ島ニ届出ヘシ其ノ解雇セラレタルトキ亦同シ  
但區長戸長以外ノ者ニ特ニ浦役人ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ區長戸長ヲ經由スヘシ  
領事又ハ本籍地以外ノ市町村長若クハ浦役人ノ證明ニ係ル者ノ届書ハ本籍島司、郡長及市町村  
長ヲ經由スヘシ

一 海技免狀ヲ有シ西洋形船舶ニ乗組ノ者

二 海員試験規程ニ於テ遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ヲ卒業シ登簿噸數百噸以上若クハ積石數  
千石以上ノ船舶ニ乗組ノ者

三 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ水夫長、舵夫、火夫長、油差

第二條 陸軍後備役ニ在ル者及第二補充兵ニシテ登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ船方、水夫、火夫ニ



- 付テモ亦前條ニ依ル
- 第三條 正當ノ事由ナク第一條第二條ノ届出ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四條 第一條ノ市町村長ハ東京市、京都市、大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長、戸長及之ニ準スヘキ者トス
- 第五條 本令施行以前ヨリ第一條及第二條ノ業ニ従事シ在ル者ハ明治三十年十一月二十日迄ニ第一條ノ例ニ依リ届出ヘシ但外國渡航中ノ者ハ歸朝後領事ノ證明ヲ受クヘ二十一日以内ニ届出ヘシ
- 前項ノ届出ヲ怠ル者ニハ第三條ヲ適用ス

○內務省令第三十二號

明治二十年十月十二日 大藏省令第十七號 徵兵旅費定則左ノ通改正シ明治三十年十月ヨリ施行ス

明治三十年十月二十五日

北海道廳 府縣 內務大臣 伯耆權山資紀

徵兵旅費規則

- 第一條 徵兵旅費ハ檢査入營ノ二種ニ分チ之ヲ支給ス
  - 一 檢査旅費ハ檢丁及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具等ノ者ニ同伴シタル保護人抽籤人等居住地ヨリ檢査所又ハ抽籤所ニ往返ノ旅費トス
  - 一 入營旅費ハ新兵居住地ヨリ營所ニ至ルノ旅費トス
- 第二條 檢査旅費ハ左ノ規定ニ依ル
  - 一 片道三里已上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金參錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
  - 二 官ノ都合ニ依リ特ニ滞在ヲ命シタルトキハ日數ニ應シ滞在日當金貳拾五錢ヲ支給ス

- 三 川留雪支等ニテ旅行途中ニ滞在スルトキハ其地市區町村長戸長及之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當金貳拾五錢ヲ支給スルコトヲ得
- 四 片道三里已上ノ旅行ニシテ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場所若クハ地勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第一號ノ陸路雜費ヲ給セス渡航賃汽車賃ノ下等實費ヲ支給ス
- 五 第四號ノ場合ニ於テハ尙夜數ニ應シ宿泊料金貳拾錢ヲ給ス其ノ徒歩旅行ト跨ル日ハ其ノ徒歩旅行ニ對シテハ第一號ノ陸路雜費ヲ支給ス
- 六 渡航賃及汽車賃ノ實費ヲ給スル場合ニ於テハ下等賄ノ實費ヲ給スルコトヲ得
- 七 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場所ハ渡航賃ノ下等實費ヲ支給スルコトヲ得
- 八 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニ依リ特ニ宿泊ヲ命シタルトキハ夜數ニ應シ宿泊料金貳拾錢ヲ支給ス
- 第三條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具等ニシテ歩行シ能ハサルトキハ第二條第一號陸路雜費ノ外尙ホ片道一里以上ヨリ里數ニ應シ金七錢ノ車馬賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
- 第四條 入營旅費ハ左ノ規定ニ依ル
  - 一 片道三里以上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金五錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
  - 二 第二條ノ第二號乃至第八號ハ入營旅費ニ適用シ滞在日當ハ金參拾錢宿泊料ハ金貳拾五錢トス
  - 三 新兵入營ノ旅行ハ一日十二里詰トシ若シ集合上ノ都合等ニ依リ其見積リ行程ヨリ延著セシメタルトキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス



四 新兵入營旅行中疾病ニ罹リ歩行シ能ハスシテ車馬等ヲ要シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ車馬賃等ノ實費又ハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

○大藏省令第十八號

內閣官報局ニ於テ編纂スル職員錄ノ印刷及製本供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條第一項ノ外尙ホ左ニ掲グル資格ヲ備フルコトヲ要ス

一 東京市内ニ於テ印刷及製本ノ工場ヲ有シ蒸氣機關ヲ備ヘ職工百人以上使役スルコト

明治三十年十月二十五日

大藏大臣伯耆松方正義

○內務省令第三十三號

明治十九年省令第一號中第二號(道幅取擴ノ件)ヲ删除ス

明治三十年十月二十六日

內務大臣伯耆樺山資紀

〔參照〕

明治十九年三月十日 內務省令第一號ハ府縣ニ於テ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘキ條件ナリ

○海軍省令第十六號

主理試補登用試驗規則左ノ通定ス

明治三十年十月二十六日

海軍大臣侯爵西鄉從道

主理試補登用試驗規則

第一條 主理試補登用試驗ハ主理試補登用試驗委員之ヲ行フ

第二條 主理試補登用試驗委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 主理試補ニ採用スヘキ人員試驗場所及期日ハ豫メ官報ヲ以テ公告ス

第四條 主理試補登用試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限

ル但時宜ニ依リ年齡ニ制限ヲ付スルコトアルヘシ

一 官立學校及判事檢事登用試驗規則第五條ニ依リ司法大臣ノ指定シタル公私立ノ學校ニ於テ法律學ヲ卒業シタル者

二 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第五條 理事主理任用令第五條ニ該ル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第六條 試驗志願者ハ書式ニ照シ試驗願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ差出スヘシ

一 履歷書

二 身分年齡及兵役ニ關スル證明書

三 第四條ニ定メタル學科ノ卒業證書寫

四 醫師ノ作レル體格證明書

試驗志願者ハ試驗手数料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ但其ノ手数料ハ登記印紙ヲ用ヒ之ヲ試驗願書ニ貼付スヘシ

手数料ハ試驗願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス

第七條 試驗ハ受験者ノ學識ヲ試驗スルヲ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス

第八條 筆記試驗ハ憲法刑法海軍刑法刑事訴訟法海軍治罪法民法國際公法國際私法ニ就キ之ヲ施行ス

第九條 口述試驗ハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シ前條ニ掲ケタル各法ノ中少クトモ二科目ニ就キ之ヲ施行ス

第十條 試驗合格ヲ定ムル方法ハ試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第十一條 志願者口述試驗ニ闕席シタルトキハ試驗ハ成立タサルモノトス



第十二條 試驗委員長ハ及落者ノ氏名及其ノ試驗成績ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ  
 第十三條 試驗ニ及第シタル者ハ官報ヲ以テ公告シ仍ホ本人ニ通知ス  
 主理試補登用試驗出願書式(用紙美濃紙)  
 試驗願書

印紙

私儀主理試補登用試驗相受度候ニ付主理試補登用試驗規則第六條ニ掲ケル書類相添此段奉願候也

年月日

海軍大臣爵氏名宛

(海軍省若ハ試験委員ヨリ發スル通知書ヲ送付スヘキ宿所ヲ便宜ノ爲メ豫メ現住所外ニ定メ置カントスル者ハ左ノ書式ニ依リ追記スヘシ)

追テ御省若ハ試験委員ヨリ發スル通知書ハ左ノ處へ御發送被成下度候

何府縣何郡市何町村何番地 (何某方)

履歷書

族籍 氏 名 何年何箇月

學事

一何年何月ヨリ何地ニ於テ何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ所修ノ科目大略左ニ云云

一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り法律學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其ノ證書寫竝ニ本校證明書別紙ノ通

職業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何業ヲ營ミ若ハ何業ニ從事ス

一何年何月ヨリ何年何月マテ何地何會社ニ備ハレ何々ノ業務ニ從事ス

官職  
 一何年何月ヨリ何年何月マテ何地官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事ス  
 一何年何月ヨリ何年何月マテ何官職ニ於テ拜命何々ノ事務ニ從事ス其ノ他何々ノ歴任

賞罰  
 一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ賞ヲ受ケ其ノ辭令書寫左ノ如シ  
 (辭令書寫ハ其ノ全文ヲ掲ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ)  
 一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ罰ヲ受ケ其ノ辭令書寫宜告書要領左ノ如シ  
 (辭令書アルモノハ其ノ全文ヲ掲ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ其ノ事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其ノ要領ヲ記シ總テ罰ハ其ノ受罰ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ)  
 破産家資分散又ハ身代限處分ノ有無  
 一何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月負債ノ辨償ヲ終リタルコト又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月復權シタルコト  
 (裁判所ノ申渡書寫ヲ記スヘシ)  
 一破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ  
 右之通相違無之候也

身分證明書

年月日

右 氏 名印 族籍 氏 名 何年何箇月

本籍  
 一何府縣何國何郡市何町村何番地(士)族(平民)月主(何某兄弟伯叔父等)  
 現住所  
 一何府縣何國何郡市何町村何番地(何某方)  
 年 齡  
 一何年何月何日何地ニ於テ出生  
 兵役



一 何年何月何日何々ヲ以テ何兵何職ニ入營何年何月何日何等トナリ何年何月何日現役滿期ヲ以テ預備軍ニ編入若ハ何年何月何日其徵兵署ニ於テ兵役免除等兵役上ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 理事主理任用令第五條ニ觸ルルコトナシ  
右之通相違無之候也

年月日  
右之通相違無之此段證明候也

何府縣何市何町村長 氏 名印  
(本籍地ノ市區町村長ニ限ル)

體格證明書

一 定ノ書式ヲ示ササルニ付相當醫師ニ就キ身體強壯ニシテ從軍ニ堪フヘク且著大ナル斷形等アラサルコトノ證明ヲ受クヘシ  
〔參照〕

勅令第十三號理事主理任用令(明治二十七年二月六日官報)抄錄

第五條 左ノ諸項ノ一ニ該當スル者ハ理事及主理ニ任用スルコトヲ得

一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

○海軍省令第十七號

主理試補出願並實務修習及實務修習試驗規則左ノ通定ム

明治三十年十月二十六日

海軍大臣 侯爵西鄉從道

主理試補出願並實務修習及實務修習試驗規則

第一條 司法官試補タル資格ヲ有スル者ニシテ主理試補タラント欲スル者ハ左ノ書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ願出ヘシ

一 履歷書

二 族籍年齡兵役ニ關スル證明書

三 司法官試補タル得ル證明書

四 明治二十七年勅令第十三號理事主理任用令第五條ノ各項ニ觸レサル證明書

第二條 主理試補ハ海軍省若ハ海軍軍法會議ニ附屬シテ實務ヲ修習セシム

第三條 實務修習ノ監督ハ軍法會議ノ上席主理之ヲ爲ス

第四條 主理試補職務上若ハ職務外ノ行狀其ノ職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其ノ修習ノ進歩不十分ニシテ實務修習試驗ニ及第ノ見込ナキトキハ直接指揮監督者ハ海軍省司法部長ヲ經由シテ

海軍大臣ニ具申スヘシ

海軍大臣前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ主理試補ヲ免スルコトアルヘシ

第五條 試驗ノ場所及期日ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條 實務修習試驗ハ直接指揮監督者ノ具申ニ依リ海軍大臣ハ試驗委員長ヲシテ之ヲ行ハシム

第七條 實務修習試驗ハ主理試補ノ實務ニ練習シタルヤ否ヤヲ試驗スルヲ以テ主タル目的トシ筆記口述ノ二様トス

第八條 筆記試驗ハ試驗委員ヨリ受験者ニ刑法海軍刑法ニ關スル事件二件以上並ニ民事二件以上ノ訴訟書類ヲ付與スヘシ

第九條 受験者ハ付與セラレタル訴訟書類ニ就キ事實及理由ヲ詳示シタル判決書ヲ答案トシテ試驗委員ニ差出スヘシ

答案ハ七日以内ニ之ヲ差出スヘシ此ノ期間内ニ答案ヲ差出サ、ルトキハ試驗ハ成立タサルモノトス

第十條 口述試驗ハ海軍刑法海軍治罪法刑法民法戒嚴令徵發令海軍懲罰令國際公法國際私法ノ中

少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第十一條 左ノ場合ニ於テハ海軍大臣ハ試驗委員長ノ報告ニヨリ試補ヲ免ス



- 一 實務修習試驗ニ及第セサルトキ
- 一 實務修習試驗ノ成立タサルトキ
- 第十二條 前條第二ノ場合ニ於テ試補已ムヲ得サル事故アリシコトヲ陳述シ試驗委員之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ旨ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ
- 海軍大臣前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ其ノ試補ニ一回ヲ限り次期ノ試験マテ引續キ修習ヲナサシムルコトアルヘシ
- 第十三條 主理試補登用試験規則第二條第十條第十一條第十二條ノ規定ハ本令ニ之ヲ適用ス

○海軍省令第十八號

海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造兵學生規則左ノ通定ム

明治三十年十一月五日

海軍大臣侯爵西郷從道

海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造兵學生規則

- 第一條 學生志願ノ者ハ帝國大學總長ヲ經テ願書(書式第一)ニ履歷書(書式第二)並ニ本籍市區町村長ノ證明アル戸籍明細書寫ヲ添ヘ海軍大臣ニ出願スヘシ
- 第二條 學生ヲ選拔スルハ軍醫學生、藥劑學生ニ在テハ海軍省醫務局長、造船學生、造兵學生ニ在テハ海軍省軍務局長、帝國大學總長ト合議シ之ヲ定ム
- 第三條 學生ヲ命セラレタルモノハ帝國大學總長ヲ經テ誓約書(書式第三)及身元引受證書(書式第四)ヲ海軍大臣ニ差出スモノトス
- 第四條 學生ハ帝國大學總長ノ監督ヲ受ケ帝國大學一般ノ規則ヲ遵守スヘシ

書式第一(用紙美濃紙) 海軍軍醫(藥劑)(造船)(造兵)學生採用願

某 圖  
現今何帝國大學何科大學何學科第何年學生ニ候處海軍軍醫(藥劑)(造船)(造兵)學生志願ニ付身體御検査ノ上御採用被成下度別紙履歷書並ニ戸籍明細書寫相添此段奉願候也  
年 月 日

府(縣)郡(市)(區)町(村)番地住	氏	名印
府(縣)郡(市)(區)町(村)番地寄留	氏	名印
府(縣)郡(市)(區)町(村)番地住	氏	名印
府(縣)郡(市)(區)町(村)番地寄留	氏	名印
身元引受人	氏	名印

海軍大臣爵氏名殿







○陸軍省令第二十七號  
馬匹徵發事務規則左ノ通定ム

明治三十年十一月六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

馬匹徵發事務規則  
第一章 總則

- 第一條 此ノ規則ハ動員ノ爲メ師團ニ於テ行フ馬匹徵發ニ關スル準備及實施ノ方法ヲ規定スルモノトス
- 第二條 馬匹ノ徵發ハ附表ニ示ス徵馬管區ニ從テ之レヲ行フ但徵馬管區ヲ變更シタルトキハ其ノ變更シタル日ノ屬スル年度動員年度ヲ指シ内ニ於ケル馬匹ノ徵發ハ舊徵馬管區ニ從テ之レヲ行フ
- 第三條 徵發馬匹ヲ其ノ差出場所ヨリ到著地徵發馬匹ヲ受領スル部隊ニ輸送スル爲メニハ馬匹ノ操業者ヲ徵用ス
- 第四條 馬匹徵發ノ準備及實施ニ關シ官衙公署間送ニ發送スル文書ニハ總テ動馬ノ二字ヲ冠シ官衙公署毎トニ一貫ノ番號ヲ附スルモノトス但此ノ番號ハ動員年度毎トニ更新スルヲ要ス
- 第五條 馬匹徵發ノ實施ニ關シ官衙公署間送ニ發送スル文書ノ封筒ハ徵發用封筒(第一様式)ヲ用ルモノトス
- 前項ノ封筒ハ發送者ニ在テハ之レニ文書ノ番號簡數及發送時刻ヲ記入シ受領者ニ在テハ之レニ受領時刻ヲ記入シ受領證ノ區畫ニ捺印シテ發送者ニ返付スルモノトス

第二章 馬匹徵發ノ準備

第一款 師團司令部ノ行務

- 第六條 師團長ハ毎年馬匹徵發委員及馬匹給養委員ノ編成ヲ定メ將校ハ官氏名下士ハ人員ヲ以テ二月十日到達ノ日ヲ指シ迄ニ之レヲ各部團隊長ニ達スヘシ但馬匹徵發委員ハ徵發馬匹差出場所ノ

數馬匹給養委員ハ徵發馬匹宿泊所ノ數ニ應シ之レヲ設ケ又馬匹徵發委員及馬匹給養委員毎トニ出納官吏一名ヲ指定スルモノトス

馬匹徵發委員ハ徵發馬匹ノ検査及輸送ニ馬匹給養委員ハ徵發馬匹及之レニ屬スル人員ノ給養ニ任セシム

第七條 師團長ハ毎年左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 各部團隊長徵發馬匹到著日割表(第二様式)ヲ調製シ二月十日迄ニ各部團隊長馬匹徵發委員及馬匹給養委員ニ送付スルコト
- 二 各部團隊長徵發馬匹配當表(第三様式)ヲ調製シ二月二十日迄ニ各部團隊長及馬匹徵發委員ニ送付スルコト
- 三 徵發馬匹配當表(第四様式)徵發馬匹差出場所到著日割表(第五様式)ヲ調製シ二月二十日迄ニ郡市長憲兵隊長同分隊長警察署長同分署長及馬匹徵發委員ニ送付スルコト
- 四 徵發馬匹宿泊所表(第六様式)ヲ調製シ二月二十日迄ニ馬匹徵發委員馬匹給養委員並沿道ノ郡市長憲兵隊長同分隊長警察署長同分署長ニ送付スルコト
- 第八條 師團長ハ郡市長ヨリ馬匹調査及検査施行規則第七條ニ規定シタル馬匹出入表ヲ受ケタルトキハ之レニ基キ要スレハ第七條ノ諸表ニ訂正ヲ加フヘシ
- 第九條 師團長ハ徵發馬匹差出場所及徵發馬匹宿泊所ヲ定ムルニハ左ノ規定ニ據ルヘシ
  - 一 徵發馬匹差出場所ハ府縣毎トニ之レヲ設ク但其ノ一府縣内ニ於ケル數ハ馬匹ノ多寡及交通ノ便否等ニ從ヒ之レヲ定ルモノトス
  - 二 徵發馬匹宿泊所ハ徵發馬匹差出場所ヨリ陸路約ネ十里毎トニ之レヲ設クルモノトス
- 第十條 馬匹徵發ニ關シ師團司令部ニ於テハ左ノ書類ヲ準備シ置クヘシ但第八以下ハ馬匹徵發委員用又ハ馬匹給養委員用トス



- 一 各部團隊徵發馬匹到着日割表
  - 二 各部團隊徵發馬匹配當表
  - 三 徵發馬匹配當表
  - 四 徵發馬匹差出場所到着日割表
  - 五 徵發馬匹宿泊所表
  - 六 馬匹徵發書(第七樣式)
  - 七 馬匹徵發通達書(第八樣式)
  - 八 徵發馬匹名簿(第九樣式)
  - 九 徵發馬匹受領證書(第十樣式)
  - 十 徵發馬匹輸送券(第十一樣式)
  - 十一 徵發馬匹發送一覽表(第十二樣式)
  - 十二 徵發馬匹番號札(第十三樣式)
  - 十三 徵發用蹄印(徵發馬匹差出場所毎トニ用ニルいろ等ノ符號)
  - 十四 馬匹價格評定參考書類
  - 十五 徵發用封筒其ノ他必要ノ消耗品
  - 十六 徵發令徵發事務條例及馬匹徵發事務規則
- 第二款 郡市役所ノ行務
- 第十一條 郡長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當表ヲ受ケタルトキハ馬匹調査及檢査施行規則第四條ニ規定シタル馬匹調査表ニ依リ徵發馬匹ヲ町村ニ配當シ又要スレハ同規則第七條ニ規定シタル馬匹出入表ニ依リ其ノ町村ヘノ配當ヲ變更シ其ノ他何時ニテモ神速確實ニ徵發ニ應シ得ヘキ準備ヲナスヘシ

- 市長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當表ヲ受ケタルトキハ馬匹調査及檢査施行規則第三條ニ規定シタル馬匹現在居書又ハ馬匹出入居書ニ依リ何時ニテモ神速確實ニ徵發ニ應シ得ヘキ準備ヲナスヘシ
- 第十二條 郡市長ハ師團長ヨリ受領シタル前年度ノ徵發馬匹配當表徵發馬匹差出場所到着日割表及徵發馬匹宿泊所表ハ毎年四月中ニ之レヲ師團長ニ返付スヘシ
- 第十三條 馬匹徵發ニ關シ郡役所ニ於テハ町村徵發馬匹配當書類町村徵發馬匹差出場所到着日割表及徵發用封筒ヲ市役所ニ於テハ徵發用封筒ヲ準備シ置クヘシ
- 第二款 憲兵隊及警察署ノ行務
- 第十四條 憲兵隊長同分隊長警察署長及同分署長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當表徵發馬匹差出場所到着日割表及徵發馬匹宿泊所表ヲ受ケタルトキハ三月十日迄ニ徵發馬匹差出場所及徵發馬匹宿泊所ノ取締等ニ關シ必要ノ方法ヲ定メ置クヘシ
- 第十五條 憲兵隊長同分隊長警察署長及同分署長ハ師團長ヨリ受領シタル前年度ノ徵發馬匹配當表徵發馬匹差出場所到着日割表及徵發馬匹宿泊所表ハ毎年四月中ニ之レヲ師團長ニ返付スヘシ
- 第三章 馬匹徵發ノ實施
- 第四款 師團司令部並馬匹徵發委員及馬匹給養委員ノ行務
- 第十六條 師團長ハ馬匹ノ徵發ヲ實施セントスルトキハ馬匹徵發書ヲ郡市長ニ馬匹徵發通達書ヲ憲兵隊長 同分隊長警察署長同分署長馬匹徵發委員馬匹給養委員及各部團隊長ニ送付シ且地方長官ニモ通知スヘシ
- 前項書類ノ取扱ハ使丁又ハ至急受信官報ノ電信等確實神速ノ方法ニ依ルヲ要ス
- 第十七條 馬匹徵發委員及馬匹給養委員ハ馬匹徵發實施ノ達ヲ受ケタルトキハ馬匹徵發委員ニ在テハ第十條第八以下ノ書類物品馬匹給養委員ニ在テハ同條第十五及第十六ノ書類物品ヲ受取リ



出納官吏ハ現金前渡ヲ受ケ出發スヘシ

第十八條 馬匹徵發委員ハ徵發馬匹差出場所ニ到着ノ上ハ該差出場所ノ所在地ヲ管轄スル郡市長ト協議シ馬匹徵發ニ關スル諸般ノ設備ヲナシ其ノ事務所ヲ開設スヘシ

第十九條 馬匹徵發委員長ハ部下ヲ検査係ト輸送係トニ分チ検査係ハ馬匹ノ検査ニ輸送係ハ馬匹ノ發送及途中ノ監視ニ從事セシムヘシ

第二十條 馬匹徵發委員長ハ徵發馬匹出場名簿(第十四様式)ニ依リ馬匹ヲ検査シ一頭ノ検査終ル毎トニ合格不合格ヲ該名簿ニ記入シ合格ノ馬匹ハ評價ヲ定メ受領證票及徵發馬匹名簿ニ所要ノ記入ヲナシ受領證票ノ乙號及丙號ヲ郡市長ニ交付スヘシ

採用ト決定シタル馬匹ハ其ノ左蹄ノ外側ニ徵發用ノ蹄印ヲ烙シ頭ニ番號札ヲ結附ケ數回ニ取繼メ徵發馬匹名簿及徵發馬匹輸送券ヲ添ヘテ之レヲ輸送係ニ交付スヘシ

第二十一條 馬匹徵發委員長馬匹輸送ノ順序ヲ定ムルニハ各部團隊徵發馬匹到着日割表ノ日次ニ依ルヘシ

第二十二條 馬匹徵發委員長ハ常ニ各部團隊馬匹充足ノ狀況ヲ明カニスル爲メ馬匹發送ノ都度其ノ日次及馬匹ノ頭數ヲ徵發馬匹發送一覽表ニ記入スヘシ

第二十三條 馬匹徵發委員長ハ徵發事務終了後速ニ馬匹徵發成績表(第十五様式)及馬匹徵發景況書(第十六様式)ヲ調製シ受領證票甲號其ノ他行務ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘテ師團長ニ報告スヘシ

馬匹徵發成績表及馬匹徵發景況書ハ動員完結後其ノ寫ヲ師團長ヨリ陸軍大臣ニ差出スモノトス

第二十四條 馬匹徵發委員長ハ輸送係ヲシテ左ノ手續ヲナサシムヘシ

- 一 馬匹宿泊所ニ到着ノ上ハ徵發馬匹輸送券ヲ馬匹給養委員ニ差出シ該委員ノ指揮ヲ受ルコト
- 二 途中ニ於テ人馬ニ事故ヲ生シタルトキハ其ノ趣ヲ徵發馬匹輸送券摘要ノ區畫ニ記入シ捺印

スルコト

三 到着地ニ到着ノ上ハ馬匹ハ徵發馬匹名簿ヲ添ヘテ部隊長ニ交付シ徵發馬匹輸送券ハ該部隊長ノ捺印ヲ受ケタル上馬匹徵發委員長ニ返納スルコト

第二十五條 馬匹給養委員ハ徵發馬匹宿泊所ニ到着ノ上ハ郡市長ト協議シ人馬ノ宿泊ニ關スル諸般ノ設備ヲナスヘシ

第二十六條 馬匹給養委員ハ輸送係ヨリ徵發馬匹輸送券ヲ差出シタルトキハ人馬ノ員數ヲ點檢シ給養宿泊ニ關スル指揮ヲナスヘシ但此ノ輸送券ハ人馬出發ノ際投宿及出發ノ時刻ヲ摘要ノ區畫ニ記入シ捺印ノ上返付スルモノトス

第二十七條 馬匹給養委員長ハ給養事務終了後速ニ行務景況書將來ニ關スル意見書給養日記其ノ他行務ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘテ師團長ニ報告スヘシ

第五款 郡市役所ノ行務

第二十八條 郡市長ハ師團長ヨリ馬匹徵發書ヲ受ケタルトキハ直ニ徵發事務ニ著手シ徵發馬匹出場名簿ヲ調製シ郡長ニ在テハ町村長ノ調製シタルモノニ基キ調製 該名簿及徵發馬匹差出場所到着日割表ニ依リ馬匹ヲ差出場所ニ差出サシムヘシ

前項ノ徵發馬匹出場名簿ハ一通宛調製シ其ノ一通ハ徵發馬匹差出場所ニ於テ馬匹徵發委員長ニ差出スヘシ

第二十九條 徵發馬匹差出場所ノ所在地ヲ管轄スル郡市長ハ馬匹徵發委員長ノ協議ニ應ジ差出場所ニ關スル諸般ノ設備ニ差支ナカラシムヘシ

第三十條 郡市長ハ徵發馬匹差出場所ニ出張シ検査ニ立會フヘシ

第三十一條 郡市長ハ馬匹徵發委員長ヨリ受領證票乙號及丙號ヲ受ケタルトキハ乙號ハ保管シ丙號ハ馬匹所有者ニ交付スヘシ















備考	總計	何部																			
		(府)				縣				何市											
		計	乘馬	鞍馬	駄馬	計	乘馬	鞍馬	駄馬	計	乘馬	鞍馬	駄馬								

注意 府縣徵發馬匹差出場所應徵郡市及日次ヲ記入スヘキ區畫ハ必要ニ應シ増減スルモノトス

備考	明年度	徵發馬匹宿泊所表				何師團
		宿泊地		輸送馬數		
		送出場所	輸送馬數	輸送馬數	對著地	
		何市(町)(村)	何市(町)(村)	何市(町)(村)	何市(町)(村)	何市(町)(村)
		何市(町)(村)	何市(町)(村)	何市(町)(村)	何市(町)(村)	何市(町)(村)

注意 宿泊地以下ヲ記入スヘキ區畫ハ必要ニ應シ増減スルモノトス

第七様式

動馬第何號  
馬匹徵發書  
馬匹何頭ヲ徵發ス動員第一日ハ何月何日トス  
明治何年何月何日  
郡市長宛  
何師團長爵氏名印

第八様式

動馬第何號  
馬匹徵發通達書  
馬匹徵發ヲ令セリ動員第一日ハ何月何日トス  
明治何年何月何日  
憲兵隊長同分隊長警察署長同分署長馬匹徵發委員  
馬匹給養委員各部團隊長宛  
何師團長爵氏名印

第九様式

徵發馬匹名簿		何部團隊	
名	性	馬種	產地















第十五樣式

注意 用紙ハ罫紙トス

年	齡	體	尺	毛	色	用	役	馬	匹	所	有	者	馬	匹	所	有	者	氏	名
								居		住		町	村						

馬匹徵發成績表

應	徵	郡	市	配	管	馬	數	檢	查	馬	數	合	格	馬	數	採	用	馬	數	合	格	馬	數	ノ	配	管	馬	數	ニ	對	ス	ル	百	分	比	例

備考

注意 應徵都市以下ヲ記入スヘキ區畫ハ必要ニ應シ増減スルモノトス

第十六樣式

馬匹徵發景況書

第一	徵	發	馬	匹	ノ	用	役	ニ	區	別	シ	タル	頭	數																	
第二	徵	發	馬	匹	ノ	年	齡	ニ	區	別	シ	タル	頭	數																	
第三	徵	發	馬	匹	ノ	體	尺	ニ	區	別	シ	タル	頭	數																	
第四	徵	發	馬	匹	ノ	各	用	役	毎	ニ	日	本	種	外	國	種	雜	種	ニ	區	別	シ	タル	頭	數						
第五	徵	發	馬	匹	ノ	檢	査	開	閉	時	間	一	日	間	檢	査	平	均	頭	數	及	一	頭	ニ	對	ス	ル	檢	査	時	間
第六	每	郡	市	徵	發	馬	匹	ノ	最	高	最	低	及	平	均	代	價														
第七	每	郡	市	徵	發	馬	匹	ノ	不	合	格	事	由	ノ	區	別	及	其	ノ	頭	數										
第八	每	郡	市	徵	發	馬	匹	ノ	不	合	格	事	由	ノ	區	別	及	其	ノ	頭	數										
第九	每	郡	市	徵	發	馬	匹	ノ	不	合	格	事	由	ノ	區	別	及	其	ノ	頭	數										
第十	地	方	吏	員	事	務	執	行	ノ	景	況																				
第十一	馬	匹	徵	發	委	員	ノ	組	織	及	分	課																			
第十二	特	來	ニ	關	ス	ル	意	見																							

注意

一 用紙ハ罫紙トス  
二 第二第三第四第六第七及第八ハ各適宜ノ表ニ調製スルモノトス

陸軍省令第二十八號

本年陸軍省令第四號馬匹調査及検査施行規則中左ノ通改正ス

明治三十年十一月六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

一 附表徵馬管區ヲ左ノ通改ム

一 附則第三十二條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加フ

第三十三條 未ダ師團司令部ヲ置カサル管區ニ於ケル師團長ノ職務ハ該司令部ヲ置ク迄第八師團ノ管區ニ在テハ第二師團長第九師團ノ管區ニ在テハ第三師團長第十師團ノ管區ニ在テハ第四師團長第十一師團ノ管區ニ在テハ第五師團長第十二師團ノ管區ニ在テハ第六師團長之ヲ行フ

附表

徵馬管區表

所	管	近	師	第	第	第
道	府	縣	郡	市	區	
栃	木	茨	城	葉	馬	群
千	葉	東	玉	川	山	福
新	島	新	宮	新	宮	新
青	森	三	月	郡	上	北
		郡	下	北	郡	







明治三十年十一月二十日  
所ノ七字ヲ加フ

司法大臣 清浦奎吾

〔参照〕

司法省令第四號裁判所書記登用試験規則(明治二十四年五月十五日)抄録  
第二條 試験ハ各控訴院ニ於テ之ヲ行フ

○内務省令第三十四號

明治二十七年省令第一號ヲ廢止ス

明治三十年十一月二十六日

内務大臣 伯耆樺山資紀

〔参照〕

明治二十七年十月内務省令第一號ハ消防規則施行規則ナリ

○大藏省令第二十一號

明治三十年勅令第二百一十一號葉煙草專賣所官制第二條ニ依リ左表ノ通葉煙草專賣支所ヲ設置ス  
葉煙草專賣支所ニ於ケル事務取扱期節ハ其ノ都度葉煙草專賣所長之ヲ公示ス

明治三十年十一月二十七日

大藏大臣 伯耆松方正義

葉煙草專賣支所名	葉煙草專賣支所名稱	同上	位置
東京葉煙草專賣所	北條葉煙草專賣支所 秋元葉煙草專賣支所 一宮葉煙草專賣支所 野田葉煙草專賣支所 大宮葉煙草專賣支所 小宮葉煙草專賣支所 沼田葉煙草專賣支所	千葉縣安房郡北條町 千葉縣若津郡秋元村 千葉縣長生郡一宮町 千葉縣東葛飾郡野田町 千葉縣東葛飾郡大宮町 千葉縣秩父郡小宮町 群馬縣秩父郡沼田町	
吉井葉煙草專賣所	沼田葉煙草專賣支所	群馬縣利根郡沼田町	
水戸葉煙草專賣所	石原葉煙草專賣支所 長倉葉煙草專賣支所 助川葉煙草專賣支所	茨城縣東茨城郡石原村 茨城縣那珂郡長倉村 茨城縣多賀郡高輪村	
鳥山葉煙草專賣所	北高根葉煙草專賣支所 大子葉煙草專賣支所	栃木縣鹽谷郡北高根村 栃木縣那須郡大子町	
馬頭葉煙草專賣所	東那須野葉煙草專賣支所 小野新町葉煙草專賣支所	栃木縣那須郡東那須野村 栃木縣那須郡小野新町	
大田原葉煙草專賣所	石川葉煙草專賣支所 豐成葉煙草專賣支所 坂下葉煙草專賣支所	福島縣石川郡石川町 福島縣南會津郡豐成村 福島縣南會津郡坂下町	
須賀川葉煙草專賣所	須賀川葉煙草專賣支所	福島縣須賀郡須賀川町	
若松葉煙草專賣所	若松葉煙草專賣支所	宮城縣登米郡米川村	
千厩葉煙草專賣所	千厩葉煙草專賣支所 人首葉煙草專賣支所 三月葉煙草專賣支所	宮城縣登米郡千厩村 宮城縣登米郡人首村 青森縣三戸郡三月町	
大迫葉煙草專賣所	大迫葉煙草專賣支所 秋田縣北秋田郡大迫町	秋田縣北秋田郡大迫町	
増田葉煙草專賣所	増田葉煙草專賣支所 秋田縣西田川郡増田町	秋田縣西田川郡増田町	
東根葉煙草專賣所	東根葉煙草專賣支所 山形縣新田郡東根町	山形縣新田郡東根町	
關原葉煙草專賣所	關原葉煙草專賣支所 新潟縣新潟市大字關原町	新潟縣新潟市大字關原町	
小出葉煙草專賣所	小出葉煙草專賣支所 新潟縣西蒲原郡小出町	新潟縣西蒲原郡小出町	
松本葉煙草專賣所	松本葉煙草專賣支所 長野縣上高井郡小布施村 長野縣東筑摩郡生坂村 長野縣北安曇郡池田町 長野縣下伊那郡上飯田村 長野縣下伊那郡清内路村	長野縣上高井郡小布施村 長野縣東筑摩郡生坂村 長野縣北安曇郡池田町 長野縣下伊那郡上飯田村 長野縣下伊那郡清内路村	
横濱葉煙草專賣所	横濱葉煙草專賣支所 神奈川縣三浦郡長井村	神奈川縣三浦郡長井村	
秦野葉煙草專賣所	秦野葉煙草專賣支所 神奈川縣足柄上郡松田村	神奈川縣足柄上郡松田村	
見付葉煙草專賣所	見付葉煙草專賣支所 靜岡縣濱名郡和地村	靜岡縣濱名郡和地村	
名古屋葉煙草專賣所	名古屋葉煙草專賣支所 岐阜縣岐阜郡岩村町 岐阜縣可兒郡御嵩町 三重縣員辨郡阿下喜町	岐阜縣岐阜郡岩村町 岐阜縣可兒郡御嵩町 三重縣員辨郡阿下喜町	

明治三十年十一月二十七日 大藏省令第二十一號 葉煙草專賣支所名稱位置







白桦葉煙草專賣所	三重葉煙草專賣支所	大分縣大野郡三重村
竹田葉煙草專賣所	四日市葉煙草專賣支所	大分縣宇佐郡四日市町
高千穂葉煙草專賣所	今市葉煙草專賣支所	大分縣西國郡東部町
園分葉煙草專賣所	宮崎葉煙草專賣支所	大分縣大野郡今市村
出水葉煙草專賣所	大分葉煙草專賣支所	宮崎縣宮崎郡宮崎町
鹿兒島葉煙草專賣所	五拾町葉煙草專賣支所	鹿兒島縣伊佐郡大口村
	郡ノ城葉煙草專賣支所	鹿兒島縣薩摩郡若川村
	水俣葉煙草專賣支所	宮崎縣北諸縣郡ノ城町
	添町葉煙草專賣支所	熊本縣北郡水俣村
	加世田葉煙草專賣支所	鹿兒島縣日置郡西市來村
	川内葉煙草專賣支所	鹿兒島縣川邊郡加世田村
	種子島葉煙草專賣支所	鹿兒島縣薩摩郡東水引村
	大島葉煙草專賣支所	鹿兒島縣薩摩郡北種子村
	那覇葉煙草專賣支所	鹿兒島縣大島郡金久村
	宮古葉煙草專賣支所	沖繩縣島尻郡那覇區
	八重山葉煙草專賣支所	沖繩縣宮古郡砂川間切西里村
	志布志葉煙草專賣支所	沖繩縣八重山郡大樽間切登野城村
垂水葉煙草專賣所	小根占葉煙草專賣支所	鹿兒島縣肝煎郡小根占村

○海軍省令第十九號

明治二十九年海軍省令第二號海軍少軍醫少藥劑官少軍醫候補生及少藥劑官候補生採用試驗規則中左ノ通改正ス

明治三十年十二月一日

海軍大臣侯爵西郷從道

「海軍少軍醫少藥劑官少軍醫候補生及少藥劑官候補生採用試驗規則」ヲ「海軍少軍醫少藥劑官少軍醫候補生及少藥劑官候補生採用試驗規則」ニ改メ同則中「少藥劑官」ヲ「少藥劑士」ニ改メ「少藥劑官候補生」ヲ「少藥劑士候補生」ニ改ム

第一條中「任用」ヲ「補充」ニ改メ「海軍高等武官候補生規則」ニ依リ「ノ十四字」ヲ削除ス

第三條學術試驗科目中海軍少軍醫及海軍少藥劑士ノ項各第四ヲ削除シ海軍少軍醫候補生及海軍少藥劑士候補生ノ項各第三中「帝國大學醫科大學卒業ノ者又ハ」ノ十四字ヲ削除ス

第二號書式中「海軍高等武官任用條例第九條」ヲ「海軍高等武官補充條例第十七條」ニ「海軍高等武官候補生規則第八條」ヲ「海軍高等武官補充條例第九條」ニ改ム

〔參照〕

海軍省令第二號海軍少軍醫少藥劑官少軍醫候補生及少藥劑官候補生採用試驗規則(明治二十九年三月九日)抄録

第一條 海軍高等武官任用條例ニ依リ海軍少軍醫若クハ少藥劑官タルトスル者又ハ海軍高等武官候補生規則ニ依リ海軍少軍醫候補生若クハ少藥劑官候補生タルトスル者ハ願書(第一號)ニ附屬書式(第二號)ヲ添ヘ試驗期日十日前マテニ海軍省醫務局ニ差出スヘシ

第三條 學術試驗科目ハ左ノ如シ  
海軍少軍醫

四 和文歐譯 帝國大學醫科大學卒業ノ者ニ行フ

四 和文歐譯 帝國大學醫科大學卒業ノ者ニ行フ

明治三十年十二月 省令 海軍省第十九號



- 海軍少軍醫候補生
- 三 帝國大學醫科大學卒業ノ者又ハ私費外國留學醫學學校卒業ノ者ニシテ醫術開業免狀ヲ有スル者
- 學術試驗科目ハ海軍少軍醫ニ同シ
- 海軍少藥劑官候補生
- 三 帝國大學醫科大學卒業ノ者又ハ私費外國留學藥學科卒業ノ者ニシテ藥劑師免狀ヲ有スル者
- 學術試驗科目ハ海軍少藥劑官ニ同シ

○遞信省令第三十一號

電話交換規則左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日

遞信大臣子爵野村 靖

電話交換規則

第一章 總則

第一條 此規則ニ於テ電話交換局ト稱スルハ電話交換支局ヲ包含ス

第二條 電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ各電話交換局ノ電話加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 電話加入

第三條 電話交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申込書<sup>第一號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書<sup>第二號</sup>ヲ加入申込書ニ添附スヘシ

第四條 電話加入ハ二人以上共同シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 電話交換局ニ於テ加入申込書ヲ受理シタルトキハ電話加入申込原簿ニ登記シ申込順序ヲ申込者ニ通知スヘシ

第六條 電話開通ノ順序ハ加入申込ノ順序ニ據ル但官廳用ニ供スルモノハ其順序ニ據ラサルコト

アルヘシ

第七條 加入申込者電話機ヲ設置スヘキ場所ヲ變更セムトスルトキハ其請求書<sup>第三號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書<sup>第二號</sup>ヲ請求書ニ添附スヘシ

第八條 加入申込者卓上電話機ノ設置ヲ請求セムトスルトキハ其請求書<sup>第四號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者卓上電話機ヲ普通電話機ニ又普通電話機ヲ卓上電話機ニ變更セムトスルトキハ其請求書<sup>第五號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第九條 加入申込者又ハ加入者同一戸内ニ於テ同一機械ノ回線中ニ普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ増設セムトスルトキハ其請求書<sup>第六號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

前項ニ據リ増設シタル普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ撤去セムトスルトキハ其請求書<sup>第七號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十條 加入申込者其申込ヲ取消サムトスルトキハ其請求書<sup>第八號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十一條 加入者ノ加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一年トス但第二十四條ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ開通シタルトキハ該期末日マテノ日數ヲ附加ス

第十二條 加入者其加入ヲ取消サムトスルトキハ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ其請求書<sup>第九號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ此請求ヲ爲ササル者ハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト見做スヘシ

第十三條 加入者其使用ニ供スル電話機及其附屬物品ヲ他ニ移轉セムトスルトキハ其請求書<sup>第三號</sup>ヲ電話交換局ニ差出スヘシ